AD-VirtualConsole
ターゲット側 GUI 詳細説明書

株式会社エー・アンド・デイ

Rev.01.00.00

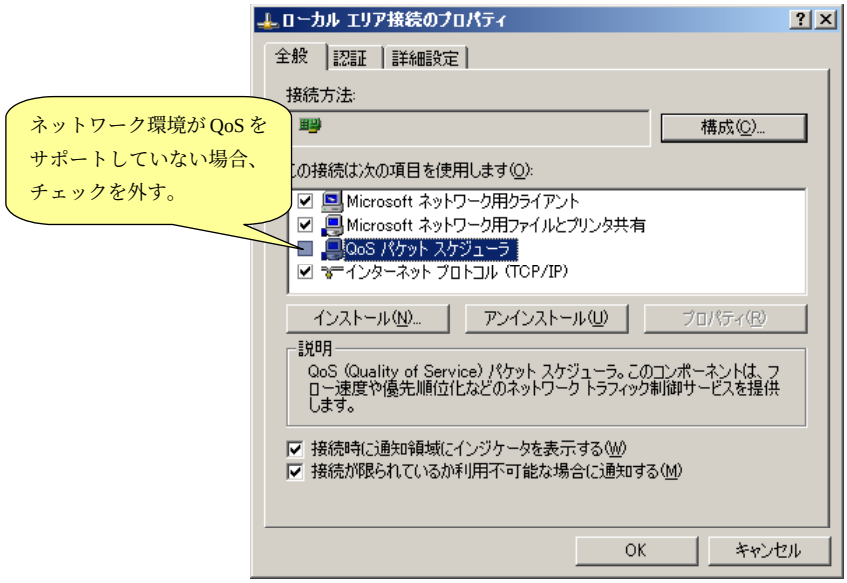
⚠ 本書の取扱

(1) 本書の一部または全てを無断転載することを固くお断りいたします。
(2) 本書の内容は予告なく変更することがあります。
(3) 本書の内容にてご不明な点や記載漏れなどお気づきの点がございましたら、TEL：048(593)7403(A&D 開発推進部)までご連絡下さい。
(4) 弊社では、本機の運用とする損失、損失利益等の請求につきましては(3)項に関わらずいかなる責任も負いかねますのでご了承下さい。
(5) Windows®は株式会社マイクロソフト社の登録商標です。
(6) MATLAB®(及び Simulink®、Stateflow)は The MathWorks™社の登録商標です。

⚠注意

WindowsXP を使用の際のネットワーク設定

ネットワーク環境が QoS をサポートしている場合を除いて、QoS はイネーブルに設定しないで下さい。



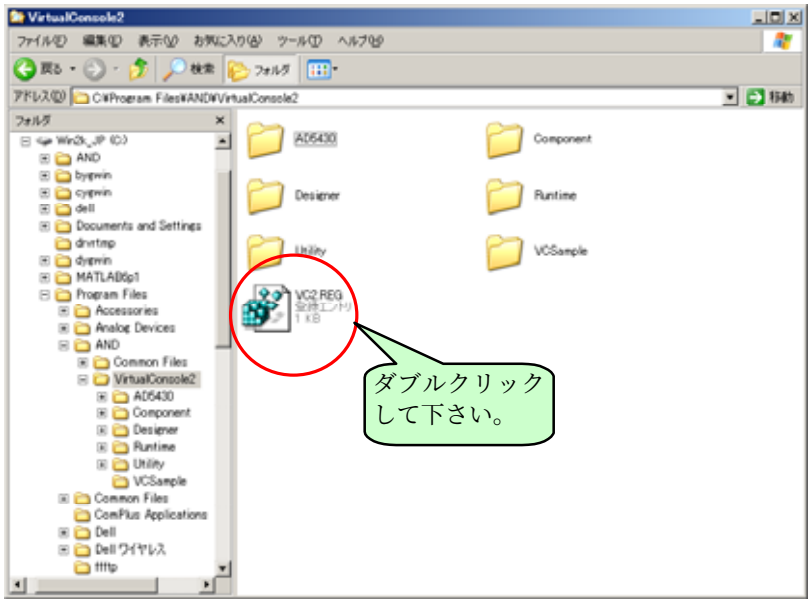
*** QoSがイネーブルになっている場合(WindowsXPのデフォルト設定)、ネットワークチップによっては、通信負荷が異様に高くなることがあり、弊社のAD-VirtualConsoleを使用する際、正常に動作しない恐れがあります。**

AD-VirtualConsole

インストール

S/W のインストールは管理者権限を保持するユーザでログオンして下さい。
インストール/アンインストールの詳細については、各 DSP 製品の取扱説明書をご確認下さい。

管理者権限を持たないローカルユーザーが動作を行う場合は、ログイン後、
『C:¥ProgramFiles￥AND￥VirtualConsole2』フォルダ内の VC2.REG をダブルクリックして下さい。



一度この操作を行えば、次回のログイン時には同じ操作をする必要がなくなります。

モデル名、ブロック名、フォルダ名について

モデル名やブロック名、フォルダ名やその親フォルダ名に日本語や全角文字を使用しないで下さい。
動作不良を起こす恐れがあります。

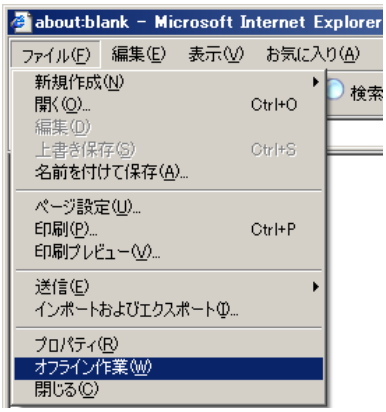
再接続

RT モジュールを動作中、モデル定義ユーティリティでシグナルの『有効/無効』の設定および
モニターフラグ、2D モニターフラグの『ON/OFF』の設定を変更しないで下さい。
この動作を行った場合、RT モジュールに AD-VirtualConsole が再接続した際、
2D モニターデータが別のシグナルのデータを表示してしまいます。

起動時

注意 1

InternetExplorer等のブラウザのファイルメニューにある『オフライン作業(W)』がONになっている場合、
筐体と PC の通信ができません。
ブラウザ設定をご確認下さい。

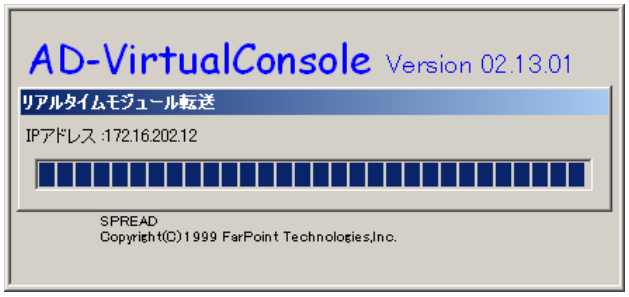


注意 2

VCDesigner 起動時、筐体と通信がオフライン(または、IP アドレスの不整合)であっても GUI の作成が可能です。
以下の様なダイアログが表示されますが、GUI 作成には問題ありません。

注意 3

モジュール転送中(以下の画面を表示中)に筐体の電源を落とさないで下さい。
ハードウェア故障の原因となる恐れがあります。



注意 4

ホスト PC に Virus 対策ソフトがインストールされている場合、AD-VirtualConsole が正常に動作しない場合があります。
Virus 対策ソフトを終了してから AD-VirtualConsole を起動して下さい。

目　次

1. はじめに 1

1.1. システム操作の全体の流れと、その中でのVCの役割 1

2. VCの操作方法 2

2.1. 起動 2

2.2. ツールバーのメニューとボタンについて 3

2.2.1. 各メニューについての説明 3

2.2.1.1. 『ファイル(F)』メニュー 3

ADXファイルの転送 3

2.2.1.2. 『挿入(I)』メニュー 3

ADX専用表示パネル追加 3

ADX専用表示パネルインポート 3

ADXサブパネル追加 3

ADXサブパネルインポート 3

2.2.1.3. 『設定(S)』メニュー 4

ADXシステムパラメータ設定 5

ADXデータ保存の設定… 6

2.2.2. ボタンについての説明 6

2.3. パネルの操作 7

2.3.1. 新規表示パネルの追加 7

2.3.1.1. ADX専用表示パネル追加 7

2.3.1.2. ADXサブパネル追加 8

2.3.1.3. 非表示常駐パネル 9

2.3.2. 既存表示パネルの追加 10

2.3.2.1. ADX専用表示パネルインポート 10

2.3.2.2. ADXサブパネルインポート 10

2.3.3. 既存表示パネルの削除 10

2.3.4. 表示パネルの保存 11

2.3.5. 表示パネルのプロパティ設定 12

2.3.6. 最初のADX表示パネルの指定 13

2.3.7. プロジェクトファイルの保存 13

2.4. コントロールの操作 14

2.4.1. コントロールの追加 14

2.4.2. コントロールのメニュー 14

2.4.3. VCを操作するための基本操作パネル 15

2.5. ADXデータ保存設定 16

2.5.1. ADXデータ保存設定画面 16

2.5.1.1. CSVファイルのデータ保存 17

ファイルタイプ：『CSVファイル』を選択した場合 17

ファイルタイプ：『バイナリファイル』を選択した場合 18

保存通知設定 18

3. ADX用コントロール部品の詳細 19

3.1. ADX専用ツールボックス 19

3.1.1. ADXコントロール共通項目 20

3.1.1.1. 『一般』タブ 20

3.1.1.2. 『タイトル』タブ 21

ボタンコントロールによる『タイトル』タブ設定 21

表示/設定コントロールによる『タイトル』タブ設定 22
3.1.1.3. 『フォーカス』タブ 23
3.1.1.4. 『表示 / 非表示』タブ 24
3.1.1.5. 『有効 / 無効』タブ 25
3.1.1.6. 『処理実行の制御』タブ 26
3.1.1.7. 『ピクチャー』タブ 27
3.1.1.8. 『終了通知設定』タブ 28
3.1.2. ADX用モデル制御ボタン 29
3.1.2.1. 『コマンド』タブ 29
3.1.3. ADXパネル制御ボタン 30
3.1.3.1. 『操作』タブ 30
3.1.4. ADXパラメータ設定ボタン 31
3.1.4.1. 『設定プロパティ』タブ 31
3.1.4.2. 処理実行の制御 33
3.1.5. ADXファイル操作ボタン 34
3.1.5.1. 『ファイル操作』タブ 34
3.1.5.2. 『ファイル指定』タブ 39
データファイルの書式 40
エクスポート定義ファイルの書式 40
パラメータファイルの書式 41
3.1.6. ADXディジタルメータ 42
3.1.6.1. 『ディジタル』タブ 42
3.1.6.2. 『スタイル』タブ 47
文字の表示方法 48
プロパティファイルのフォーマット 49
3.1.7. ADX警報ランプ 51
3.1.7.1. 『ランプ』タブ 51
3.1.7.2. 『一般』タブ 53
3.1.8. ADXエラー表示 54
3.1.8.1. 『エラー表示』タブ 54
3.1.9. ADXピクチャー 55
3.1.9.1. 準備 55
3.1.9.2. 『ピクチャー』タブ 56
3.1.10. ADXラベル 57
3.1.10.1. 『タイトル』タブ 57
3.1.11. ADX数値入力 58
3.1.11.1. 『数値入力』タブ 58
3.1.11.2. 『スタイル』タブ 61
プロパティファイルのフォーマット 63
3.1.11.3. 『アクティブ』タブ 66
3.1.11.4. 『コメント』タブ 67
3.1.11.5. 『フォーカス』タブ 68
3.1.12. ADXテキスト入力 69
3.1.12.1. 『文字入力』タブ 69
3.1.12.2. 『アクティブ』タブ 70
3.1.13. ADXファイル名選択ボタン 71
3.1.13.1. 設定パラメータタブ 71
3.1.13.2. 『フォルダ設定』タブ 72
3.1.13.3. 『ダイアログ設定』タブ 73
3.1.14. ADXサブパネルリンク 74
3.1.14.1. サブパネルの追加方法 74
3.1.14.2. 『サブパネル』タブ 74
3.1.15. ADX複数パラメータ設定ボタン 75
3.1.15.1. 『設定プロパティ』タブ 75
パラメータ定義ファイルの書式 76
構文の内容 76

3.1.15.2. 『処理実行の制御』タブ 84
3.1.16. ADXネットワーク設定 85
3.1.16.1. 『数値入力』タブ 85
3.1.16.2. アクティブタブ 86
3.1.17. ADXレベルメータ 87
3.1.17.1. 『データ』タブ 87
3.1.17.2. 『グラフ型』タブ 88
3.1.17.3. 『色』タブ 90
3.1.18. ADXプッシュスイッチボタン 91
3.1.18.1. 『スイッチ』タブ 91
3.1.19. ADXコンボボックス 92
3.1.19.1. 『コンボボックス』タブ 92
3.1.19.2. 『アクティブ』タブ 94
3.1.20. ADX日付時刻操作 95
3.1.20.1. 『日付時刻操作』タブ 95
3.1.21. ADXLCD制御ボタン 97
3.1.21.1. 『コマンド』タブ 97
3.1.22. ADXトレンドグラフ 98
3.1.22.1. 『配置』タブ 98
3.1.22.2. デザインタブ 99
3.1.22.3. 『X軸』タブ 100
3.1.22.4. 『Y軸』タブ 101
3.1.22.5. 『トレース』タブ 102
3.1.22.6. 『処理実行の制御』タブ 103
3.1.23. ADXシステム操作ボタン 105
3.1.23.1. 『コマンド』タブ 105
3.1.23.2. 『終了通知設定』タブ 107
3.1.24. ADXダイアログ表示ボタン 109
3.1.24.1. 『デザイン』タブ 109
3.1.24.2. 『表示文字列』タブ 110
3.1.24.3. 『設定パラメータ』タブ 111
3.1.25. ADX文字列作成 112
3.1.25.1. 『パラメータ』タブ 112
出力先がパラメータの時 114
出力先がファイルの時 114
『ソース』が固定の時 114
『ソース』がデータの時 114
『ソース』がパラメータの時 114
出力先が『データファイル名』の時 115
3.1.25.2. 『処理実行の制御』タブ 116
3.1.26. ADX用保存データXYグラフ 117
3.1.26.1. 『配置』タブ 117
3.1.26.2. 『デザイン』タブ 118
3.1.26.3. 『軸』タブ 119
リニア時 119
Log時 119
リニア時 120
Log時 120
3.1.26.4. 『スケール』タブ 121
3.1.26.5. 『トレース』タブ 122
3.1.26.6. 『S-Function』タブ 123
3.1.26.7. 『処理実行の制御』タブ 124
3.1.26.8. 『終了通知設定』タブ 125
3.1.27. ADXリストコントロール 126
3.1.27.1. 『データ』タブ 126
3.1.27.2. 『表設定』タブ 127

3.1.27.3. 『セル別設定』タブ 129
3.1.27.4. 『アクティブ』タブ 132
3.1.28. ADXオシロスコープグラフ 133
3.1.28.1. 『配置』タブ 133
3.1.28.2. 『デザイン』タブ 134
3.1.28.3. 『X軸』タブ 135
3.1.28.4. 『Y軸』タブ 136
3.1.28.5. 『トレース』タブ 137
3.1.28.6. 『処理実行の制御』タブ 138

4. タクトボタンのカスタマイズ 139

4.1. パネルキープロパティ設定 140

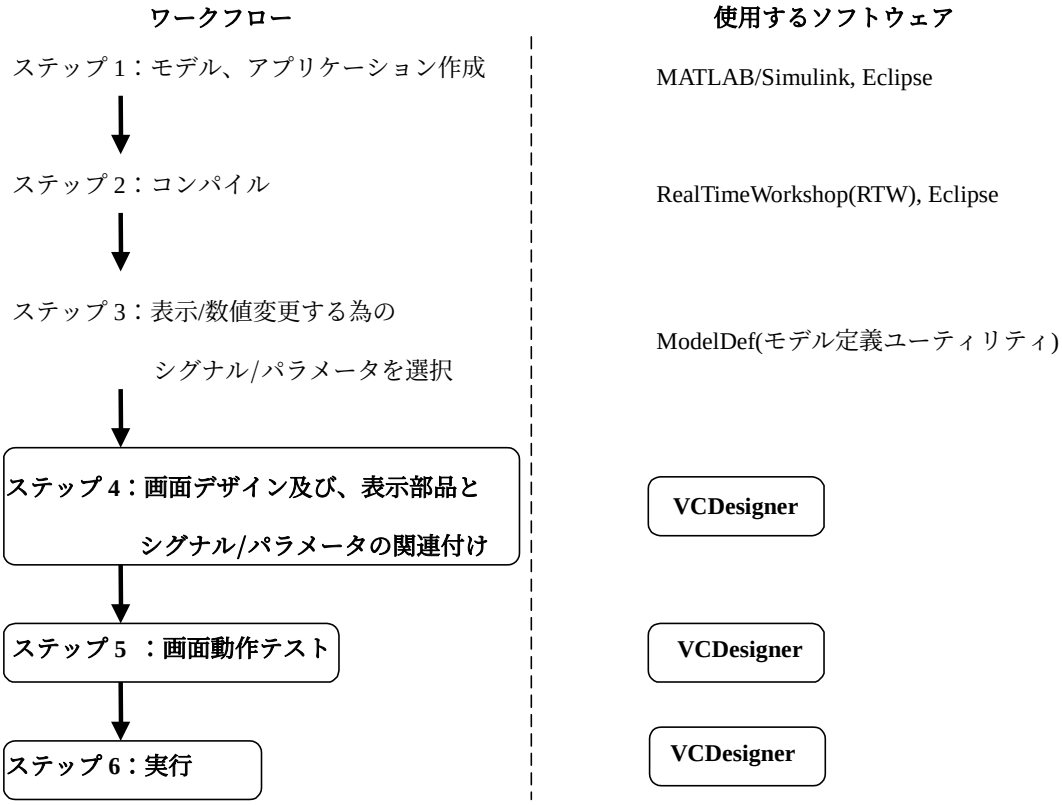
4.1.1. ADX表示パネル操作 141
4.1.2. モデル制御 141
4.1.3. パラメータ設定 142
4.1.4. 特殊コマンド 142

1. はじめに

MATLAB/Simulink/Stateflow を使用して設計したモデル、および Eclipse で作成したアプリケーション上の『パラメータ』・『シグナル』を MD で『モデル定義ファイル』に関連付けし、VC 上で GUI をデザインして利用可能にします。

1.1. システム操作の全体の流れと、その中での VC の役割

MATLAB/Simulink で作成したモデル、および Eclipse で作成したアプリケーションは、
・ビルドよる実行ファイル作成
・AD-VirtualConsole コントロール(表示部品)
との関連付けによりターゲット上での計測・制御が可能になります。
以下の □ でかこまれたステップ 4 ～ 6 の部分が、AD-VirtualConsole の役割で、本書で説明している内容です。



2. VC の操作方法

AD701xSeries システムには、AD-VirtualConsole で作成する GUI は次の 2 種類があります。

1. ホスト PC の Windows 上に表示する GUI
2. ターゲットに表示する GUI

このうち、1 についてはホスト PC とターゲットを接続して使用している場合(モデル、GUI 開発時)の動作確認用などに使用します。
筐体を単体で動作させる場合、2 の GUI が必要になります。
本書では『ターゲット上に表示する GUI』の作成手順に関わる部分についてのみ説明致します。
設定において『AD-VirtualConsole ホスト側 GUI 詳細説明書』と内容が重複する部分に関しては記述を省略しています。

2.1. 起動

AD-VirtualConsole の起動方法の詳細については『AD-VirtualConsole ホスト側 GUI 詳細説明書』をご参照下さい。
起動時に全 ADX システムとのソケット接続をオープンにします。

2.2. ツールバーのメニューとボタンについて

2.2.1. 各メニューについての説明

ADX 用画面作成に必要な箇所についてのみ記述します。
『編集(E)』、『ランモード(R)』、『ツール(T)』、『ウィンドウ(W)』、『ヘルプ(H)』の各メニューについては
『AD-VirtualConsole ホスト側 GUI 詳細説明書』をご参照下さい。

2.2.1.1. 『ファイル(F)』メニュー

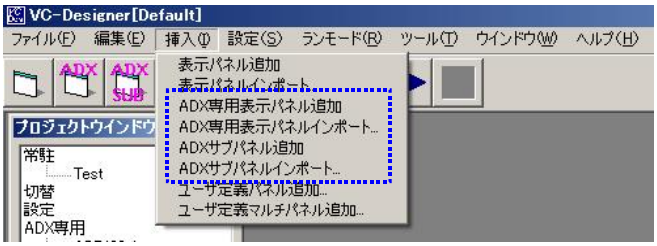
ADX 用機能として、**『ADX ファイルの転送』**があります。

ADXファイルの転送

ターゲットと FTP 接続し、プロジェクトファイルを転送します。

2.2.1.2. 『挿入(I)』メニュー

ADX 用機能として、**『ADX 専用パネル・サブパネル　各々の追加およびインポート』**があります。



ADX専用表示パネル追加

新規に ADX 専用パネルを追加する時に選択します。

ADX専用表示パネルインポート

既に作成してある ADX 専用パネルをインポートして使用する時に選択します。

ADXサブパネル追加

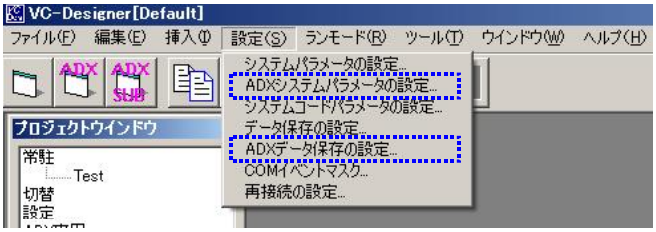
新規に ADX サブパネルを追加する時に選択します。

ADXサブパネルインポート

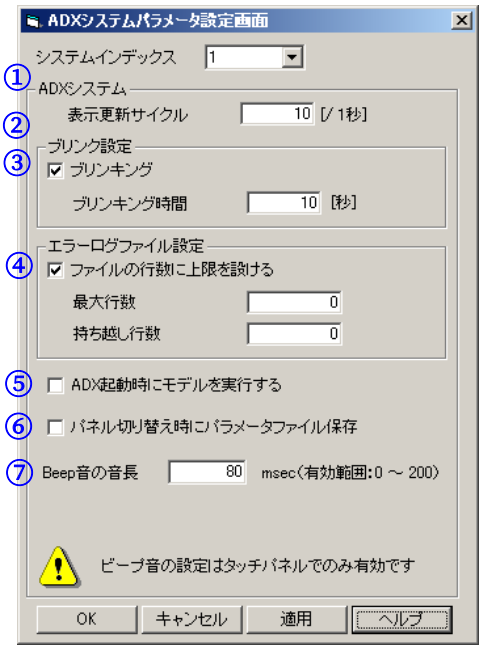
既に作成してある ADX サブパネルをインポートして使用する時に選択します。

2.2.1.3. 『設定(S)』メニュー

ここでは**『ADX システムパラメータ設定** および **ADX データ保存の設定』**について説明します。



ADXシステムパラメータ設定



① システムインデックス
ADX システムを複数使用する場合、設定するシステムのインデックスを指定します。

② 表示サイクル
警報ランプなどの警報関係表示コントロールのブリンク設定を行います。
『ブリンキング』チェックボックスをチェックすると、警報ランプに設定したパラメータの値が変わったときに
『ブリンキング時間』で指定した時間点滅します。

③ ブリンク設定
警報ランプなどの警報関係表示コントロールのブリンク設定を行います。
『ブリンキング』チェックボックスをチェックすると、警報ランプコントロールの値が変わったときに
『ブリンキング時間』で指定した時間点滅します。

④ エラーログファイル設定
VC 実行時のエラーログファイルについての設定を行います。
エラーログファイルはプロジェクトフォルダの下の VC フォルダ内に VC2ErrLog.txt という名前で作成されます。
『ファイルの行数に上限を設ける』チェックボックスをチェックすると、
『最大行数』『持ち越し行数』の設定欄が表示されます。
エラーログ数が最大行数で設定した値を超えた時、最新のエラーログから持ち越し行数分のエラーログを残して、
それより古いエラーログは削除します。

⑤ ADX 起動時にモデルを実行する
ADX 起動時にモデルを自動的に実行開始するかどうかを設定します。
ADX をスタンドアローンで実行させているときのみ設定が有効となります。

⑥ パネル切り替え時にパラメータファイル保存
モデル実行中、ADX 画面に表示する画面を切り替えた時にパラメータファイルの保存を行うかどうかを指定します。

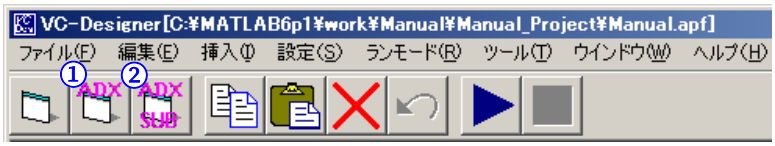
⑦ ビープ音の音長
ビープ音の長さを設定します。
ターゲットのシステムがタッチパネルの場合に有効です。

ADXデータ保存の設定...

ここでは、データの保存についての設定を行います。
詳細は『2.5　ADXデータ保存設定』の項目をご参照下さい。

2.2.2.　ボタンについての説明

ADX 用画面作成に必要な箇所についてのみ記述します。
その他のボタンについては『**AD-VirtualConsole ホスト側 GUI 詳細説明書**』をご参照下さい。



① ADX 専用表示パネル追加
　新規に ADX 専用パネルを追加する時に選択します。

② ADX サブパネル追加
　新規に ADX サブパネルを追加する時に選択します。

2.3. パネルの操作

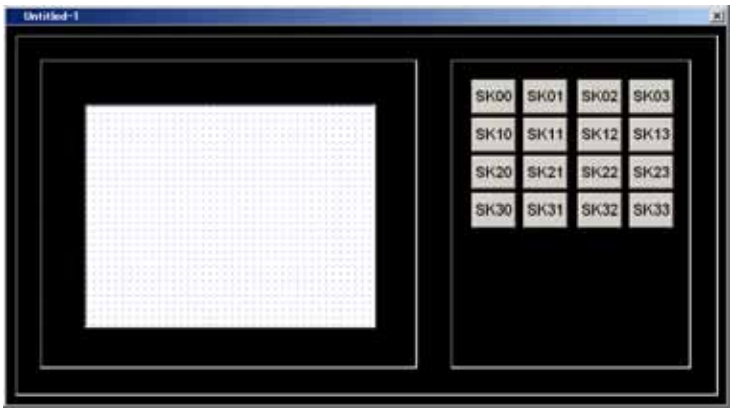
筐体上に表示するパネルの作成方法について説明致します。

2.3.1. 新規表示パネルの追加

2.3.1.1. ADX 専用表示パネル追加

ボタンもしくは、**『『挿入(I)』メニュー - ADX専用表示パネル追加』**より新規パネルを追加します。

新規パネルは、暫定パネル名(Untitled-？)で追加されます。



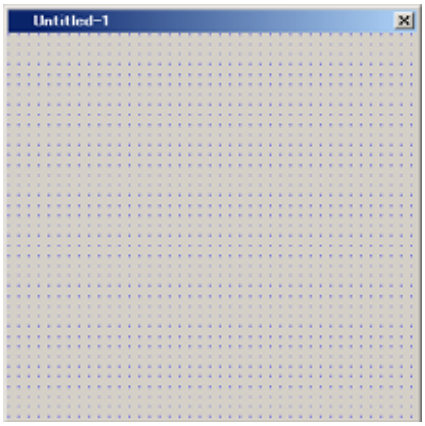
2.3.1.2. ADX サブパネル追加

サブパネルは作成したすべての ADX 専用表示パネルから参照可能なパネルです。
複数の ADX 専用パネル上で統一して使用したい画面がある場合にサブパネルを使用します。

サブパネルにて表示したい画面を作成し、
ADX 専用表示パネル上に ADX 専用コントロール『3.1.14　ADX サブパネルリンク』を配置します。
サブパネルとサブパネルリンクの関連付けを行うことでサブパネルにて作成した画面を参照することができます。

ボタンもしくは、**『『挿入(I)』メニュー - ADXサブパネル追加』**より新規パネルを追加します。

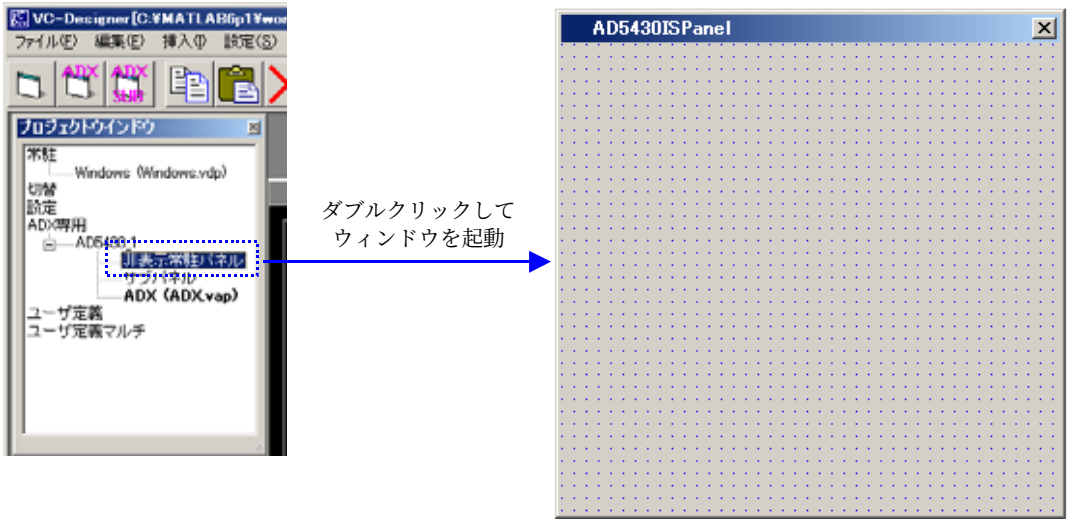
新規サブパネルは、暫定パネル名(Untitled-？) で追加されます。



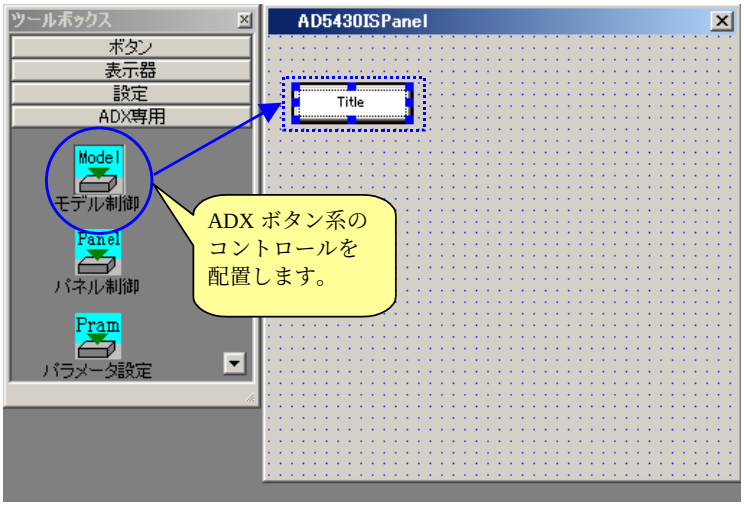
2.3.1.3. 非表示常駐パネル

どの ADX 専用パネルに切り替わっていても、このパネルは常時アクティブに設定されています。
そのため、ADX ボタン系コントロールのイベントをどのタイミングでも受け取ることが可能です。

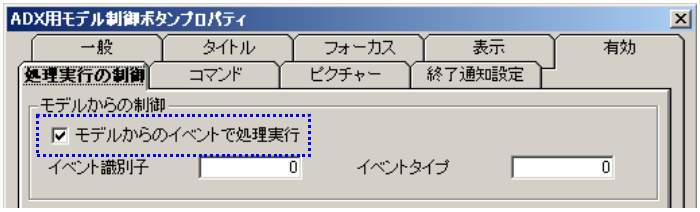
プロジェクトウィンドウ内の『非表示常駐パネル』をダブルクリックすると『非表示常駐パネル』が起動します。



ツールボックスの『ADX 専用』からボタンコントロールをドラッグ&ドロップします。



ボタンコントロールのプロパティより、『処理実行』タブ - 『モデルからのイベントで処理実行』
にチェックを入れて使用します。



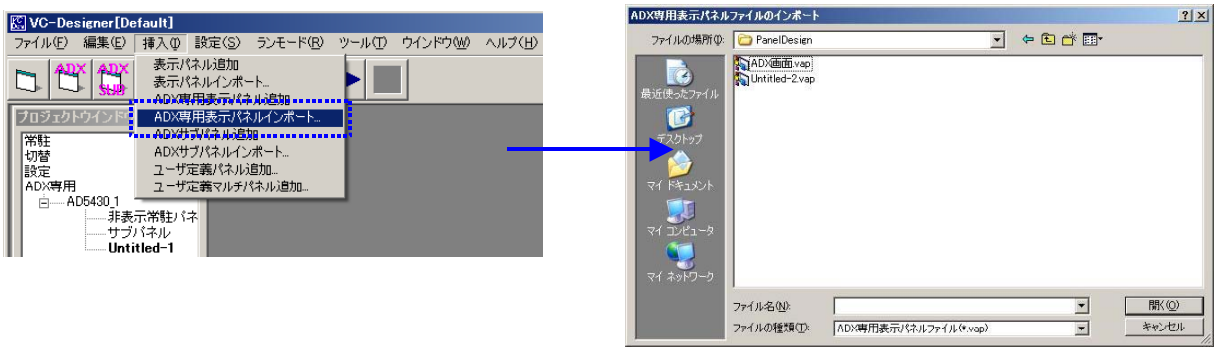
『処理実行の制御』タブの使用方法は『3.1.1.6　『処理実行の制御』タブ』をご参照下さい。

2.3.2. 既存表示パネルの追加

既存の作成済み ADX 表示パネルを追加します。

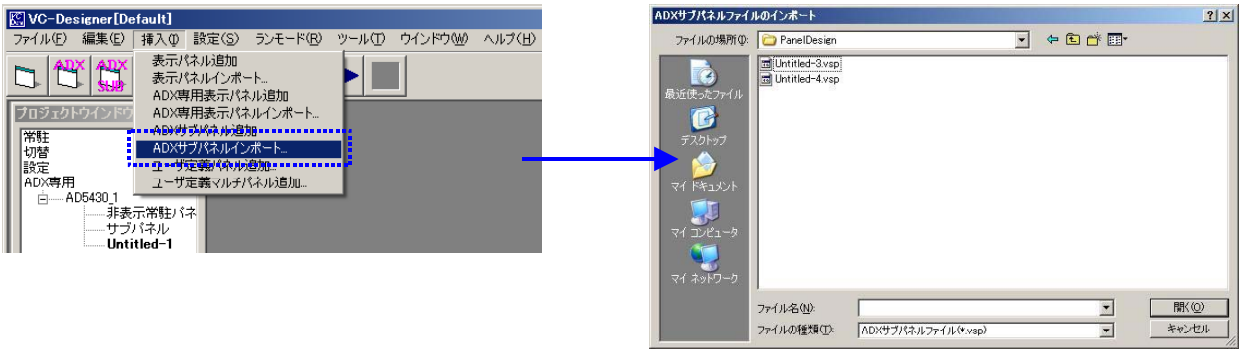
2.3.2.1. ADX 専用表示パネルインポート

メニューバーの『『挿入(I)』メニュー - ADX専用表示パネルインポート』を選択して下さい。
標準ダイアログが開きますので、既存のADXパネルファイル(*.vap)を選択して、 開く(O) ボタンをクリックして下さい。
ADX 専用表示パネルが追加されます。



2.3.2.2. ADX サブパネルインポート

メニューバーの『『挿入(I)』メニュー -ADXサブパネルインポート』をクリックして下さい。



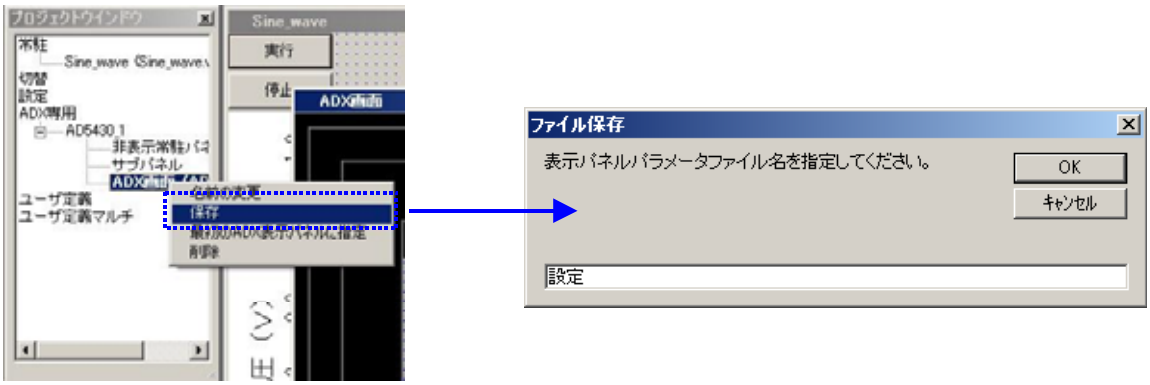
追加するパネルのファイル(*.vsp)を選択して、 開く(O) ボタンをクリックして下さい。
ADX サブパネルが追加されます。

2.3.3. 既存表示パネルの削除

既に作成済みのパネルを削除追加します。
プロジェクトウィンドウの削除するパネル名を右クリックし、『削除』を選択して下さい。

2.3.4. 表示パネルの保存

表示パネルを保存します。
『プロジェクトウィンドウ』の保存したいパネルを選択、右クリックし、表示されたメニューの**『保存』**を選択して下さい。
ファイル名指定画面が表示されますので、ファイル名を指定して OK ボタンをクリックして下さい。
表示パネルファイルが保存されます。



この作業以降は同ファイルに保存されます。

2.3.5. 表示パネルのプロパティ設定

ADX 表示パネルの任意の場所で右クリックし、表示されるメニューから『プロパティ』を選択することで
『表示パネルプロパティ』ウィンドウが開きます。
このウィンドウからパネル名の変更、必要な設定を行うことができます。

① パネル名
任意にパネル名を指定することができます。
ここで指定した名称は、設定したパネルの上部に表示されます。
プロジェクトウィンドウに表示された任意のパネルを選択して、
右クリックして表示されるメニューから『名前の変更』をクリックしてもパネル名を変更することが可能です。

② 背景色
表示パネルプロパティの **背景色...** ボタンをクリックすることで**『色の設定』**ウィンドウが開きます。
背景色を変更することができます。

③ Key
VC でパネルを区別するためのユニークな値です。
作成、使用される全パネルにそれぞれ異なる値を設定します。

【注意】
問題の生じない限り、ここの値は変更しないで下さい。

④ 起動時、パネルファイルを読み込まない
チェックを入れると、起動時パネルファイルを読み込みません。

⑤ パネルを開く際に、パスワードを使用する
チェックを入れると⑥⑦⑧の設定項目が開きます。

[パスワード詳細設定]
⑥ タイトル
タイトル名を入力します。

⑦ パスワードタイプ
『固定値 / パラメータ / データ』から選択します。

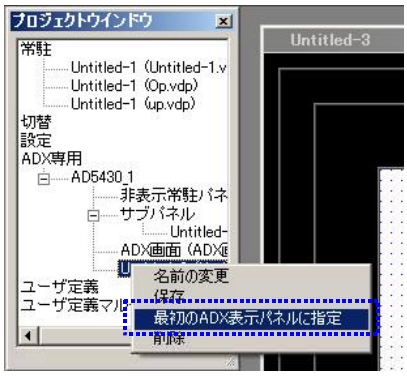
⑧ パスワード
『固定値』を指定した場合
任意の数値で設定します。

『パラメータ』を指定した場合
パラメータ名から選択します。

『データ』を指定した場合
データ名から選択します。

2.3.6. 最初の ADX 表示パネルの指定

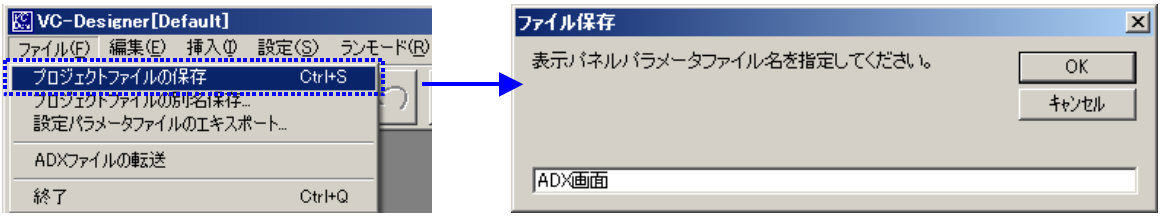
複数の ADX 専用表示パネルが存在する場合、筐体を起動時に最初に表示させるパネルを指定します
『プロジェクトウィンドウ』の中で最初に表示させたいパネルを選択して右クリックし、
表示されたメニューの**『最初の ADX 表示パネルに指定』**をクリックして下さい。



2.3.7. プロジェクトファイルの保存

作成したプロジェクトの保存を行います。
メニューバーの**『『ファイル(F)』メニュー - プロジェクトファイルの保存　Ctrl+S』**を選択します。

新規に追加された表示パネルに関してはファイル名の指定画面が開きます。
任意の名称を入力し、OK ボタンをクリックして下さい。
この操作は、新規に追加した全ての表示パネルに対して行います。

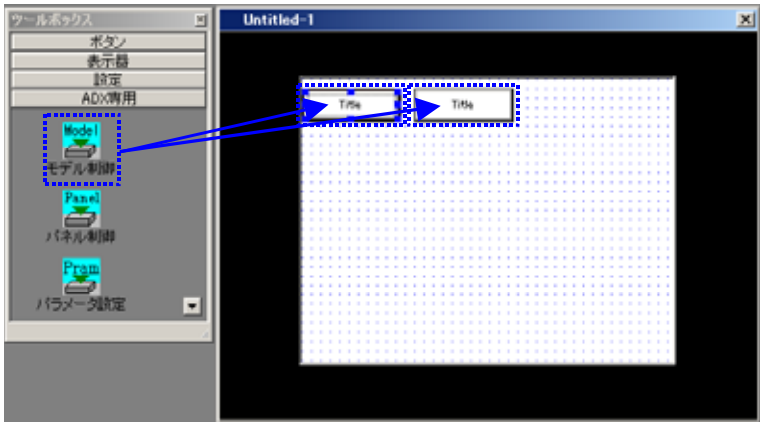


2.4. コントロールの操作

2.4.1. コントロールの追加

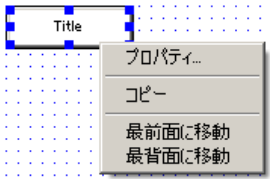
使用するコントロールを、ツールボックスの**『ADX 専用』**から ADX 表示パネルにドラック&ドロップします。

【注意】
ツールボックス 『ADX 専用』の中から選んで下さい。
その他のコントロールは使用できません。



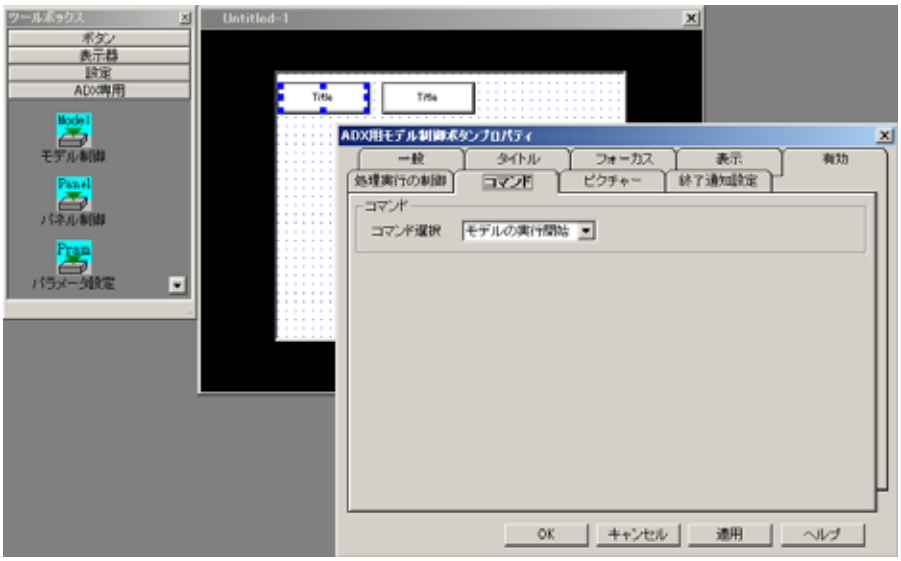
2.4.2. コントロールのメニュー

マウスで対象のコントロールを右クリックするとメニューが表示されます。



『プロパティ』をクリックすると次のような画面が表示されます。
コントロールの位置、タイトル、コマンド等の設定を行うことが可能です。

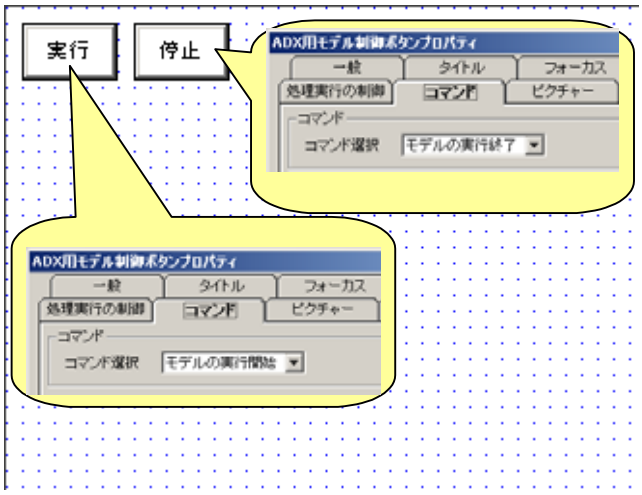
プロパティの詳細については、**『3　ADX 用コントロール部品の詳細』** をご参照下さい。



2.4.3.　VC を操作するための基本操作パネル

新規プロジェクトを作成した時は、筐体の最初に表示するパネル上に ADX 専用の
『モデル制御ボタン』ー『モデルの実行開始』と**『モデルの実行終了』**を置くか、
もしくはパネルキー(ファンクションキー)に上記機能を割り当てて下さい。

*** 最初の表示パネルの指定方法については、『2.3.6　最初の ADX 表示パネルの指定』をご参照下さい。**



または

(タクトボタン詳細については**『4　タクトボタンのカスタマイズ』**をご参照下さい。)
この設計を行うことにより、作成したプロジェクトの**実行/終了**が可能です。

2.5. ADX データ保存設定

データ保存機能は Simulink モデル内に“sf_DataStore”ブロックが配置され、
保存を行うデータが“DataStore S-Function”の入力ポート(In)に接続されていることが必要です。
保存されたデータは任意のデータ保存ファイル(*.csv および*.bdf)に保存されます。

2.5.1. ADX データ保存設定画面

メニューバーの『『設定(S)』メニュー - ADX データ保存の設定…』をクリックすると、以下のような画面が表示されます。

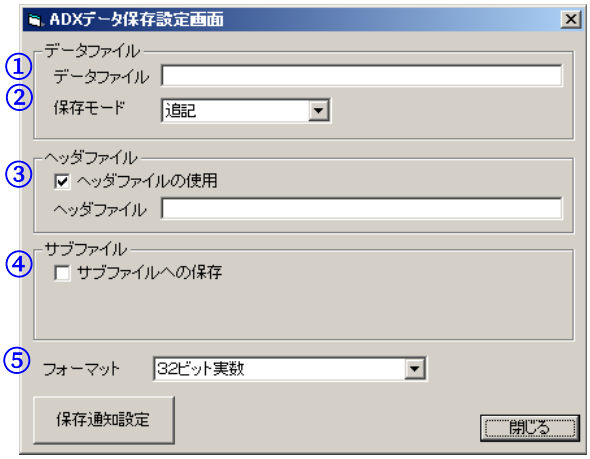
① データの種類
MD で定義した S-Function 名がリストアップされます。

② ファイルタイプ
『データ保存しない / CSV ファイル / バイナリファイル』の中から選択します。
『CSV ファイル』を選択すると下記のように表示が変化します。

2.5.1.1. CSV ファイルのデータ保存

ADX 用データ保存設定画面上の 詳細設定 ボタンをクリックすると以下のダイアログが開きます。

ファイルタイプ：『CSVファイル』を選択した場合



① データファイル
生成される CSV ファイルを指定します。
保存ファイル名を入力して下さい。

② 保存モード
保存データの保存方法を指定します。
『追記 / 上書き』から選択します。

【注意】
『上書き』にした時は、指定バッファ数分データが溜まる または
Storeで強制的にホストに書き込むこのどちらかが起こる毎に上書きされます。
データ保存開始時に、同名のファイルがあるか探し、ある場合はファイルを上書きするのではなく、
ホストに書き込む度に上書きされます。

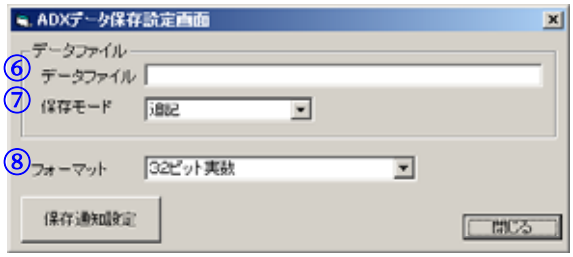
③ ヘッダファイル
データファイルにヘッダ情報を追加する場合、
それが記述されたファイル(予め*.csv ファイルで作成しておいて下さい。) を指定します。
ヘッダファイルを指定してモデルを実行すると、
フォルダにはヘッダ情報が記述されたデータ保存ファイルが作成されています。

④ サブファイル
『サブファイルへの保存』のチェックボックスにチェックを入れると、
データファイルを指定の行数単位で分割して保存します。
ただし、Windows 側の作成画面と異なり、ファイル名に日付時刻がつきます。

⑤ フォーマット
保存データのフォーマットを指定します。
『32 ビット実数 / 符号無し 32 ビット整数 / 符号有り 32 ビット整数』から選択します。

【注意】
この機能は GeneralBlockSet(Ver1.5.0 以上)の
32bit 整数分割ブロック S-Function(sf_IntSeparetor)から出力されるデータに対してのみ適用して下さい。
その他の場合は正しく表示されません。

ファイルタイプ：『バイナリファイル』を選択した場合



⑥ データファイル
生成されるバイナリファイルを指定します。
保存ファイル名を入力して下さい。

⑦ 保存モード
保存データの保存方法を指定します。
『追記 / 上書き』から選択します。

⑧ フォーマット
保存データのフォーマットを指定します。
『32 ビット実数 / 32 ビット整数』から選択します。

【注意】
この機能は GeneralBlockSet(Ver1.5.0 以上)の
32bit 整数分割ブロック S-Function(sf_IntSeparetor)から出力されるデータに対してのみ適用して下さい。
その他の場合は正しく表示されません。

保存通知設定

ADX データ保存設定画面の保存通知設定ボタンをクリックすると以下のダイアログが起動します。

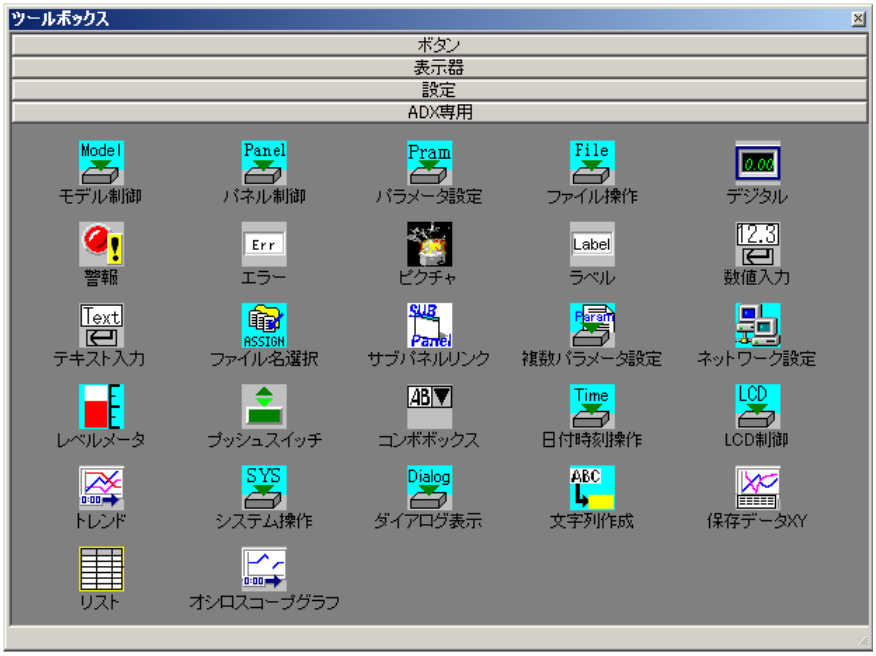
① 保存終了パラメータ名
保存終了信号をモデル内で使用したい場合に指定します。
『EventInput』S-Function の Trigger パラメータを指定して下さい。
(Trigger パラメータは Simulink 上ではプロパティウインドウに表示されませんが、MD では表示されます。)
指定されている場合、コントロールの処理が終わると Trigger パラメータに 1 を設定します。
モデル側では**『EventInput』**S-Function の Trigger パラメータに 1 が設定されると指定された幅のパルスを発生します。このパルスにより VC 側で保存が終了した事を知ることができます。

② 保存結果パラメータ名
このパラメータが指定されている場合、保存終了後に保存終了パラメータに 1 を設定する前に、
保存結果パラメータに値を設定します。
処理が正しく行われた場合は結果用パラメータに 0 を、エラーの場合は 0 以外を設定します。

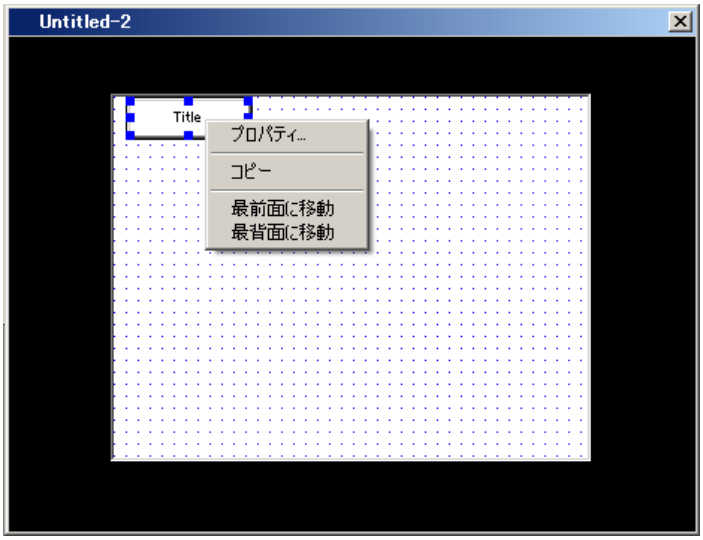
3. ADX 用コントロール部品の詳細

3.1. ADX 専用ツールボックス

VC の**『ツールボックス』 - 『ADX 専用』**には 27 種類のコントロールがあります。



任意の ADX 専用コントロールをパネルにドラッグ&ドロップして、
そのコントロールを右クリックするとメニューが表示されます。



ここではそのメニューの中のプロパティにおいて、共通する項目とそれぞれのコントロールの説明をいたします。

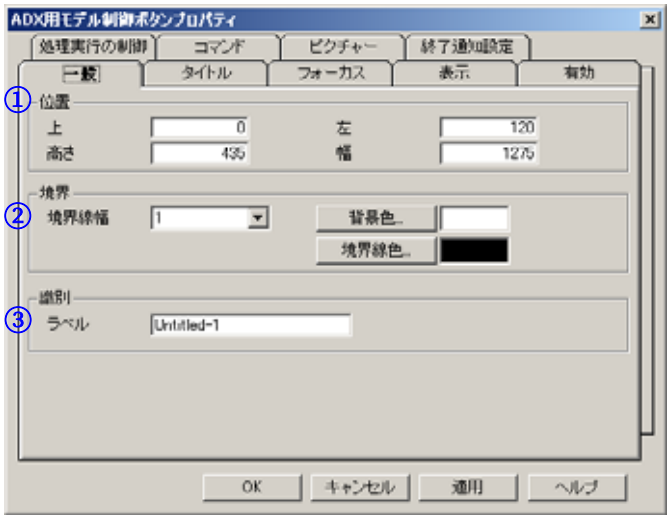
3.1.1. ADX コントロール共通項目

VC の ADX 専用コントロールのプロパティにおいて、各コントロールに共通する項目の説明を以下に示します。

【注意】
コントロールの種類により、表示されない項目や選択できない項目があります。

3.1.1.1. 『一般』タブ

コントロールの**位置、境界、識別**についての設定を行います。



[位置]
① 位置
上
twip で指定します。
ADX 表示画面上端が 0 になります。

左
twip で指定します。
ADX 表示画面左端が 0 になります。

高さ
コントロールの高さを twip で指定します。

幅
コントロールの幅を twip で指定します。

(1cm＝567twip)(1 ピクセル＝15twip)

[境界]
② 境界線幅
境界線幅
ADX 表示画面とコントロールの境界線の幅を指定します。
『0 / 1 / 2 / 3 / 4』から選択します。

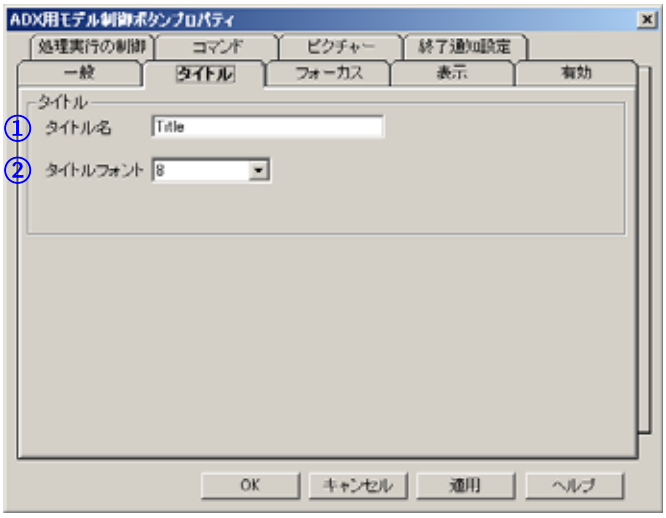
背景色... および **境界線色...** ボタン
コントロールの背景色、境界線の色を指定します。

[識別]
③ ラベル
各コントロールにユニークなラベルを設定します。

3.1.1.2. 『タイトル』タブ

タイトル名、タイトルフォントを設定します。

ボタンコントロールによる『タイトル』タブ設定



[タイトル]

① タイトル名

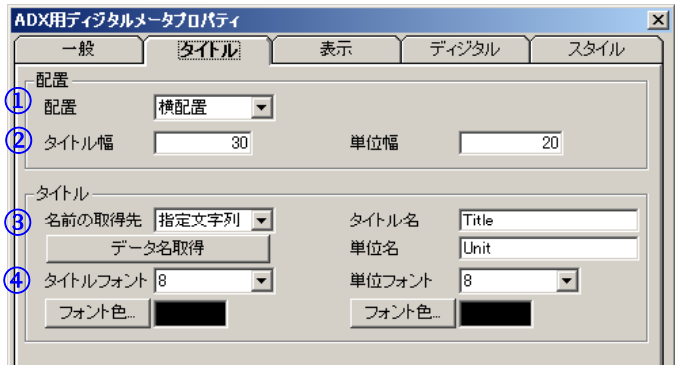
タイトル名を入力します。

② タイトルフォント

タイトルのフォントサイズを指定します。

『8 / 16 / 24 / 32』から指定します。

表示/設定コントロールによる『タイトル』タブ設定



[配置]

① 配置

タイトル、データ、単位の配置を**『シンプル / 縦配置 / 横配置』**から選択します。

② タイトル幅、単位幅

『配置』で**縦配置**または**横配置**を選択したときに有効になります。
タイトル名または単位名の表示幅をコントロール全体に対する%で指定します。

[タイトル]

『配置』で縦配置または横配置を選択したときに有効となります。

③ 名前の取得先

コントロールに表示されるタイトル名、単位名の取得先を**『指定文字列 / データ』**から選択します。

指定文字列

『名前の取得先』の右側にある**『タイトル名』『単位名』**の設定が有効になります。
入力した文字列がタイトル、単位として表示されます。

データ

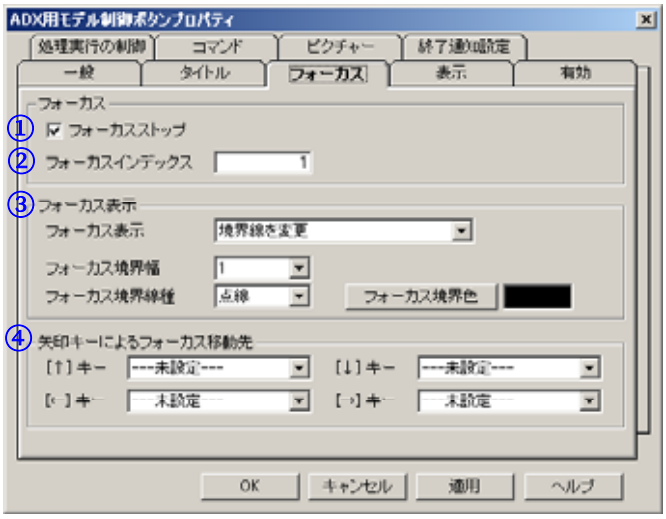
コントロールで関連付けられたデータファイルの、
MD のシグナルパラメータ定義にある**『名前』『単位』**の設定が有効になります。
MD で設定した文字列がタイトル、単位として表示されます。

または、 データ名取得 ボタンをクリックすることでモデル上の名前を取得する事も可能です。
データ名取得 ボタンの詳細については『VirtualConsoel ホスト側 GUI 詳細説明書』をご参照下さい。

④ タイトルフォント、単位フォント、 フォント色... ボタン

タイトル・単位のフォント、色をそれぞれ指定します

3.1.1.3. 『フォーカス』タブ



[フォーカス]

① フォーカスストップ

フォーカスストップのチェックボックスをチェックすることで、そのコントロールがフォーカスされるようになります。

② フォーカスインデックス

フォーカスインデックスを指定します。
モデル実行開始時はフォーカスインデックスが 1 に設定されたコントロールがフォーカスされています。
また、**『矢印キーによるフォーカス移動先』**が指定されていない場合、
矢印キーを押すとフォーカスインデックスの順番にしたがい、フォーカスを移動します。

[フォーカス表示]

③ フォーカス表示

『境界線を変更 / 背景色を変更 / 境界線と背景色を変更』の中から選択します。

境界線を変更

フォーカスのあるコントロールの境界線を変更します。
『フォーカス境界幅』『フォーカス境界線種』 (点線 or 実線) **フォーカス境界色...** ボタン
にてフォーカス時の境界線を指定することが可能です。

背景色を変更

フォーカスのあるコントロールの背景色を変更します。
『背景色を変更』を選択すると**『フォーカス背景色...』**ボタンが表示され、
フォーカス時の背景色を指定できるようになります。

境界線と背景色を変更

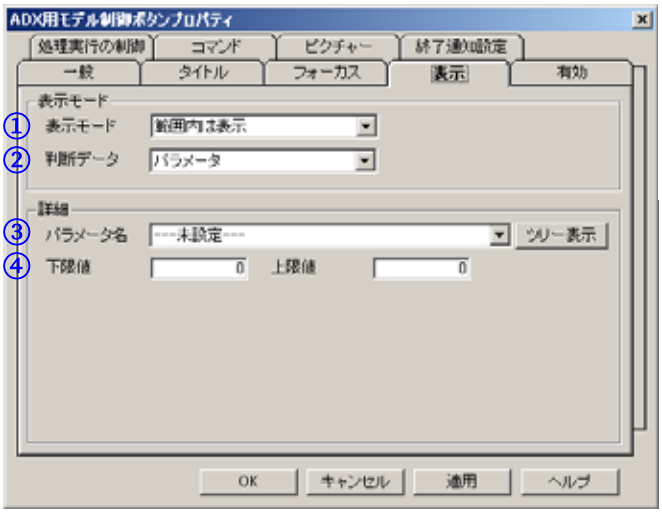
フォーカスのあるコントロールの境界線と背景色の両方を変更して表示します。

[矢印キーによるフォーカス移動先]

④ 矢印キーによるフォーカス移動先

矢印キーによりフォーカスを移動させます。

3.1.1.4. 『表示 / 非表示』タブ



[表示モード]

① **表示モード**

『常に表示 / 範囲内は非表示 / 範囲内は表示 / 常に非表示』から選択します。

『範囲内は非表示』または**『範囲内は表示』**を選択した場合、

パラメータ値もしくはデータ値の値によってコントロールの**表示/非表示**を切り替えることができます。

② **判断データ**

『範囲内は非表示』または**『範囲内は表示』**を選択した場合に有効となります。

表示/非表示の判断を**『パラメータ / モニタデータ』**のどちらで行うかを指定します。

[詳細]

『範囲内は非表示』または**『範囲内は表示』**を選択した時に有効となります。

③ **パラメータ名 or データ名**

『判断データ』でパラメータを選択した場合は**『パラメータ名』**となり、

モニタデータを選択した場合は**『データ名』**となります。

表示/非表示の判断を行うためのパラメータまたはデータの指定をリスト、または ツリー表示 から行います。

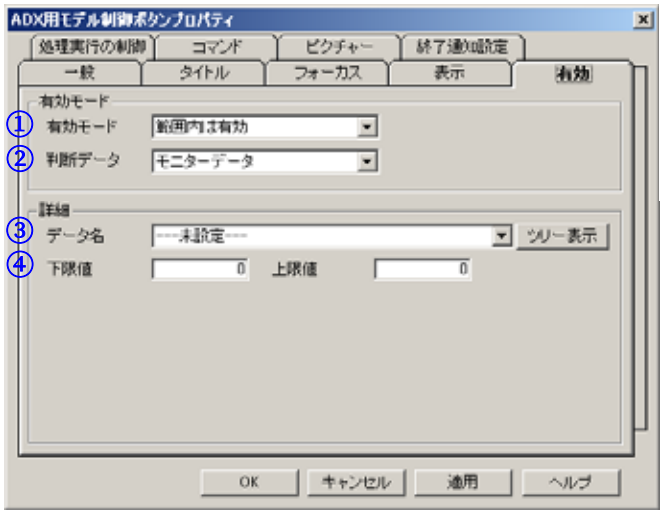
(ツリー表示 ボタン別紙『AD-VirtualConsole ホスト側 GUI 詳細説明書』をご参照下さい。)

指定したパラメータ・データが配列の場合は、行や列を指定して要素を特定出来ます。

④ **下限値、上限値**

コントロールの表示 or 非表示を行う範囲の下限値と上限値を指定します。

3.1.1.5. 『有効 / 無効』タブ



[有効モード]

① 有効モード

『常に有効 / 範囲内は無効 / 範囲内は有効 / 常に無効』から選択します。
『範囲内は無効』または**『範囲内は有効』**を選択した場合、
パラメータ値もしくはデータ値の値によってコントロールの**無効/有効**を切り替えることができます。

② 判断データ

『範囲内は無効』または**『範囲内は有効』**を選択した場合に有効となります。
無効/有効の判断を**『パラメータ / モニタデータ』**のどちらで行うかを指定します。

[詳細]

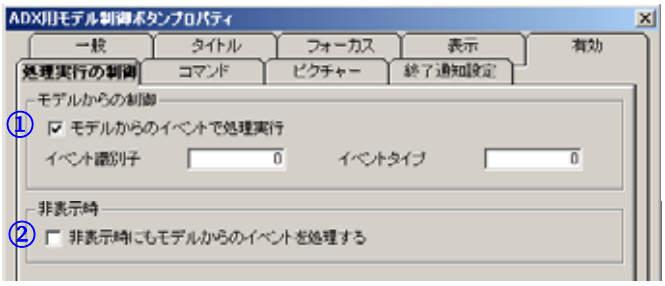
③ パラメータ名 or データ名

『判断データ』でパラメータを選択した場合は**『パラメータ名』**となり、
モニタデータを選択した場合は**『データ名』**となります。
無効/有効の判断を行うためのパラメータ or データをリスト、または ツリー表示 ボタンより指定します。
(ツリー表示 ボタンについては別紙『AD-VirtualConsole ホスト側 GUI 詳細説明書』をご参照下さい。)
指定したパラメータ・データが配列の場合は、行や列を指定して要素を特定出来ます。

④ 下限値、上限値

コントロールの操作を無効 or 有効にする範囲の下限値と上限値を指定します。

3.1.1.6. 『処理実行の制御』タブ



[モデルからの制御]

① モデルからのイベントで処理実行

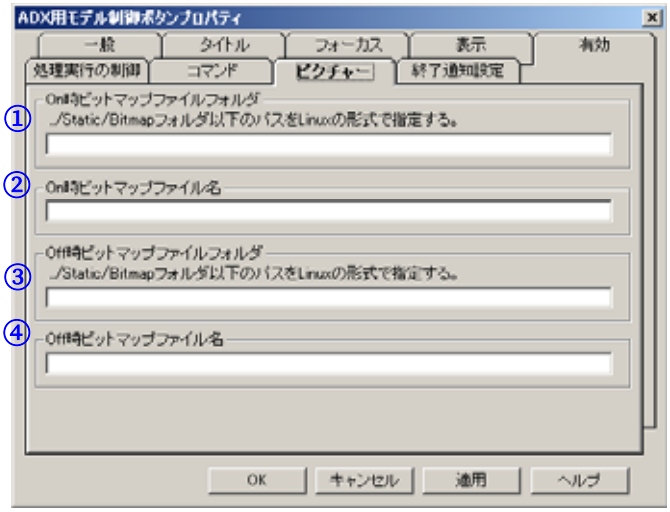
チェックボックスをチェックした場合、**『イベント識別子』『イベントタイプ』**の設定が可能になります。
イベント識別子、イベントタイプにモデル内のイベントアウトプットブロックと同じ値を入力することで
該当ブロックからのイベントを受けて処理を実行することができるようになります。

[非表示時]

② 非表示時にもモデルからのイベントを処理する

チェックボックスをチェックした場合、
コントロールが非表示状態でもモデルからのイベントにより処理を実行するようになります。
但し､パネルファイルが読み込まれていない場合は動作しません。

3.1.1.7. 『ピクチャー』タブ



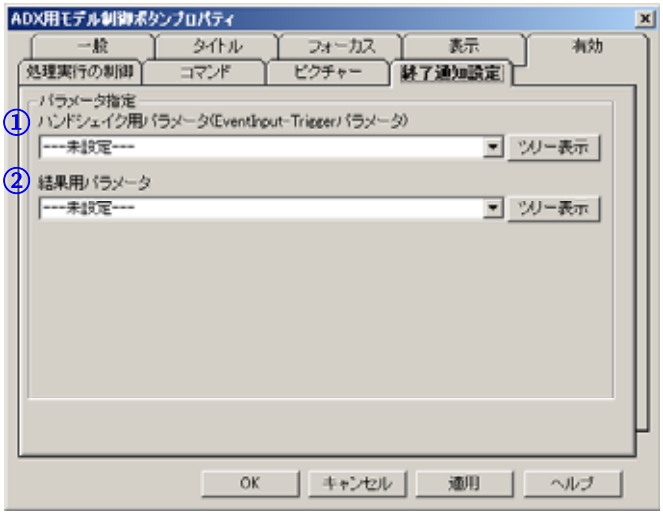
① ON 時ビットマップファイルフォルダ
ON の時、表示するビットマップファイルがあるフォルダを指定します。

② ON 時ビットマップファイル名
ON の時のビットマップファイル名を指定します。

③ OFF 時ビットマップファイルフォルダ
OFF の時、表示するビットマップファイルがあるフォルダを指定します。

④ OFF 時ビットマップファイル名
OFF の時のビットマップファイル名を指定します。

3.1.1.8. 『終了通知設定』タブ



[パラメータ指定]

① ハンドシェイク用パラメータ

処理終了時に 0 以外の値が設定されるパラメータです。
リスト、または ツリー表示 ボタンから指定します。
(ツリー表示 ボタン別紙『AD-VirtualConsole ホスト側 GUI 詳細説明書』をご参照下さい。)

② 結果用パラメータ

正常に終了すれば 0 を、処理中は 1 を、正常に終了しなければ各エラーを示す値を返します。
リスト、または ツリー表示 ボタンから指定します。
(ツリー表示 ボタン『AD-VirtualConsole ホスト側 GUI 詳細説明書』をご参照下さい。)
結果用パラメータが配列の場合、配列の行インデックス・列インデックスを
『固定値 / パラメータ / データ』のいずれかで指定します。

3.1.2. ADX 用モデル制御ボタン

モデルの実行開始、実行終了処理を行う為のボタンです。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

の詳細については、『3.1.1　ADX コントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.2.1. 『コマンド』タブ

① コマンド選択

モデル制御ボタン押下時の実行コマンドを設定します。

『モデルの実行開始 / モデルの実行終了』から選択します。

3.1.3. ADX パネル制御ボタン

パネルの制御を行うためのボタンです。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.3.1. 『操作』タブ

[パネル操作]

① コマンド選択パネル

制御ボタン押下時に実行される処理を選択します。

『パネルを表示する / 子パネルとして、パネルを表示する / 親パネルに戻す』から選択することが可能です。

『親パネルに戻す』は子パネルとして表示されているパネルでのみ有効です。

② 表示パネル

『パネルを表示する』もしくは**『子パネルとして、パネルを表示する』**を選択した場合に有効となります。

パネル制御ボタン押下時に表示するパネルを指定します。

リストにはパネルのプロパティで設定した**『パネル名』**が表示されます。

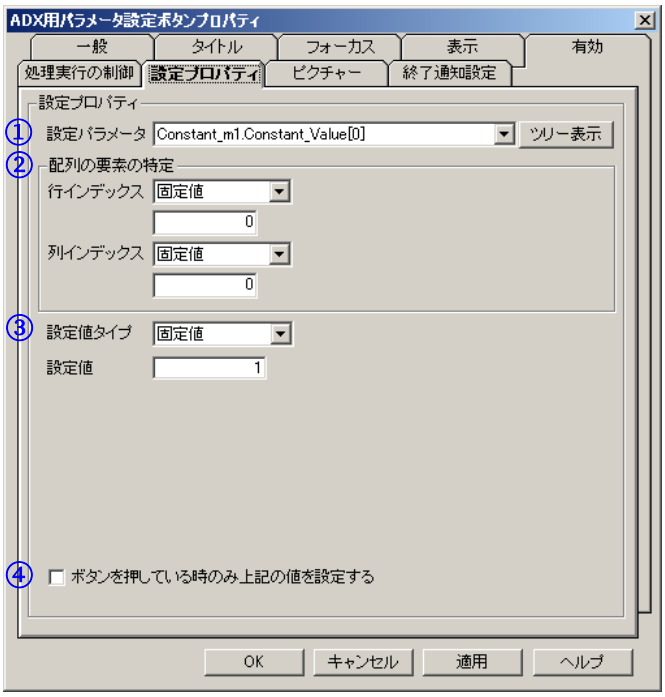
3.1.4. ADX パラメータ設定ボタン

パラメータ設定を行うためのボタンです。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.4.1. 『設定プロパティ』タブ



[設定プロパティ]

① 設定パラメータ

設定するパラメータをリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。

[配列要素の特定]

② 配列の要素の特定

『① 設定パラメータ』で配列パラメータを指定した場合に表示されます。

設定するパラメータが配列の何行何列目の要素かを指定します。

『行インデックス』、『列インデックス』

配列要素番号の指定方法を**『固定値 / パラメータ / データ』**から選択します。

固定値

選択した場合、その下の設定欄に入力された数値で配列の要素を決定します。

配列の先頭要素は 0 行 0 列となります。

パラメータ

リスト、または ツリー表示 ボタンから選択されたパラメータの値によって配列の要素を決定します。

データ

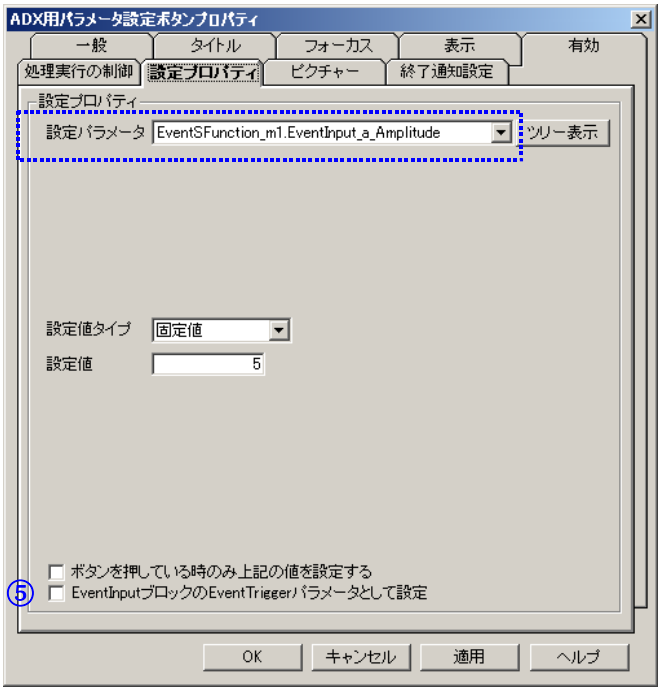
リスト、または ツリー表示 ボタンから選択されたモニタデータの値によって配列の要素を決定します。

③ 設定値タイプ

設定値『**固定値 / データ**』から選択します。
『**データ**』を選択した場合は、パラメータ値として使用する**モニタデータ**をリストから選択します。
設定値タイプで『**固定値**』を選択した場合に有効になります。
設定するパラメータ値を定数で指定します。

④ ボタンを押している時のみ上記の値を設定する

ボタンを押している時のみ、設定された数値をパラメータに設定します。
ボタンを押すのをやめたタイミングで、ボタンを押す前の値に戻します。
EventInput ブロックの EventTrigger パラメータとして設定する事も可能です。



⑤ EventInput ブロックの EventTrigger パラメータとして設定

設定パラメータを EventInput ブロックの EventTrigger パラメータとして扱います。

3.1.4.2. 処理実行の制御

[Enter 実行時のパネル制御]

① 親パネルに戻る

ボタン押下もしくはイベント受信による処理実行後に、本コントロールが置かれているパネルに親パネルが存在する場合は、そのパネルを表示します。

[特殊動作]

② モニターデータを更新しない

チェックを入れておくと、処理実行前にモニタデータの更新を行いません。
処理実行前にモニターデータの更新を行わなくても良い場合に使用します。

③ パラメータ変更通知モードの変更

パラメータ変更通知モードを**『変更しない / バッファリングモードに変更 / ダイレクトモードに変更』**から選択します。
パラメータ変更通知モードは初期状態でダイレクトモードとなっています。
ダイレクトモードの場合、パラメータ値はコントロールの処理実行と同時に変更されます。
バッファリングモードの場合、コントロールの処理が終了してもパラメータ値は変更されません。
バッファリングモード中に変更されたパラメータ値は、再度ダイレクトモードに切り替わった時点で一斉に反映されます。

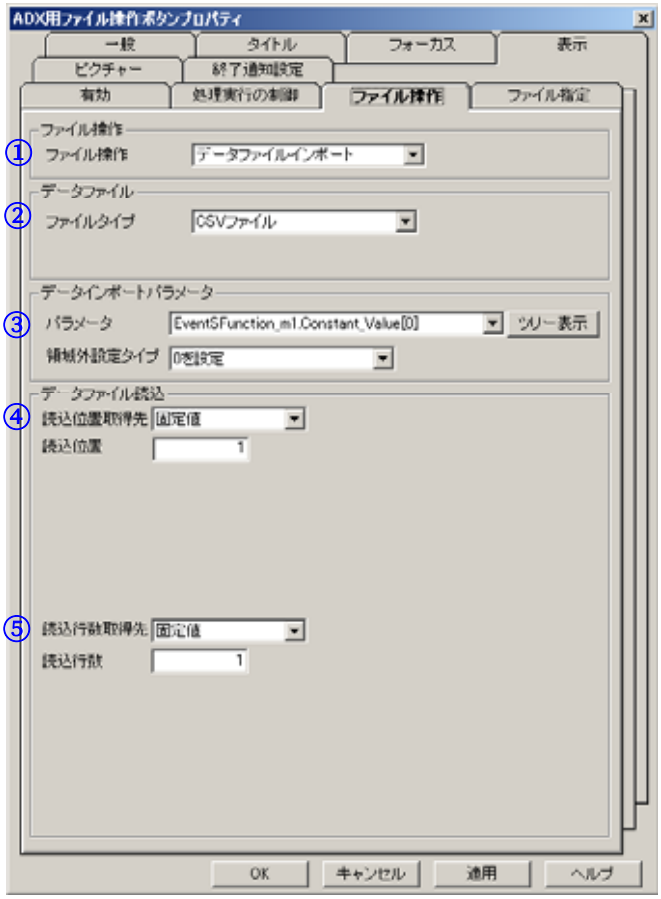
3.1.5.　ADX ファイル操作ボタン

データファイル、パラメータファイルの操作を行う為のボタンです。

- 『**一般**』タブ
- 『**タイトル**』タブ
- 『**フォーカス**』タブ
- 『**表示**』タブ
- 『**有効**』タブ
- 『**処理実行の制御**』タブ
- 『**ピクチャー**』タブ
- 『**終了通知設定**』タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.5.1.　『ファイル操作』タブ



[ファイル操作]

① ファイル操作

- **データファイルインポート**
- **パラメータファイルインポート**
- **パラメータファイルエクスポート**
- **ファイル削除**
- **パラメータファイル上書き保存**
- **ファイルコピー**
- **ファイル存在チェック**
- **ディレクトリ作成**
- **ディレクトリ削除**
- **ディレクトリ存在チェック**
- **ディレクトリコピー**

からコントロールを選択します。

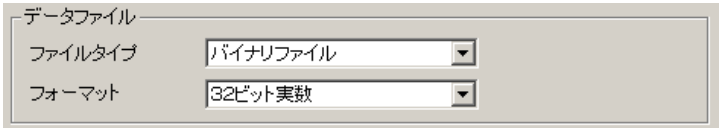
◎ファイル操作： データファイルインポート

『ファイル指定』で指定されたデータファイルから、『データファイル読込』欄で指定された部分を抜き出し、
『データインポートパラメータ』欄で指定されたパラメータに入力します。

[データファイル]

② データファイル

『ファイル指定』で指定するファイルの拡張子を**『CSV ファイル / バイナリファイル』**から選択します。
『バイナリファイル』を選択した場合はインポートさせるファイルに合わせて
『32 ビット実数 / 符号なし 32 ビット整数 / 符号あり 32 ビット整数』のいずれかを選択します。



[データインポートパラメータ]

③ データインポートパラメータ

『ファイル指定』で指定されたデータファイルから読込んだデータをインポートする配列パラメータを、
リスト、または ツリー表示 ボタンから指定します。
『領域外設定タイプ』では**『既存値を設定 / 0 を設定』**から選択します。
『0 を設定』を選ぶとインポートするパラメータの列数がファイル指定で指定されたデータファイルの列数より多い場合、
その列に『0』が入力されます。
データファイル：『データファイルの書式』の内容をご参照下さい。

[データファイル読込]

データファイルの読込み位置、読込み行数を指定します。

④ 読込位置取得先

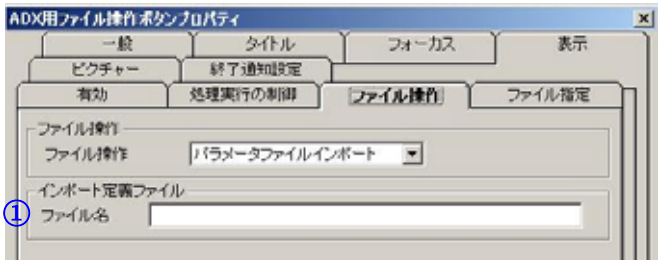
ファイルの何行目から読込み開始するかを指定します。
設定範囲は 1 以上の整数、初期値は 1 となっています。
『読込位置取得先』 … 読込位置の取得先を**『固定値 / データ / パラメータ』**から選択します。
『読込位置』 … 読込位置の取得先が固定値の場合のみ有効となります。
読込位置の取得先が『データ』または『パラメータ』の場合、読込位置指定に用いるデータ、またはパラメータを
リスト、または ツリー表示 ボタンから指定します。
データまたはパラメータが配列の場合は配列要素の特定も行います。

⑤ 読込行数取得先

読込み開始位置から何行分読込むか指定します。
設定範囲は 1 以上の整数、初期値は 1 となっています。
『読込行数取得先』 … 読込行数の取得先を**『固定値 / データ / パラメータ』**から選択します。
『読込行数』 … 読込行数の取得先が固定値の場合のみ有効となります。
読込行数の取得先が『データ』または『パラメータ』の場合、
読込行数指定に用いるデータまたはパラメータをリスト、または ツリー表示 ボタンから指定します。
データまたはパラメータが配列の場合は配列要素の特定も行います。

◎ファイル操作：パラメータファイルインポート

パラメータファイルをインポートします。
主に、パラメータファイルエクスポートで出力したパラメータファイルを読み込むために使用します。



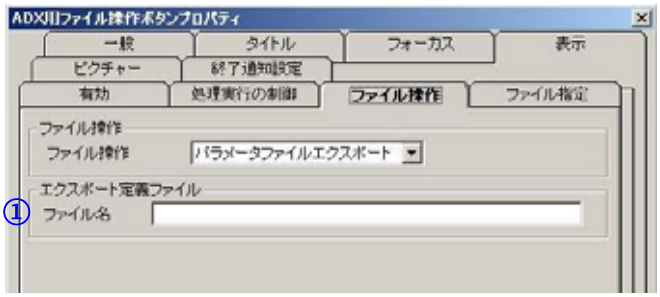
[インポート定義ファイル]

① ファイル名

インポート定義ファイルにファイル名が設定されていれば、
そのファイルに記述されている値のみパラメータに設定します。

◎ファイル操作： パラメータファイルエクスポート

『エクスポート定義ファイル』の内容にもとづき、現在のパラメータ名・パラメータ値をファイル名の
パラメータファイルとして、『『ファイル指定』タブ』で指定されたファイルに保存します。
設定したパラメータ値のうち、特定のパラメータについてのみファイルとして保存しておきたい時に使用します。
エクスポート定義ファイル：『エクスポート定義ファイルの書式』の説明をご参照下さい。



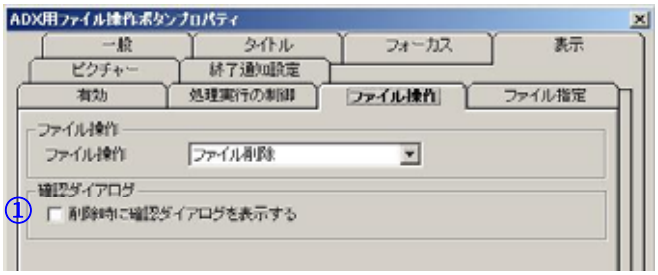
[エクスポート定義ファイル]

① ファイル名

ファイル名の欄には ADX 側のフォルダ階層で
/home/and/vcrproject/プロジェクト名/VC
フォルダ以下のパスとファイル名を Linux の形式で指定して下さい。
パラメータ定義ファイルの書式は**『パラメータファイルの書式』**をご参照下さい。
“ /を頭につけてファイル名を記述すると、フルパスで指定できます。

◎ ファイル操作： ファイル削除

『『ファイル指定』タブ』で指定したファイルを削除します。



[確認ダイアログ]

① 削除時に確認ダイアログを表示する

チェックしてある場合、削除して良いどうかのメッセージを出します。

◎ファイル操作： パラメータファイル上書き保存

ボタン押下時もしくはイベント受信時にパラメータファイルを上書き保存します。
ADX ではこのような形で**『パラメータファイル上書き保存』**を実行しなければパラメータの保存が行われないため、
ターゲット再起動時にはパラメータ値が MD で指定した初期値に設定されます。
モデル実行中に変更したパラメータ値をそのまま保存しておきたい場合は、
『パラメータファイル上書き保存』を実行して下さい。
パラメータファイルはターゲット内の下記フォルダに保存されます。
パラメータファイル保存先フォルダ ： /home/and/vcrproject/プロジェクト名/VC
また、ターゲット単体で動作させて上記のパラメータファイル上書き保存を行った後、
PC と接続して VC で ADX 画面の再編集を行うと ADX 側のパラメータファイルは削除されてしまい、
再起動時にはモデル定義ユーティリティで設定した初期値に戻ってしまいます。
そのため、上記のような作業を行う場合は FTP ソフト等を使用して、
ターゲット側に保存されているパラメータファイルを別の場所にコピーしておき、
作業終了後、パラメータファイル保存先フォルダに戻して使用するようにして下さい。

◎ファイル操作：ファイルのコピー

ファイル指定されたファイルをコピー先となるフォルダ又はファイルにコピーします。

[コピー先のファイル]

① 名前取得先

『指定文字列 / データ / パラメータ』から選択します。

② ファイルパス

コピー先ファイル名が　/home/and/vcrproject/プロジェクト名/VC　直下ではない場合に使用します。
ターゲット側のフォルダ階層で /home/and/vcrproject/プロジェクト名/VC フォルダ以下のパスを
Linux の形式で指定して下さい。
詳しくは**『ファイル指定』**の**『ファイルパス』**を参考にして下さい。

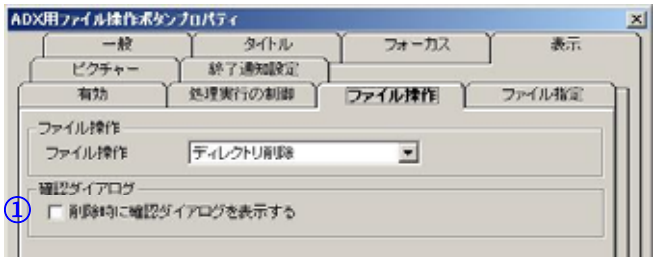
③ コピー先ファイル名

コピー先のファイル名を設定します。
名前取得先が**『データ・パラメータ』**の場合は、そのデータによって配列指定ができるようになります。

◎ファイル操作：ファイル存在チェック
指定されたファイル名の存在チェックを行います。

◎ファイル操作：ディレクトリ作成
指定されたディレクトリ名のディレクトリを作成します。

◎ファイル操作：ディレクトリ削除
指定されたディレクトリ名のディレクトリを削除します。



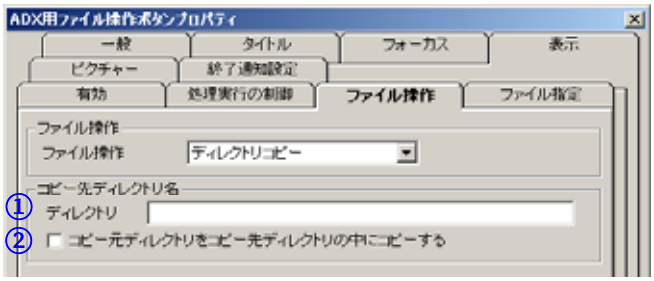
[確認ダイアログ]

① 削除時に確認ダイアログを表示する

チェックしてある場合、削除してよいかどうかのメッセージを出します。

◎ファイル操作：ディレクトリ存在チェック
指定されたディレクトリ名の存在チェックを行います。

◎ファイル操作：ディレクトリコピー
『ファイル指定』で指定されたディレクトリ内の全てのファイルを別のディレクトリにコピーします。



[コピー先ディレクトリ名]

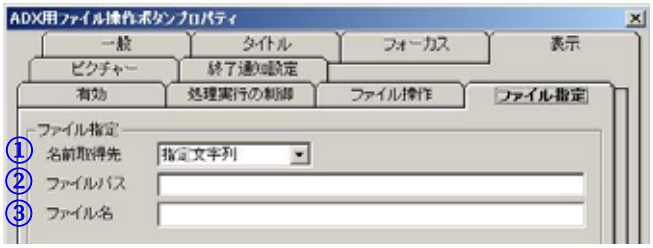
① ディレクトリ

コピー先のディレクトリを指定して下さい。
VC フォルダ直下から読み取りますので、それ以外の場合はパスを指定して下さい。

② コピー元ディレクトリをコピー先ディレクトリの中にコピーする

チェック無し：コピー元ディレクトリのデータをコピー先ディレクトリにコピーします。
チェック有り：コピー先ディレクトリの中にコピー元ディレクトリを作成してコピーします。

3.1.5.2. 『ファイル指定』タブ



[ファイル指定]

① 名前取得先

『ファイル名』の取得先を**『指定文字列 / データ / パラメータ』**から選択します。

②ファイルパス

ターゲット側のフォルダ階層で /home/and/vcrproject/プロジェクト名/VC フォルダ以下のファイルパスを指定します。
指定すべきファイルパスは**『ファイル操作』**の内容によって異なります。
“/”でファイル名を記述すると、フルパスで指定できます。

データファイルインポート	… 読込みたいデータファイルのパス
パラメータファイルインポート	… 読込みたいパラメータファイルのパス
パラメータファイルエクスポート	… パラメータファイル出力先のパス
ファイル削除	… 削除したいファイルのパス
パラメータファイルの上書き保存	… ファイル指定の設定は必要ありません。
ファイルのコピー	… コピーしたいファイルのパス
ファイル存在チェック	… 存在チェックをしたいファイルのパス
ディレクトリ作成	… 作成したいディレクトリ名とそのパス
ディレクトリ削除	… 削除したいディレクトリ名とそのパス
ディレクトリ存在チェック	… 存在チェックをしたいディレクトリ名とそのパス
ディレクトリコピー	… コピーしたいディレクトリ名とそのパス

MD で ADX 用のプロジェクトを作成すると、Windows 側では下図のようなフォルダ階層が作成されます。

ホスト側からターゲット側にファイル転送が行われるとき、CADX_1 内のファイルおよびフォルダが、
ターゲット側の
/home/and/vcrproject/test/VC/
フォルダ内に転送されます。
ファイル指定のファイルパス欄には、上記ターゲット側のファイル階層における VC フォルダ以下のパスを
Linux の形式で指定して下さい。
Linux 上では、フォルダ名の大文字・小文字が区別されるため注意が必要です。
例として
/home/and/vcrproject/プロジェクト名/VC/DataFile
というフォルダ内からデータファイルを読込む場合、以下のように入力します。
“/”でファイル名を記述すると、フルパスで指定できます。

③ ファイル名

『名前取得先』の設定により、ファイル名の指定方法を**『指定文字列 / データ / パラメータ』**から選択できます。
ファイルパスで指定したパス以下のフォルダ名からファイル名までを Linux 形式で指定することも可能です。

・指定文字列　… **『ファイル名』**の欄で指定されたファイル名を使用します。
・データ　　… 文字型・選択型のモニタデータのみ指定可能です。

名前取得先が**『データ』**のとき、モニタデータの型が選択型の場合は**『モニタデータの値 = ファイル名』**とします。
モニタ データの型が文字型の場合は文字列長を指定して、**『モニタデータの値 = ファイル名』**とします。

・パラメータ　… 文字配列型・選択型のパラメータのみ指定可能です。

データファイルの書式

『データファイルインポート』で読込むデータファイルは csv 形式として下さい。
拡張子の指定はありません。
また、文字列はデータファイルの先頭行から数行目までのヘッダ部にのみ使用して下さい。
データ中に文字列が存在する場合は 0 として読込まれます。
データファイルのデータ行数が**『データファイル読込み』**で設定された
読込行数、読込位置に対して少ない時**(データ行数 ＜ 読込行数 － 読込位置 + 1)**、
残りの部分のパラメータ値はデータファイルの最終行のデータ値に統一されて設定されます。

エクスポート定義ファイルの書式

『パラメータファイルエクスポート』時にファイル出力するパラメータ名を列挙します。
拡張子の指定はありません。
パラメータ名は MD のパラメータ定義編集で指定した名前を指定して下さい。

エクスポート定義ファイル例

```
パラメータ 1
パラメータ 2
パラメータ 3
```

上のパラメータ定義ファイルを指定して、ファイル操作のパラメータファイルエクスポートを実行すると、
実行時のパラメータ 1、パラメータ 2、パラメータ 3 の値が VC のパラメータファイルの形式で保存されます。

パラメータファイルの書式

VC のパラメータファイルの形式で指定します。
拡張子の指定は必要ありません。

パラメータファイル例

```
BEGIN,Header
        Type,VC2 Setting Parameter File
        Version,1
END
BEGIN,VC2SetPrm
        パラメータ 1,5
        パラメータ 2,1
        パラメータ 3,0
END
```

パラメータエクスポートを実行すると上図のようなファイルが保存されます。
逆に、パラメータインポートでのファイルを読込んだ場合、
パラメータ 1 が 5 に、
パラメータ 2 が 1 に、
パラメータ 3 が 0 に
それぞれ設定されます。

3.1.6.　ADX ディジタルメータ

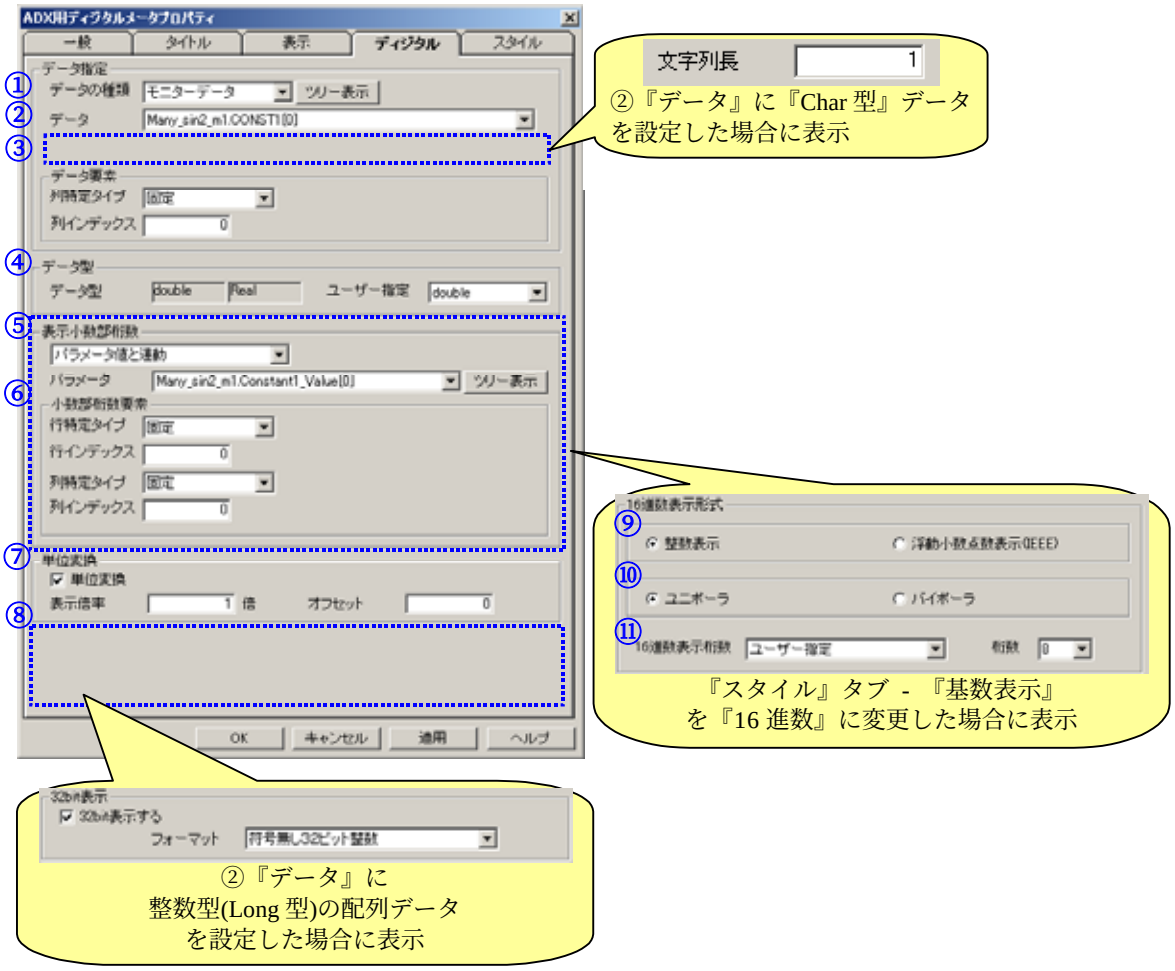
MD で設定したデータ値又はデータ文字列を表示します。

- 『一般』タブ
- 『タイトル』タブ
- 『表示』タブ、

の詳細については、『3.1.1　ADX コントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.6.1.　『ディジタル』タブ

表示するデータや、データの桁数などの設定を行います。



[データ指定]

① データの種類

ディジタルメータ上に表示するデータの種類を**『モニタデータ / システムパラメータ』**のどちらかから選択します。
システムパラメータには、CPU 使用率やオーバーランカウンタ等のシステム行状態を表わすパラメータ値を
ディジタルメータ上に表示します。

システムパラメータには内容は下記の種類が存在します。

［システムパラメータ］

BufferOverrunErrorCount	…	バッファオーバーランの発生回数
BufferOverrunErrorProcessType	…	バッファオーバーラン発生時の動作タイプ **0：モデル実行を止める** **1：何もしない**
CtrlCPUUsage	…	コントロール CPU の CPU 使用率(%)
CPUUsage	…	モデルの演算処理を行う CPU の CPU 使用率(%)
DecimationCount	…	モニタ時系列データ間引き数
OverrunErrorCount	…	オーバーランエラーの発生回数
OverrunErrorProcessType	…	オーバーランエラー発生時の動作タイプ **0：モデル実行を止める** **1：何もしない**
SamplingDecimationCount	…	サンプリング間引き数
SamplingInterval	…	サンプリング間隔(『サンプリングクロック』動作時に有効)
StepProcessType	…	モデルのステップ処理時間
StepStartEventType	…	ステップ処理開始イベントタイプ **0：サンプリングクロック** **1：タイマー** **2：ステップ処理開始コマンド**
THMonitorInterval	…	時系列データ更新間隔
TimerInterval	…	サンプリング間隔(『タイマー』動作時に有効)
DiskFreePercent	…	ディスク未使用容量割合
DiskFreeSize	…	ディスク未使用サイズ
USBMemFreePercent	…	USB メモリ未使用容量割合
USBMemFreeSize	…	USB メモリ未使用サイズ
USBMemSize	…	USB メモリサイズ
DiskSizeLL	…	大容量ディスクサイズ
DiskFreeSizeLL	…	大容量ディスク未使用サイズ
SDMemSizeLL	…	大容量 SD メディアサイズ
SDMemFreeSizeLL	…	大容量 SD メディア未使用サイズ
USBMemSizeLL	…	大容量 USB メモリサイズ
USBMemFreeSizeLL	…	大容量 USB メモリ未使用サイズ

【注意】

USB(または SD)メモリ関係する項目については開発環境
およびベースボードが USB(または SD)サポートの環境である必要があります。
また、USB(または SD)メモリをマウントしている必要があります。

② データ (or パラメータ)

データの種類で**『モニタデータ』**を指定した場合、
モデル定義ユーティリティでチェックをしたシグナル名をリストから選択します。
データの種類で**『システムパラメータ』**を選択した場合、画面の表示が『パラメータ』に変化し、
上記のシステムパラメータをリストから選択できるようになります。

③ 文字列長

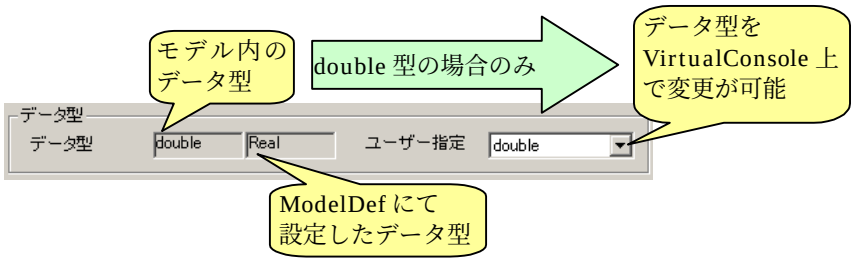
選択したデータが Char 型の場合に、表示されます。
文字列長を指定します。

【注意】

個別パラメータ(文字列長指定)は従来バージョンとの互換性を維持するために残してある機能です。
通常は配列のデータをご使用下さい。

④ データ型

関連付けられたデータの型を表示します。
左側の欄にはモデル内でのデータ型が、右側の欄にはモデル定義ユーティリティで指定したデータ型を表示します。
モデル内のデータ型が double 型の場合、『ユーザー指定』より、別のデータ型として扱うことが可能です。



[表示小数部桁数]

⑤ 表示小数部桁数・パラメータ

表示するデータの小数部桁数を指定します。
『データの種類』がモニタデータに設定してあるとき有効になります。
『ユーザー指定 / モデル定義と連動 / パラメータ値と連動 / データ値と連動』の中から選択し、設定します。

ユーザー指定

『小数部桁数』のリスト(0 ～ 10）の中から選択します。

モデル定義と連動

MD のシグナル定義で設定した**[小数部桁数]**の値が有効になります。

パラメータ値と連動

パラメータ値と連動を選択するとモニタデータのリストが表示されます。
小数部桁数と連動させるデータをリスト、または [ツリー表示] ボタンから選択します。

データ値と連動

データ値と連動を選択するとモニタデータのリストが表示されます。
小数部桁数と連動させるデータをリストから選択します。

[小数部桁数要素]

⑥ 小数部桁数要素

行・列インデックス

MD で、配列タイプを**『個別のパラメータとして使用する』**を選択して、
『パラメータ値と連動』と**『データ値と連動』**を設定した場合のみ有効となります。
『固定 / パラメータ / データ』から選択します。
小数部桁数を入力します。

[単位変換]

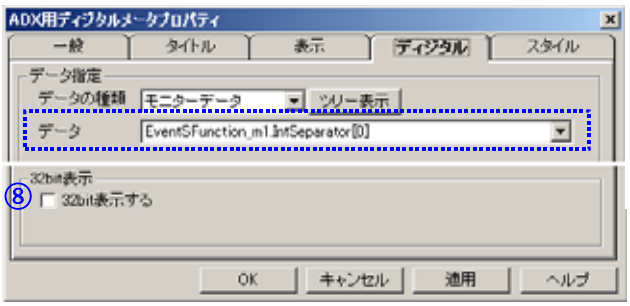
⑦ 単位変換

表示データの単位変換を行うための設定です。
単位変換のチェックを ON にすると**『表示倍率』『オフセット』**の入力欄が表示されます。
ディジタルメータに表示される値は以下の式のようになります。

ディジタルメータ表示値 = モニタデータの値 × 表示倍率 ＋ オフセット

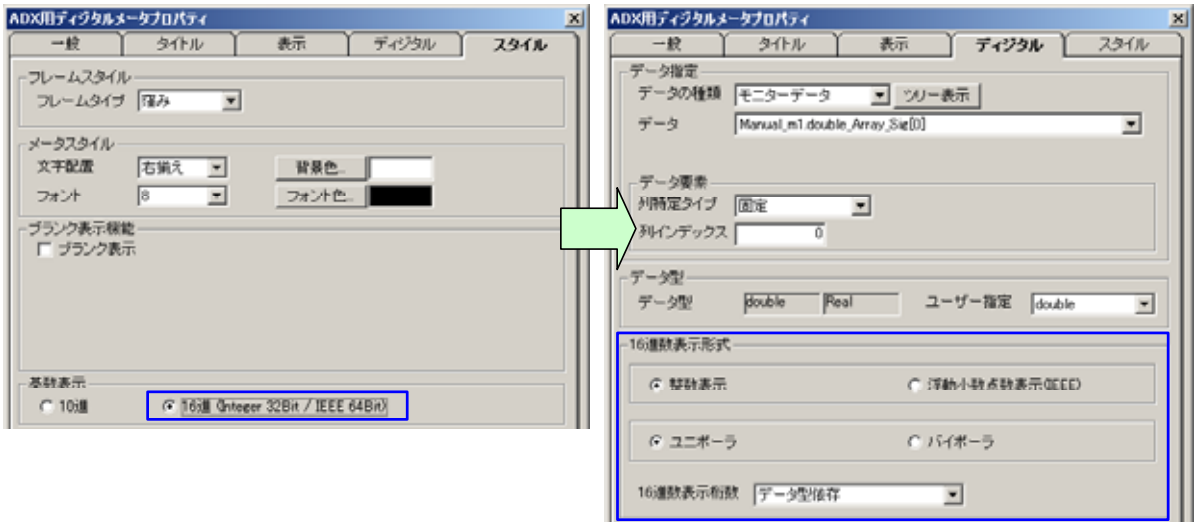
⑧ 32bit 表示

指定されたデータが整数型(Long 型)の配列の場合に表示されます。
このチェックを ON にすると、モニタデータ値を 32bit 表示させます。
『符号無し 32 ビット整数 / 符号有り 32 ビット整数』から指定をして下さい。



【注意】
この機能は、GeneralBlockSet(Ver1.5.0 以上)の 32bit 整数分割ブロック(sf_Insepareter)から出力されるデータに対してのみ、適用して下さい。
その他の場合は、正しく表示されません。

[16 進数表示形式]
『スタイル』タブの『基数表示』を『16 進』に選択した場合、この設定が有効になります。



⑨ 整数表示 / 浮動小数点表示(IEEE)
モデル内のデータ型が double 型または single 型の場合、
データ値を整数値として扱うか、浮動小数点数として扱うかを選択できます。
double 型または single 型以外のデータ型では、本項目は整数表示固定となり、設定することはできません。
浮動小数点数表示の場合、double 型および single 型の値を IEEE 形式で表示します。

⑩ ユニポーラ / バイポーラ
モデル内のデータ型が double 型の場合かつ、⑥で『整数表示』を選択している場合のみ、
データ値をユニポーラ(符号無し)として扱うか、バイポーラ(符号付き)として扱うかを選択します。
それ以外の場合は、データ型に従った設定で固定となります。

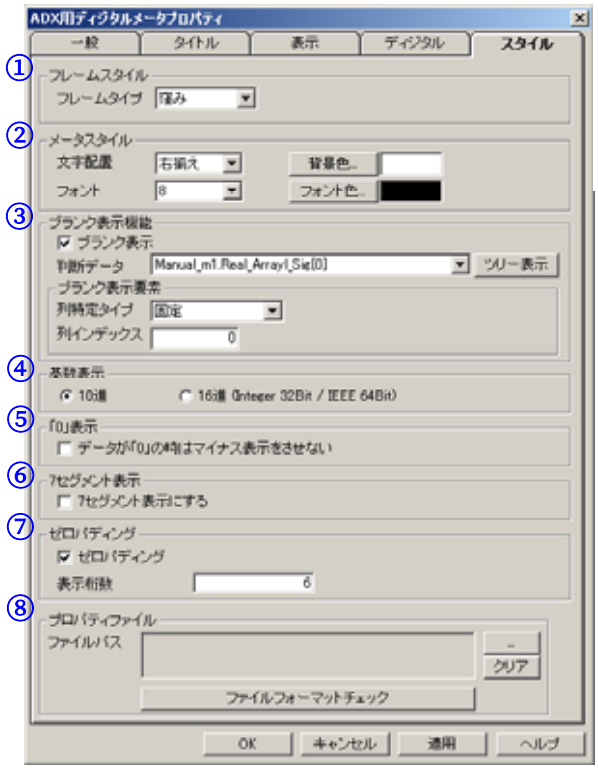
【補足】
unsigned のデータ型の場合はユニポーラ
signed のデータ型の場合はバイポーラ
となります。

⑪ 16 進数表示桁数
16 進数の整数表示かつユニポーラの場合、
(double 型で整数表示 / ユニポーラの設定にした場合および unsigned の各データ型の場合)
表示する桁数を**『データ型依存 / ユーザー指定』**から選択します。
それ以外の場合は、『データ型依存』固定の設定となります。
『データ型依存』の場合、16 進数の表示桁数はデータ型によって決定します。

データタイプ	桁数
double 型(浮動小数点数表示)	16
double 型(整数表示)	8
single 型(浮動小数点数表示)	
single 型(整数表示)	
int32 型	
uint32 型	
int16 型	4
uint16 型	
int8 型	2
uint8 型	
boolean 型	1

『ユーザー指定』の場合、表示桁数を 1 ～ 8 桁で任意に指定することが可能です。
指定された桁数がデータ型による桁数より大きい場合、先頭に 0 が必要数付加されます。
指定された桁数がデータ型による桁数より小さい場合、
指定された桁数まで表示され、それより上位の桁は表示されません。

3.1.6.2. 『スタイル』タブ



[フレームスタイル]

① フレームタイプ

ディジタルメータの表示スタイルを**『平面 / 窪み / 浮き / 凹型 / 凸型』**から選択します。

[メータスタイル]

② メータスタイル

文字配置を**『左揃え / 右揃え / 中央揃え』**から選択します。
表示データのフォントを指定します。
データ表示部の背景色、表示データのフォント色を指定します。

[ブランク表示機能]

③ ブランク表示機能

ブランク表示の設定を行います。
ブランク表示のチェックを ON にすると**『判断データ』**のリストが表示されます。
『判断データ』で選択したモニタデータの値が 0 以外になったとき、
ディジタルメータの表示をブランク(空白文字列)とします。
判断データの値が 0 のときは、**[データ指定]**で指定したデータ値を表示します。

文字の表示方法

文字を表示させるには 2 つの方法があります。

1. MD でデータ型を『Select』に設定し、モデルの数値 0、1、2、…に対応する文字列を表示する方法。
(日本語表示可)

2. モニタデータが配列で、そのデータが ASCII コードで格納されている場合です。
MD のデータ型を『Char』に設定する事で表示が可能です。(ASCII 文字のみ)

【注意】
丸付き文字(①②)やローマ数字(Ⅰ、Ⅱ)等の機種依存文字はターゲット上に表示することが出来ません。
ターゲット上に表示が可能な文字は、JIS X 0208 規格(JIS 漢字第一水準、第二水準)のみです。

[基数表示]

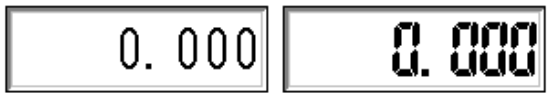
④ 10 進数 / 16 進数
表示させる基数を設定します。
7 セグメント表示が OFF になっているときに表示されます。
ON のときは 10 進で表示されます。

[『0』表示]

⑤ データが『0』の時はマイナス表示をさせない
小数桁数によってはデータが 0 のときに『-』が表示されることがあります。
それを避ける場合は ON にします。

[7 セグメント表示]

⑥ 7 セグメント表示にする
チェックを ON にすると 7 セグメント表示します。



チェック OFF 時　　チェック ON 時

⑦ ゼロパディング
チェックを ON にすると表示桁数を設定することが可能になります。
データ値の桁数を設定し、データ値が設定桁数より少ない場合は、空白の部分を 0 に置き換えます。
最大 16 桁まで設定が可能です。

[プロパティファイル]

⑧ プロパティファイル
コントロールと関連付けるデータ、コントロールのタイトルと単位をプロパティファイルから取得することができます。
プロパティファイルを使用する場合は、ここで使用するプロパティファイルを設定します。
[…] ボタンにて、ファイル選択ダイアログからプロパティファイルを選択します。
(プロパティファイルの拡張子は『cpd』)
『クリア』ボタンにて、選択したファイルパスをクリアすることができます。
『ファイルフォーマットチェック』ボタンにて、
選択されたプロパティファイルのフォーマットチェックを行うことができます。

プロパティファイルのフォーマット

プロパティファイルの拡張子は『cpd』とします。
プロパティファイルのフォーマットは以下の通りです。

1 行目
1 行目には以下の文字列をおきます。

【1 行目入力文字列】

PropDef,VC2DigitalMLib.VC2DigitalMeter

【注意】
ファイルの読み込み時、1 行目にこの文字列で無い場合は不正とします。

2 行目以降
2 行目以降には以下の定義行のうち必要なものを記述します。

モード指定(必須)
プロパティファイル中のデータ / パラメータ指定箇所を、名前で指定するかインデックスで指定するかを決定します。

1 項目： Mode (固定文字列)
2 項目： モード指定 (0 か 1 の整数値)
値：
0 = 名前指定
1 = インデックス指定

定義行記述例 (名前指定時)：Mode,0

【注意】
・この定義行は必須です。
存在しない場合は不正とします。
・定義行の項目数が不足している場合は不正とします。
・2 項目のモード指定が 0 または 1 の整数値で無い場合は不正とします。

データ指定
デジタルメータで表示するデータを指定します。

1 項目： Data (固定文字列)
2 項目： データ指定 (Mode=0 の場合はデータ名 / Mode=1 の場合はデータインデックス)

【定義行記述例 (名前指定時)】

Data,untitled_Da_1Darray[0]

【注意】
・『データ』タブの、『データの種類』を『プロパティファイル』に設定した場合、この定義行は必須となります。
存在しない場合は不正とします。
・定義行の項目数が不足している場合は不正とします。
・2 項目で指定されたデータが存在しない場合は不正とします。

配列要素指定
　データが配列の場合、表示する要素番号を指定します。

1 項目： ArrayDataColIndex　　(固定文字列)
2 項目： 指定方法　　(0～2 の整数)
　　値：
　　0 = 固定
　　1 = パラメータ
　　2 = データ
3 項目： 要素番号指定

　　値：
　　2 項目が 0 の場合：0 ～整数値(データの配列サイズ-1)
　　2 項目が 1 の場合：Mode=0 の場合はパラメータ名
　　Mode=1 の場合はパラメータインデックス
　　2 項目が 2 の場合：Mode=0 の場合はデータ名
　　Mode=1 の場合はデータインデックス

【定義行記述例(固定値指定時)】

ArrayDataColIndex,0,0

【注意】
・データタブにて、データの種類を『プロパティファイル』に設定した場合でかつ、
Data 定義行で指定されたデータが配列の場合、この定義行は必須となります。
存在しない場合は不正とします。
・定義行の項目数が不足している場合は不正とします。
・2 項目の指定方法が 0 ～ 2 の整数値で無い場合は不正とします。
・2 項目が 0 の場合、3 項目が 0 ～整数値(データの配列サイズ-1)でない場合は不正とします。
・2 項目が 1 の場合、3 項目で指定されたパラメータが存在しない場合は不正とします。
・2 項目が 1 の場合、3 項目で指定されたパラメータが配列または Char 型の場合は不正とします。
・2 項目が 2 の場合、3 項目で指定されたデータが存在しない場合は不正とします。
・2 項目が 2 の場合、3 項目で指定されたデータが配列または Char 型の場合は不正とします。

タイトル / 単位指定
　タイトル文字列 / 単位文字列を指定します。

1 項目： TitleUnit　　(固定文字列)
2 項目： タイトル文字列　　(任意文字列)
3 項目： 単位文字列　　(任意文字列)

【定義行記述例】

TitleUnit,タイトル,単位

【注意】
・『タイトル』タブにて、『名前の取得先』を『プロパティファイル』に設定した場合、この定義行は必須となります。
存在しない場合は不正とします。
・定義行の項目数が不足している場合は不正とします。

フォーマット記述例

```
PropDef,VC2DigitalMLib.VCDigitalMeter
Mode,0
Data,untitled_Da_1DArray[0]
ArrayDataColIndex,0,1
TitleUnit,Array,deg
```

3.1.7. ADX 警報ランプ

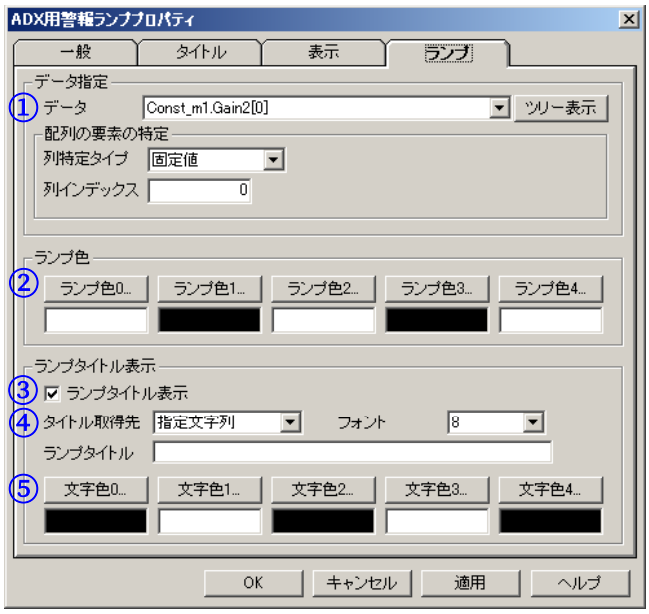
データの値により表示色が変化します。
データの値が 0,1,2,3,4 になったとき、その値に対応した色で警報ランプが点灯します。

- 『**一般**』タブ
- 『**タイトル**』タブ
- 『**表示**』タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.7.1. 『ランプ』タブ

データの関連付けや警報ランプのスタイルを指定します。



[データ指定]

① データ

警報ランプで表示するデータをリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。

[ランプ色]

関連付けされたデータの値に対する表示色を指定します。

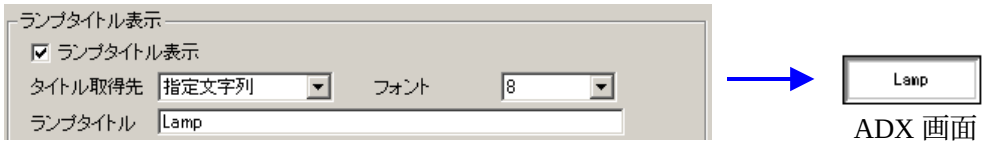
② ランプ色 0...　～　ランプ色 4

関連付けられたデータの値が 0 となったときの警報ランプの表示色を指定します。
[ランプ色 1...]、[ランプ色 2...]、[ランプ色 3...]、[ランプ色 4...] も同様に、それぞれ関連付けられたデータの値が 1，2，3，4 となったときの警報ランプの表示色を指定します。

[ランプタイトル表示]

③ ランプタイトル表示

ランプタイトル表示のチェックボックス**『ON/OFF で、ランプタイトルの表示/非表示』**を選択します。
ランプタイトル表示を選択した場合は**『タイトル取得先』『タイトル文字色』『タイトルフォント』**の設定を行います。



ADX 画面

④ タイトル取得先
ランプタイトルの取得先を**『指定文字列 / データ / データ値』**から選択します。

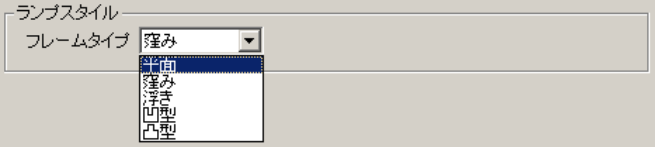
指定文字列
『ランプタイトル』に入力された文字列をタイトルとして表示します。

データ
『データ指定』で設定したデータのデータ名もしくはラベル(MD で設定）を表示します

データ値
『データ指定』で設定したデータの値を表示します。

⑤ 文字色
ランプタイトルのフォント色を指定します。

3.1.7.2. 『一般』タブ



本コントロールには一般設定に[ランプスタイル]の項目が存在します。
ランプスタイルを**『平面 / 窪み / 浮き / 凹型 / 凸型』**から選択して下さい。

3.1.8.　ADX エラー表示

実行中にエラーが発生した時、エラー内容を表示するコントロールです。

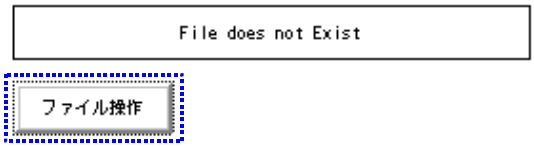
- 『**一般**』タブ
- 『**タイトル**』タブ
- 『**表示**』タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.8.1.　『エラー表示』タブ

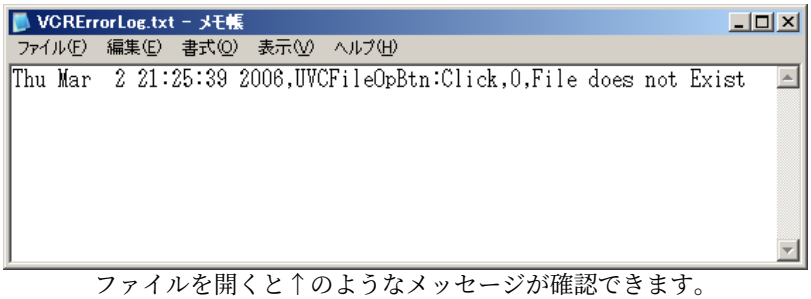
[スタイル]

エラーメッセージのフォント、フォント色を指定することができます。
エラーメッセージの例として、『**ファイル操作**』コントロールを用いてデータファイルの読込みを行った場合、
指定されたファイルが存在しない時にはエラーコントロール上に『**File does not Exist**』と表示されます。



上記のファイルの読込みが行われないなど、VC が正常に動作していない場合のデバッグに役立ちます。
エラー表示器に表示されたエラーメッセージは、
以下のターゲットの下記ディレクトリにエラーログファイルとして保存されています。

/home/and/vcrproject/プロジェクト名/VC/log/VCRErrorLog.txt



ファイルを開くと↑のようなメッセージが確認できます。

エラーコントロールにフォーカスをあて Enter を押すことで
表示されているエラーメッセージをクリアすることができます。

3.1.9.　ADX ピクチャー

ピクチャーをパネルに貼り付けます。
ファイル形式は 256 色 ビットマップ または、モノクロ ビットマップに対応しています。

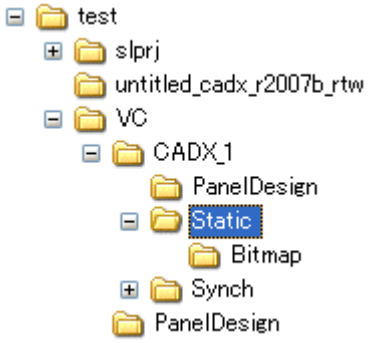
- 『**一般**』タブ
- 『**表示**』タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

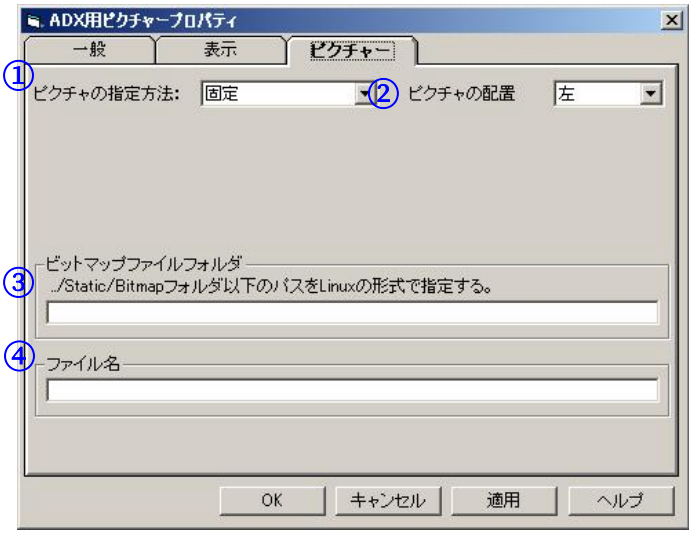
3.1.9.1.　準備

予め、対象の*.bmp ファイルをプロジェクトフォルダへ保存しておく必要があります。

ファイルパス：(プロジェクトフォルダ)¥ VC¥CADX_1¥Static¥Bitmap



3.1.9.2. 『ピクチャー』タブ



① ピクチャの指定方法
『固定 / モニタデータ』から指定します。

・**『固定』**を選択した場合
『④ビットマップファイル名』で指定したファイル名が使用されます。

・**『モニタデータ』**を選択した場合
モニタデータの型が選択型であれば、モニタデータの値 = ビットマップファイル名とします。
型が選択型(Select 型)以外の場合、**『④ビットマップファイル名』**にファイル名のリストを//区切りで入力して下さい。

指定したモニタデータの値によって表示されるビットマップファイルが変化します。(例：//Test)

② ピクチャの配置
『左 / 右 / 中央』から選択します。

③ ビットマップファイルフォルダ
表示するビットマップファイルがあるフォルダを指定します。
…/Static/Bitmap フォルダ以下のパスを Linux 形式で指定します。
ターゲット上では、フォルダ名の大文字・小文字が区別されるので注意して下さい。

例として、プロジェクトフォルダ内の VC/ADX/Static/Bitmap/aa/bb/cc
フォルダに目的のビットマップファイルが存在する場合は 『aa/bb/cc』と入力します。
“ /”でファイル名を記述すると、フルパスで指定できます。

④ ファイル名
表示するビットマップファイル名を指定します。

- **ピクチャの指定方法が『固定』の場合**
ビットマップファイルフォルダにあるビットマップファイル名を指定します。
ビットマップファイルフォルダ以下のパスを指定することも可能です。

例：Test.bmp/dd/Test.bmp

- **ピクチャの指定方法が『モニタデータ』の場合**
指定したモニタデータのデータ型が**『Select 型』**である場合、
モデル定義ユーティリティの**『選択文字列』**で指定した文字列がビットマップファイル名として認識されます。
そのため、この『ビットマップファイル名』欄の設定は表示されません。
指定したモニタデータのデータ型が**『Select 型以外』**である場合、
この欄には MD の**『選択文字列』**欄と同様の入力をします。

例：Test1.bmp//Test2.bmp//Test3.bmp

3.1.10. ADX ラベル

パネルにテキストを貼り付け、タイトル名として入力した文字列を表示します。

- **『一般』**タブ
- **『表示』**タブに

ついては、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.10.1. 『タイトル』タブ

タイトル名 / **タイトルフォント** / **フォント色**を指定します。

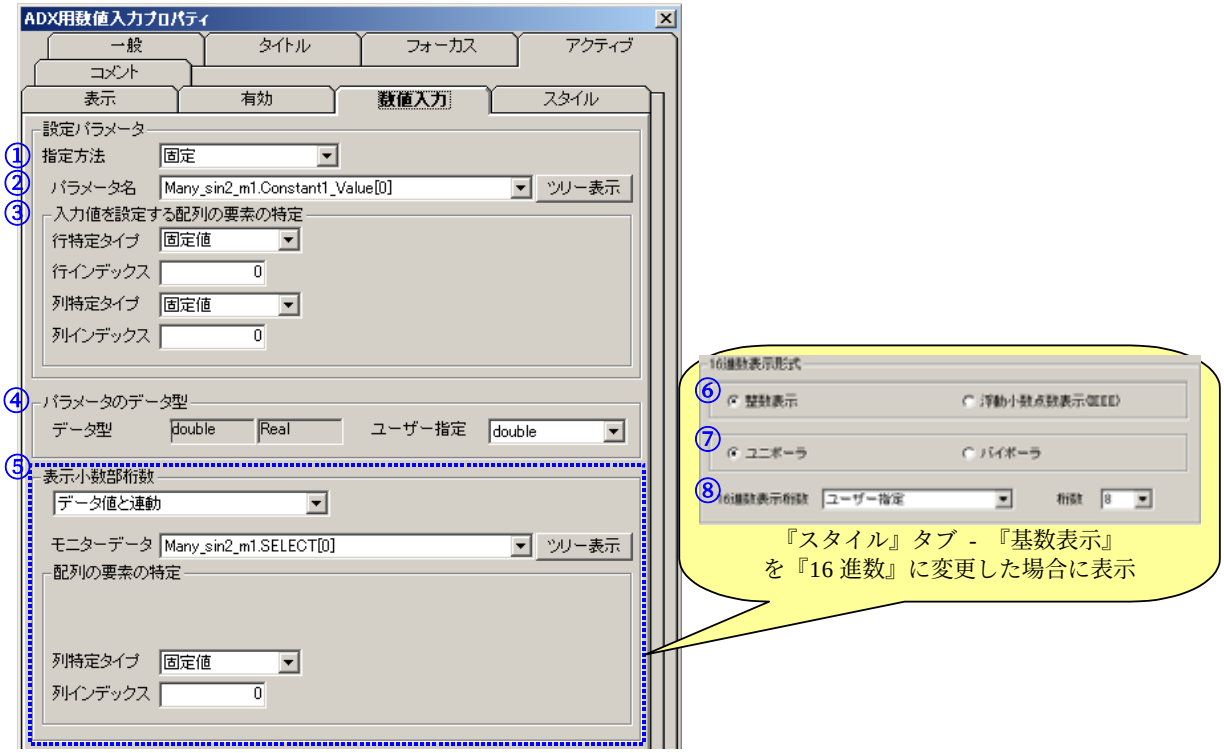
3.1.11. ADX 数値入力

MD で指定したモデル内のパラメータに値を設定します。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.11.1. 『数値入力』タブ



[設定パラメータ]

① 指定方法

パラメータの取得先を**『固定 / プロパティファイル』**から選択します。
プロパティファイルは『スタイル』タブで設定します。

② パラメータ名

値を設定するパラメータをリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。

[入力値を設定する配列の要素の特定]

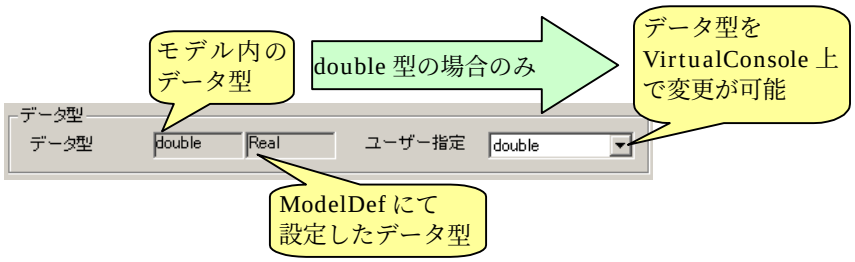
③ 行・列特定タイプ、行・列インデックス

パラメータ名で配列パラメータを指定した場合に表示されます。
配列パラメータの何行何列目の要素による値を設定するかを指定します。
行、列ともに**『固定値 / パラメータ / データ』**による設定が可能です。

[パラメータのデータ型]

④ データ型

関連付けられたデータの型を表示します。
左側の欄にはモデル内でのデータ型が、右側の欄にはモデル定義ユーティリティで指定したデータ型を表示します。
モデル内のデータ型が double 型の場合、『ユーザー指定』より、別のデータ型として扱うことが可能です。



[表示小数部桁数]

⑤ 表示小数部桁数

『ユーザー指定 / モデル定義と連動 / データ値と連動 / パラメータと連動』から選択します。

・ユーザー指定

『ユーザー指定』を選択した場合、右側の**『小数部桁数』**の欄が有効となります。
小数部桁数を 0 ～ 10 の範囲で指定できます。

・モデル定義と連動

MD の**『パラメータ定義編集』**で指定した小数部桁数の値が有効となります。

・データ値と連動

『データ値と連動』を選択した場合、**『モニタデータ』**の欄が表示されます。
小数部桁数と連動させるモニタデータをリストから選択して下さい。
データ値の小数点以下は切り捨てとなります
(モニタデータ値が 2.9 の場合、小数部桁数は 2 となります。
データ値が 1 より小さい場合は、マイナスの値の場合も含め、小数部桁数は 0 となります)。

・パラメータと連動

『パラメータと連動』を選択した場合、**『パラメータ』**の欄が表示されます。
小数部桁数と連動させるパラメータをリストから選択して下さい。
[設定範囲]パラメータ値の設定範囲を指定します。
④ 関連付けられたパラメータの範囲設定を使用するチェックボックスをチェックした場合、
モデル定義ユーティリティの**『パラメータ定義編集』**で指定した上限値・下限値が有効となります。
チェックしない場合、**『最小値』『最大値』**の欄の入力値が有効となります。

[16 進数表示形式]

「スタイル」の「基数」が「16 進」のとき有効になります。

⑥ 整数表示 / 浮動小数点数表示(IEEE)

モデル内のデータ型が double 型または single 型の場合、
データ値を整数値として扱うか、浮動小数点数として扱うかを選択します。
double 型または single 型以外のデータ型では、本項目は整数表示固定となり、設定することはできません。
浮動小数点数表示の場合、double 型および single 型の値を IEEE 形式で表示します。

⑦ ユニポーラ / バイポーラ

モデル内のデータ型が double 型の場合かつ、⑤で『整数表示』を選択している場合のみ、
データ値をユニポーラ(符号無し)として扱うか、バイポーラ(符号付き)として扱うかを選択できます。
それ以外の場合は、データ型に従った設定で固定となります。

【補足】
unsigned のデータ型の場合はユニポーラ
signed のデータ型の場合はバイポーラ
となります。

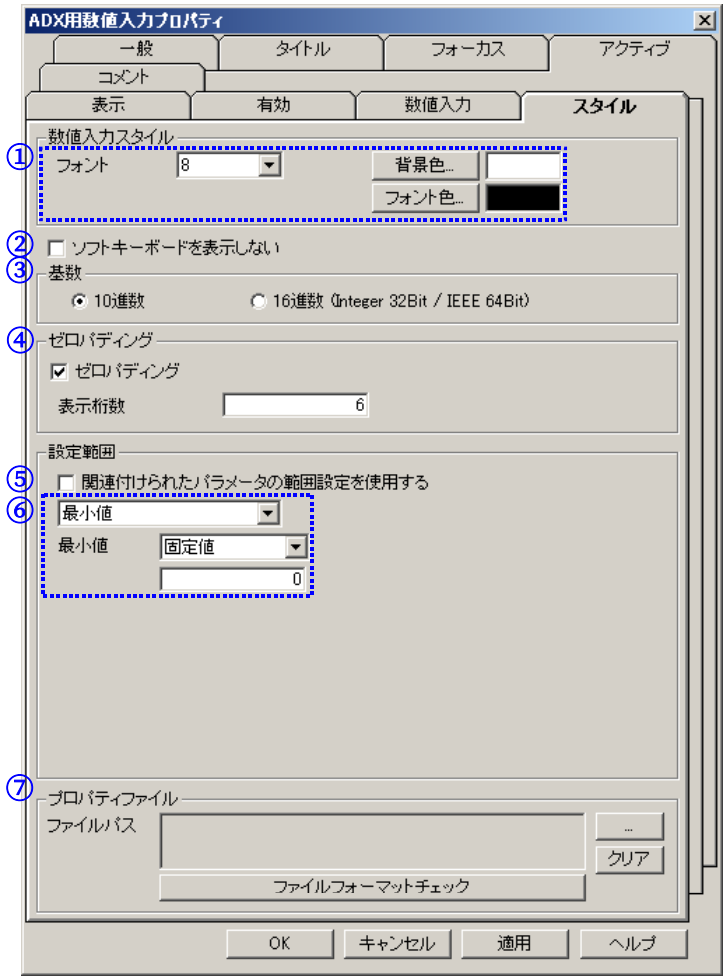
⑧ 16 進数表示桁数

16 進数の整数表示かつユニポーラの場合、
(double 型で整数表示 / ユニポーラの設定にした場合、および unsigned の各データ型の場合)
表示する桁数を『データ型依存 / ユーザー指定』から選択できます。
それ以外の場合は、『データ型依存』固定となります。
『データ型依存』の場合、16 進数の表示桁数はデータ型によって決定します。

データタイプ		桁数
double 型(浮動小数点数表示)		16
double 型(整数表示)		8
single 型(浮動小数点数表示)		
single 型(整数表示)		
int32 型		
uint32 型		
int16 型		4
uint16 型		
int8 型		2
uint8 型		
boolean 型		1

『ユーザー指定』の場合、表示桁数を 1 ～ 8 桁で任意に指定します。
指定された桁数がデータ型による桁数より大きい場合、先頭に 0 が必要数付加されます。
指定された桁数がデータ型による桁数より小さい場合、指定された桁数まで表示され、
それより上位の桁は表示されません。

3.1.11.2. 『スタイル』タブ



[数値入力スタイル]

入力パラメータ値の表示スタイルを設定します。

① フォント、背景色...、フォント色... ボタン

入力パラメータのフォント、パラメータ入力部の背景色、入力パラメータのフォント色を指定します。

② ソフトキーボードを表示しない

ソフトキーボードを表示しないで直接数値入力領域に数値を追加したい場合にこの設定にチェックを入れます。
デフォルトは OFF で、この場合ソフトキーボードが表示されます。

【注意】

テンキーがある筐体のみ有効で、テンキーがないと設定ができません。

[基数]

③ 10 進数・16 進数

『ソフトキーボードを表示しない』のチェックを OFF にした時に現れます。
パラメータの値の表示方法を、10 進数または 16 進数で選択します。
ただし、ソフトキーボード表示をさせない場合は 10 進数で表示します。
16 進数の設定できる範囲は、0 から 4294967295(0xFFFFFFFF)の整数値です。
ただし、最小値、最大値がその範囲内の場合にはそちらに従います。
関連付けされたパラメータ値が範囲外の場合には、”########”という表記になります。

[ゼロパディング]

④ ゼロパディング・表示桁数

パラメータの値の表示方法に、ゼロパディングの設定を行う場合にチェックを入れて下さい。
ゼロパディングの設定を行う場合、表示桁数を設定して下さい。
データ桁数が設定桁数より少ない場合は、空白の部分を 0 に置き換えます。

[設定範囲]

⑤ 関連付けられたパラメータの範囲設定をする

パラメータ値の設定範囲を方法を指定します。
チェックしない場合は、モデル定義の『上限値・下限値』に従い、
チェックした場合は、最大値・最小値を自分で指定できます。

⑥ 最大値・最小値

『ソフトキーボードを表示しない』でチェックを ON にした場合、
もしくは[基数]で 10 進数を選択した場合に、
最大値・最小値の設定方法を**『固定値 / データ / パラメータ』**から選択します。
この場合、設定時にコンボボックスから最大値・最小値を指定して下さい。

・固定値
実数値を指定して下さい。

・データ
データ名に設定されたデータ値を最大値・最小値とします。
選んだデータが配列の場合、『配列要素の特定』を行って下さい。

・パラメータ
パラメータ名に設定されたパラメータ値を最大値・最小値とします。
選んだパラメータが配列の場合、『配列要素の特定』を行って下さい。

[基数]を 16 進数にした場合は、最小値・最大値を直接、固定値で入力します。

[プロパティファイル]

⑦ プロパティファイル

コントロールと関連付けるデータ、コントロールのタイトルと単位を
プロパティファイルから取得することができます。
プロパティファイルを使用する場合は、ここで使用するプロパティファイルを設定します。
[...] ボタンにて、ファイル選択ダイアログからプロパティファイルを選択します。
(プロパティファイルの拡張子は『cpd』)
[クリア] ボタンにて、選択したファイルパスをクリアすることができます。
[ファイルフォーマットチェック] ボタンにて、
選択されたプロパティファイルのフォーマットをチェックすることが可能です。

プロパティファイルフォーマットは次ページの『**エラー! 参照元が見つかりません。**』を参照して下さい。

プロパティファイルのフォーマット

プロパティファイルの拡張子は『cpd』です。
プロパティファイルのフォーマットは以下の通りです。

1 行目

1 行目には以下の文字列をおきます。
読込時に 1 行目がこの文字列で無い場合は不正とします。

1 行目入力文字列： PropDef,VC2InputLib.VC2NumInput

2 行目以降

2 行目以降には以下の定義行のうち必要なものを記述します。

① モード指定(必須)

プロパティファイル中のデータ / パラメータ指定箇所を、名前で指定するかインデックスで指定するかを決定します。

1 項目： Mode (固定文字列)
2 項目： モード指定 [0 か 1 の整数値：0=名前指定
1=インデックス指定]

【定義行記述例 (名前指定時)】

```
Mode,0
```

【注意】

・この定義行は必須とします。
存在しない場合は不正とします。
・定義行の項目数が不足している場合は不正とします。
・2 項目のモード指定が 0 または 1 の整数値で無い場合は不正とします。

② パラメータ指定

数値入力で設定するパラメータを指定します。

1 項目： Param (固定文字列)
2 項目： パラメータ指定 [Mode=0 の場合はパラメータ名
Mode=1 の場合はパラメータインデックス]

【定義行記述例 (名前指定時)】

```
Param,untitled_Pa_PrmArray1D_Value[0]
```

【注意】

・**エラー! 参照元が見つかりません。**にて、指定方法を『プロパティファイル』に設定した場合、この定義行は必須となります。
存在しない場合は不正とします。
・定義行の項目数が不足している場合は不正とします。
・2 項目で指定されたパラメータが存在しない場合は不正とします。

③ 配列要素指定：行インデックス

パラメータが配列の場合、設定する要素の行番号を指定します。

1 項目： ArrayDataRowIndex (固定文字列)
2 項目： 指定方法 [0 ～ 2 の整数：0=固定 / 1=パラメータ / 2=データ]
3 項目： 要素番号指定

2 項目が 0 の場合、0 ～ 整数値(配列パラメータの行サイズ-1)
2 項目が 1 の場合、Mode=0 の場合はパラメータ名
Mode=1 の場合はパラメータインデックス
2 項目が 2 の場合、Mode=0 の場合はデータ名
Mode=1 の場合はデータインデックス

【定義行記述例 (固定値指定時)】

```
ArrayDataRowIndex,0,0
```

【注意】

- **エラー! 参照元が見つかりません。**にて、指定方法を『プロパティファイル』に設定した場合でかつ、Param 定義行で指定されたパラメータが配列の場合、この定義行は必須となります。存在しない場合は不正とします。
- 定義行の項目数が不足している場合は不正とします。
- 2 項目の指定方法が 0～2 の整数値で無い場合は不正とします。
- 2 項目が 0 の場合、3 項目が 0 ～整数値(配列パラメータの行サイズ-1)でない場合は不正とします。
- 2 項目が 1 の場合、3 項目で指定されたパラメータが存在しない場合は不正とします。
- 2 項目が 1 の場合、3 項目で指定されたパラメータが配列または Char 型の場合は不正とします。
- 2 項目が 2 の場合、3 項目で指定されたデータが存在しない場合は不正とします。
- 2 項目が 2 の場合、3 項目で指定されたデータが配列または Char 型の場合は不正とします。

④ 配列要素指定：列インデックス

パラメータが配列の場合、設定する要素の列番号を指定します。

1 項目： ArrayDataColIndex (固定文字列)
2 項目： 指定方法 [0～2 の整数：0=固定 / 1=パラメータ / 2=データ]
3 項目： 要素番号指定

2 項目が 0 の場合、0 ～整数値(配列パラメータの列サイズ-1)
2 項目が 1 の場合、Mode=0 の場合はパラメータ名
Mode=1 の場合はパラメータインデックス
2 項目が 2 の場合、Mode=0 の場合はデータ名
Mode=1 の場合はデータインデックス

【定義行記述例 (固定値指定時)】

```
ArrayDataColIndex,0,0
```

【注意】

- **エラー! 参照元が見つかりません。**にて、指定方法を「プロパティファイル」に設定した場合でかつ、Param 定義行で指定されたパラメータが配列の場合、この定義行は必須となります。存在しない場合は不正とします。
- 定義行の項目数が不足している場合は不正とします。
- 2 項目の指定方法が 0～2 の整数値で無い場合は不正とします。
- 2 項目が 0 の場合、3 項目が 0～（配列パラメータの列サイズ-1）の整数値でない場合は不正とします。
- 2 項目が 1 の場合、3 項目で指定されたパラメータが存在しない場合は不正とします。
- 2 項目が 1 の場合、3 項目で指定されたパラメータが配列または Char 型の場合は不正とします。
- 2 項目が 2 の場合、3 項目で指定されたデータが存在しない場合は不正とします。
- 2 項目が 2 の場合、3 項目で指定されたデータが配列または Char 型の場合は不正とします。

⑤ タイトル / 単位指定

タイトル文字列 / 単位文字列を指定します。

1 項目： TitleUnit (固定文字列)
2 項目： タイトル文字列 (任意文字列)
3 項目： 単位文字列 (任意文字列)

【定義行記述例】

TitleUnit,タイトル,単位

【注意】

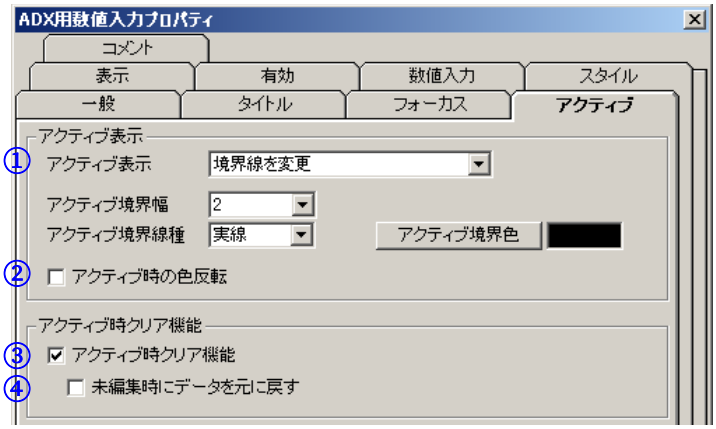
・『タイトル』タブにて、名前の取得先を『プロパティファイル』に設定した場合、この定義行は必須となります。
存在しない場合は不正とします。
・定義行の項目数が不足している場合は不正とします。

フォーマット記述例

```
PropDef,VC2InputLib.VC2NumInput
Mode,0
Data,untitled_Pa_ParamArray1D_Value[0]
ArrayDataRowIndex,0,0
ArrayDataColIndex,2,untiteld_D_PsigCol1
TitleUnit,Array1D,deg
```

3.1.11.3. 『アクティブ』タブ

アクティブ時の設定を行います。



[アクティブ表示]

アクティブ時のコントロール表示設定を行います。

① アクティブ表示

『境界線を変更 / 背景色を変更 / 境界線と背景色を変更』から選択します。

境界線を変更

コントロールがアクティブ時の境界線を指定します。
『アクティブ境界幅』『アクティブ境界線種』『 アクティブ境界色 』で
アクティブ時の境界線を指定することができます。

背景色を変更

コントロールがアクティブ時の背景色を指定します。
『背景色を変更』を選択すると**『 アクティブ境界色 』**ボタンが表示され、
アクティブ時の背景色を指定できるようになります。

境界線と背景色を変更

コントロールアクティブ時境界線と背景色の両方を指定します。

② アクティブ時の色反転

チェックボックスを ON すると、コントロールがアクティブ時に背景色と文字色が反転表示されます。

[アクティブ時クリア機能]

『数値入力』コントロールのみ設定可能です。

③ アクティブ時クリア機能

チェックボックスを ON するとアクティブ時に設定値の表示をクリアします。
OFF の場合は、現在の設定値が表示し続けます。

④ 未編集時にデータを元に戻す

『アクティブ時クリア機能』ON の場合有効となりまチェックボックスを ON した場合、
数値入力コントロールをアクティブにした後データを編集せずにアクティブ解除したときに、
設定値をアクティブにする前の状態に戻します。
チェックボックスを OFF の場合は、アクティブ解除したとき設定値は 0 にクリアされます。

3.1.11.4. 『コメント』タブ

[コメント設定]

コメント表示設定を行います。

コメント機能

ソフトキーボード表示時にコメントを表示できるようになります。

3.1.11.5. 『フォーカス』タブ

本コントロールはフォーカス設定に[フォーカス時アクティブ機能]の項目が存在します。
チェックボックスを ON にすると、コントロールがフォーカスを受け取った時に自動的にアクティブ状態となります。

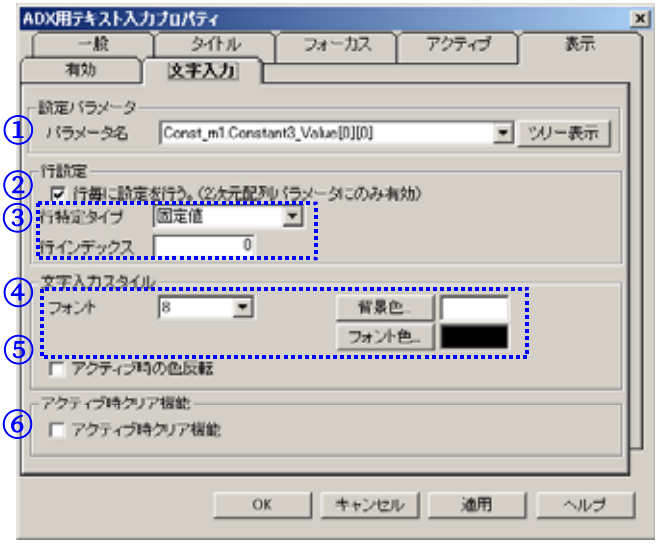
3.1.12. ADX テキスト入力

配列として使用しているパラメータに文字列を入力します。

- 『一般』タブ
- 『タイトル』タブ
- 『フォーカス』タブ
- 『表示』タブ
- 『有効』タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.12.1. 『文字入力』タブ



[設定パラメータ]

① パラメータ名

文字列(Char 型)のパラメータを指定します。
配列として使用しているパラメータのみ指定できます。

[行設定]

設定されたパラメータが 2 次元配列のときに表示されます。

② 行毎に設定を行う。(2 次元配列パラメータにのみ有効)

チェック OFF の場合は、設定されたパラメータの文字列がすべて表示されます。
ON の場合、③で指定した行にあたる文字列を表示させます。

③ 行設定

表示する行の特定方法を指定します。
行特定タイプは**『固定値 / パラメータ / データ』**から選択できます。

[文字入力スタイル]

入力文字列の表示スタイルを設定します。

④ フォント、背景色...、フォント色...　ボタン

入力文字列のフォント、文字列入力部の背景色、入力文字列のフォント色を指定します。

⑤ アクティブ時の色反転

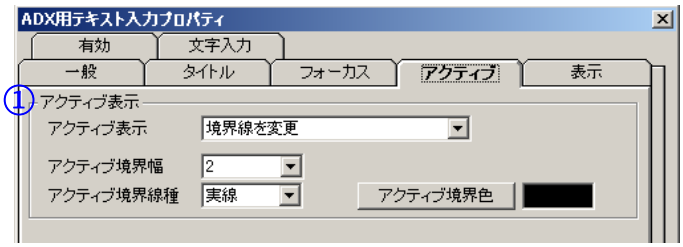
チェックボックスを ON にすると、コントロールがアクティブ時に背景色と文字色が反転表示されます。

[アクティブ時クリア機能]

⑥ アクティブ時クリア機能

チェックボックスを ON にするとアクティブ時に設定値の表示をクリアします。
OFF の場合は、非アクティブ時の設定値が固定されたまま表示されます。

3.1.12.2. 『アクティブ』タブ



[アクティブ表示]

アクティブ時のコントロール表示設定を行います。

① アクティブ表示

『境界線を変更 / 背景色を変更 / 境界線と背景色を変更』から選択します。

境界線を変更

コントロールがアクティブ時の境界線を指定します。
『アクティブ境界幅』『アクティブ境界線種』『アクティブ境界色…』
よりアクティブ時の境界線を指定することができます。

背景色を変更

コントロールがアクティブ時の背景色を指定します。
『背景色を変更』を選択すると**『アクティブ背景色…』**ボタンが表示され、
アクティブ時の背景色を指定できるようになります。

境界線と背景色を変更

コントロールアクティブ時境界線と背景色の両方を指定します。

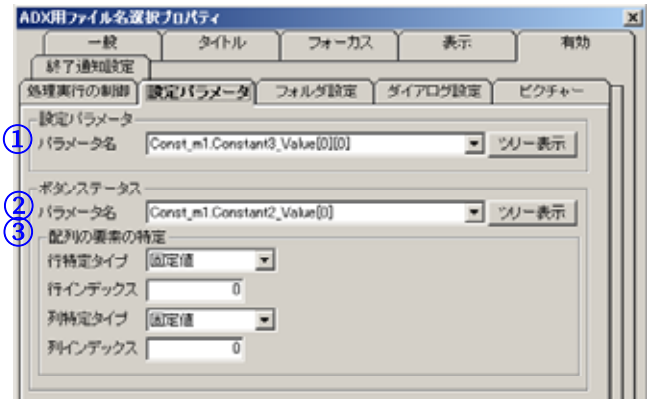
3.1.13. ADX ファイル名選択ボタン

ファイル名を選択し、関連付けされたパラメータに対してこのファイル名を設定します。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.13.1. 設定パラメータタブ



[設定パラメータ]

① パラメータ名

文字型の配列パラメータがリスト、または ツリー表示 ボタンにより表示されます。
選択されたファイル名が、ここで指定されたパラメータのデータとなります。

[ボタンステータス]

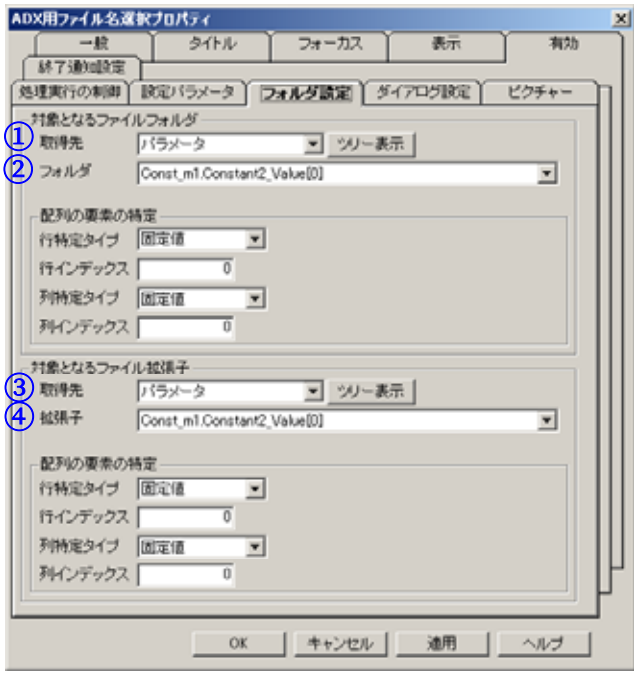
② パラメータ名

ファイル名選択ダイアログで OK / Cancel ボタンを押下した際の状況が、このパラメータに設定されます。
パラメータはリスト、または ツリー表示 ボタンより選択します。
[OK：0、Cancel：1]

③ 配列の要素の特定

パラメータ名を配列パラメータで指定した場合に表示されます。
配列パラメータ、何行何列目の要素の値を設定するか指定します。
行、列ともに**『固定値 / パラメータ / データ』**による設定が可能です。

3.1.13.2. 『フォルダ設定』タブ



[対象となるファイルフォルダ]

① 取得先

『指定文字列 / パラメータ / データ』から選択します。

② フォルダ

選択したいファイルのあるフォルダを指定して下さい。
パスを“ home/and/･･･ ”とファイルのルートから Linux の形式で指定します。
また、パラメータ・データの場合、選択したデータが選択型(Select 型)で配列の時は**『配列要素の特定』**を行います。

[対象となるファイル拡張子]

③ 取得先

『指定文字列 / パラメータ / データ』から選択します。

④ 拡張子

選択したいファイルの拡張子を指定して下さい。
全てのファイルを選択したい場合は空白にして、複数の拡張子を指定したい場合は拡張子を//で区切って下さい。
また、取得先がデータで指定した拡張子が文字型個別データの場合、取得する文字列長を指定します。
取得先がパラメータ・データで選択型の配列の場合は**『配列要素の特定』**を行います。

3.1.13.3. 『ダイアログ設定』タブ

[リスト表示]

① リスト表示

各フォント / フォント色 / 背景色の設定をして下さい。

[ボタンキャプション]

② ボタンキャプション

OK 、 キャンセル ボタンの名前を付けて下さい。

3.1.14. ADX サブパネルリンク

リンクしているサブパネルの内容を表示します。

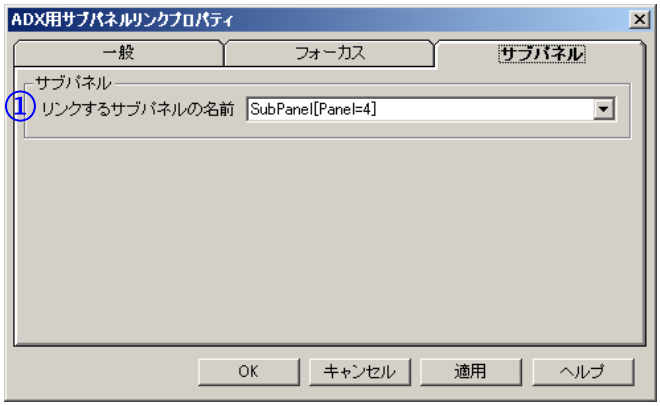
- 『**一般**』タブ
- 『**フォーカス**』タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.14.1. サブパネルの追加方法

サブパネルの新規/既存追加、削除の方法は通常のパネルの場合とほぼ同様です。
ADXサブパネル追加ボタンもしくは、メニューバーの『『挿入(I)』メニュー - ADXサブパネル追加』より
新規パネルを追加します。
新規パネルは、暫定パネル名(Untitled-？）で追加されます。
通常のパネルと同様に、サブパネル上にも ADX 専用コントロールを配置して設定することができます。
サブパネルの名前の変更はプロジェクトウィンドウ内の変更したいサブパネル名を右クリックして『名前の変更』を選択し、入力します。

3.1.14.2. 『サブパネル』タブ



[サブパネル]

① リンクするサブパネルの名前

サブパネルとリンクするサブパネル名をリストから選択します。
『**サブパネルリンク**』を配置した場所に指定したサブパネルの画面を表示することができます。

3.1.15. ADX 複数パラメータ設定ボタン

パラメータ設定定義ファイルで定義されたパラメータを設定するコントロールです。
パラメータ設定定義ファイルには複数のパラメータを指定できるので、同時に複数のパラメータの変更が可能となります。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.15.1. 『設定プロパティ』タブ

[パラメータ設定定義ファイル]

① ファイル名

パラメータ設定ファイル名を指定します。
パラメータ設定ファイルは、VC¥ADX フォルダ名¥Static フォルダ以下に格納して下さい。
VC¥CADX¥Static フォルダ以下のサブフォルダの指定も可能です。
ファイルの拡張子は何でも構いません。

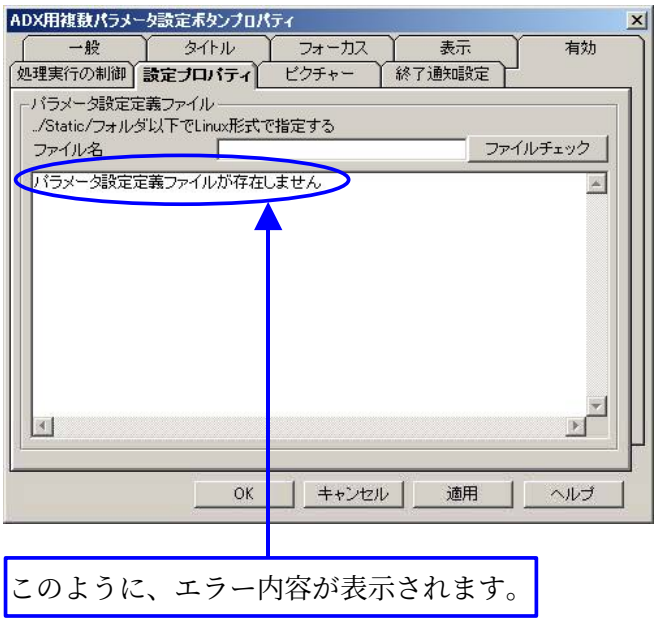
入力例： aaa.txt , bb¥aaa.txt など

② ファイルチェック

パラメータ設定定義ファイルの内容で動作するので、**設定定義ファイルの内容が不正な場合は正常に動作しません。**

『ファイルチェック』ボタンを押下することにより、パラメータ有無など、設定定義ファイルの内容をチェックできます。

問題があったときは、その行数とエラーの内容を表示します。



パラメータ定義ファイルの書式

パラメータ設定定義ファイルの書式について説明します。

構文パラメータ設定定義ファイルは以下の構文を書き連ねることによって作成します。

構文 1 行につき 1 つのパラメータを設定します。

設定タイプ，設定先パラメータ名，設定値、設定元データ名(または設定元パラメータ名）， 設定先行タイプ，設定先行番号，設定先行パラメータ名，設定先行データ名， 設定先列タイプ，設定先列番号，設定先列パラメータ名，設定先列データ名， 設定元行タイプ，設定元行番号，設定元行パラメータ名，設定元行データ名， 設定元列タイプ，設定元列番号，設定元列パラメータ名，設定元列データ名，配列コピータイプ

構文の内容

●設定タイプ

0:固定値 / 1:モニタデータの値を設定 / 2:パラメータの値を設定

・範囲外での動作：固定値

●設定先パラメータ名

値が設定されるパラメータ名

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない。

●設定値

設定タイプが 0：固定値のときに設定する値。

・範囲　　：設定されるパラメータの型に依存。
・範囲外での動作　：オーバフローの場合は型の最大・最小値を設定。
　数値でない場合は 0 を設定。

●設定元データ名(または設定元パラメータ名)
設定タイプが 1　：モニタデータの値を設定のときのモニタデータ名。
または、
設定タイプが 2　：パラメータの値を設定の時のパラメータ名。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない。

●設定先行タイプ
設定先のパラメータが配列の時有効で、設定する行の特定タイプ。
0:固定値 // 1:パラメータの値 // 2:モニタデータの値・範囲外での動作：固定値

●設定先行番号
設定先のパラメータが配列のとき有効で、行タイプが**『0：固定値』**のときの行番号。

・範囲　　：設定されるパラメータの行サイズ内の数値。
・範囲外での動作　：数値でない場合は 0。行サイズ外の数値の場合は設定しない。

●設定先行パラメータ名
設定先のパラメータが配列のとき有効で、行タイプが**『１：パラメータの値』**のときのパラメータ名。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない。

●設定先行データ名
設定先のパラメータが配列のとき有効で、行タイプが**『2：モニタデータの値』**のときのモニタデータ名。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない

●設定先列タイプ
設定先のパラメータが配列の時有効で、設定する列の特定タイプ。
0:固定値 // 1:パラメータの値 // 2:モニタデータの値

・範囲外での動作：固定値

●設定先列番号
設定先のパラメータが配列のとき有効で、行タイプが**『0：固定値』**のときの列番号。

・範囲　　：設定されるパラメータの列サイズ内の数値。
・範囲外での動作　：数値でない場合は 0。行サイズ外の数値の場合は設定しない。

●設定先列パラメータ名
設定先のパラメータが配列のとき有効で、列タイプが**『１：パラメータの値』**のときのパラメータ名。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない

●設定先列データ名
設定先のパラメータが配列のとき有効。列タイプが**『2：モニタデータの値』**のときのモニタデータ名。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない

●設定元行タイプ
設定元のパラメータが配列の時有効で、設定する行の特定タイプ。
設定タイプが**『1:モニタデータの値を設定』**の場合はこの設定は無視される。
0:固定値 // 1:パラメータの値 //2:モニタデータの値

・範囲外での動作：固定値

●設定元行番号
設定元のパラメータが配列のとき有効で、行タイプが**『0：固定値』**のときの行番号。
設定タイプが**『1:モニタデータの値を設定』**の場合はこの設定は無視される。

・範囲　　：設定されるパラメータの行サイズ内の数値。
・範囲外での動作　：数値でない場合は 0。行サイズ外の数値の場合は設定しない。

●設定元行パラメータ名
設定元のパラメータが配列のとき有効で、行タイプが**『1:パラメータの値』**のときのパラメータ名。
設定タイプが**『1:モニタデータの値を設定』**の場合はこの設定は無視される。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない

●設定元行データ名
設定元のパラメータが配列のとき有効で、行タイプが**『2：モニタデータの値』**のときのモニタデータ名。
設定タイプが『1：モニタデータの値を設定』の場合はこの設定は無視される。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない

●設定元列タイプ
設定元のパラメータが配列の時有効で、設定する列の特定タイプ。
0：固定値 // 1：パラメータの値 // 2：モニタデータの値

・範囲外での動作：固定値

●設定元列番号
設定元のパラメータが配列のとき有効で、行タイプが**『0：固定値』**のときの列番号。

・範囲　　：設定されるパラメータの列サイズ内の数値。
・範囲外での動作　：数値でない場合は 0。行サイズ外の数値の場合は設定しない。

●設定元列パラメータ名
設定するパラメータ(またはデータ名)が配列のとき有効で、列タイプが**『1：パラメータの値』**のときのパラメータ名。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない

●設定元列データ名
設定元のパラメータ(またはデータ名)が配列のとき有効。
列タイプが**『2：モニタデータの値』**のときのモニタデータ名。

・範囲　　：VC で使用するパラメータ名を特定する空文字以外の文字列。
・範囲外での動作　：設定しない

●配列コピータイプ

設定元のデータ(またはパラメータ)の値をそのまま設定先のパラメータにコピーすることができる。
ただし、設定元と設定先の行数または列数が異なる場合は、少ない方の行数または列数に合わせてコピーし、
コピーしない個所のパラメータは変更しない。
0：配列コピーしない // 1：配列コピーする

・範囲外での動作：配列コピーをしない

パラメータ定義ファイル例)

```
0,SrcParam,100,,,,,,,,,,,,,,,,0,DestParamArray[0][0],100,,0,0,,,0,0,,,,,,,,,
1,DestParamArray[0][0],,SrcData,0,0,,,0,0,,,,,,,,,
1,DestParamArray[0][0],,SrcData,1,,DestRowIndexParam,,1,,DestColIndexParam,,,,,,,,
2,DestParamArray[0][0],,SrcParam,2,,,DestRowIndexData,2,,,DestColIndexData,,,,,,,
2,DestParamArray[0][0],,SrcParamArray[0][0],0,0,,,0,0,,,0,0,,,0,0,,
```

パラメータ設定定義ファイルチェック詳細

ファイルチェック ボタン押下時のチェック内容と、エラー表示内容を以下に示します。

●設定タイプの数値チェック

[判定方法]

数値の場合、OK // 文字列、空文字の場合、NG

[NG 表示内容]

“ 設定タイプが数値でありません ”

●設定タイプの範囲チェック

[判定方法]

0,1 の数値の場合、OK // 0,1 以外の数値の場合、NG

[NG 表示内容]

“ 設定タイプが範囲外です ”

●設定パラメータ名の存在確認

[判定方法]

VC で使用するパラメータのなかに存在する場合、OK
VC で使用するパラメータのなかに存在しない場合、NG

[NG 表示内容]

“ 設定パラメータが存在しません ”

●設定パラメータのデータタイプチェック

[判定方法]

設定パラメータのデータタイプが実数型、整数型の場合、OK
設定パラメータのデータタイプが文字型、選択型の場合、NG

[NG 表示内容]

“ 設定パラメータのデータタイプが範囲外です ”

●設定値の数値チェック

[判定方法]

設定タイプが固定値のとき有効となる。
数値の場合、OK
文字列、空文字の場合、NG

[NG 表示内容]

“ 設定値が数値ではありません ”

●設定値の範囲チェック
[判定方法]
設定パラメータが配列で列タイプが固定値のとき有効となる。
設定されたパラメータの範囲内での数値の場合、OK
設定されたパラメータの範囲外での数値の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 設定値が範囲外です ”

●設定元データ名の存在確認
[判定方法]
設定タイプがデータ値のとき有効となる。
VC で使用するデータのなかに存在する場合、OK
VC で使用するデータのなかに存在しない場合、NG

[NG 表示内容]
“ コピー元データが存在しません ”

●設定元データ名のデータタイプチェック
[判定方法]
設定タイプがデータ値のとき有効となる。
コピー元データのデータタイプが実数型、整数型で配列でない場合、OK
コピー元データのデータタイプが文字型、選択型もしくは配列の場合 NG

[NG 表示内容]
“ コピー元データのデータタイプが範囲外です ”

●設定先行タイプの数値チェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列のとき有効となる。
数値の場合、OK
文字列、空文字の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行タイプが数値ではありません ”

●設定先行タイプの範囲チェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列のとき有効となる。
0,1,2 の数値の場合、OK
それ以外の数値の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行タイプが範囲外です ”

●設定先行番号の数値チェック
[判定方法]
設定先行パラメータが配列で行タイプが固定値のとき有効となる。
数値の場合、OK
文字列、空文字の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行番号が数値ではありません ”

●設定先行番号の範囲チェック
[判定方法]
設定パラメータが配列で行タイプが固定値のとき有効となる。
設定されたパラメータの行数内数値の場合、OK
設定されたパラメータの行数外数値の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行番号が範囲外です ”

●設定先行パラメータ名の存在確認
[判定方法]
設定先パラメータが配列で行タイプが**『1：パラメータの値』**のとき有効となる。
VC で使用するパラメータのなかに存在する場合、OK
VC で使用するパラメータのなかに存在しない場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行パラメータが存在しません ”

●設定先行パラメータ名のデータタイプチェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列で行タイプが**『1：パラメータの値』**のとき有効となる。
行パラメータのデータタイプが実数型、整数型で配列でない場合、OK
行パラメータのデータタイプが文字型、選択型もしくは配列の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行パラメータのデータタイプが範囲外です ”

●設定先行データ名の存在確認
[判定方法]
設定先パラメータが配列で行タイプが**『2：モニタデータの値』**のとき有効となる。
VC で使用するデータのなかに存在する場合、OK
VC で使用するデータのなかに存在しない場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行データが存在しません ”

●設定先行データ名のデータタイプチェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列で行タイプが**『2：モニタデータの値』**のとき有効となる。
行データのデータタイプが実数型、整数型で配列でない場合、OK
行データのデータタイプが文字型、選択型、もしくは、配列の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行データのデータタイプが範囲外です ”

●設定先列タイプの数値チェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列のとき有効となる。数値の場合、OK
文字列、空文字の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 列タイプが数値ではありません ”

●設定先列タイプの範囲チェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列のとき有効となる。
0,1,2 の数値の場合、OK
それ以外の数値の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 列タイプが範囲外です ”

●設定先列番号の数値チェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列で列タイプが固定値のとき有効となる。
数値の場合、OK
文字列、空文字の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 列番号が数値ではありません ”

●設定先列番号の範囲チェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列で列タイプが固定値のとき有効となる。
設定されたパラメータの列数内での数値の場合、OK
設定されたパラメータの列数外での数値の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 行番号が範囲外です ”

●設定先列パラメータ名の存在確認
[判定方法]
設定先パラメータが配列で列タイプが**『1：パラメータの値』**のとき有効となる。
VC で使用するパラメータのなかに存在する場合、OK
VC で使用するパラメータのなかに存在しない場合、NG

[NG 表示内容]
“ 列パラメータが存在しません ”

●設定先列パラメータ名のデータタイプチェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列で列タイプが**『1：パラメータの値』**のとき有効となる。
列パラメータのデータタイプが実数型、整数型で配列でない場合、OK
列パラメータのデータタイプが文字型、選択型もしくは配列の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 列パラメータのデータタイプが範囲外です ”

●設定先列データ名の存在確認
[判定方法]
設定先パラメータが配列で列タイプが**『2：モニタデータの値』**のとき有効となる。
VC で使用するデータのなかに存在する場合、OK
VC で使用するデータのなかに存在しない場合、NG

[NG 表示内容]
“ 列データが存在しません ”

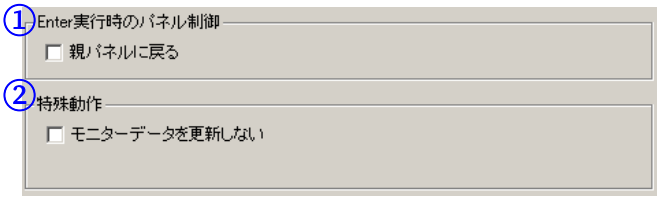
●設定先列データ名のデータタイプチェック
[判定方法]
設定先パラメータが配列で列タイプが**『2：モニタデータの値』**のとき有効となる。
列データのデータタイプが実数型、整数型で配列でない場合、OK
列データのデータタイプが文字型、選択型、もしくは、配列の場合、NG

[NG 表示内容]
“ 列データのデータタイプが範囲外です ”

●以下のチェック内容は『設定先』の場合と同様。
但し、設定タイプが『1：モニタデータの値を設定』の場合は、行に関するチェックは行わない。

・設定元行タイプの数値チェック
・設定元行タイプの範囲チェック
・設定元行番号の数値チェック
・設定元行番号の範囲チェック
・設定元行パラメータ名の存在確認
・設定元行パラメータ名のデータタイプチェック
・設定元行データ名の存在確認
・設定元行データ名のデータタイプチェック
・設定元列タイプの数値チェック
・設定元列タイプの範囲チェック
・設定元列番号の数値チェック
・設定元列番号の範囲チェック
・設定元列パラメータ名の存在確認
・設定元列パラメータ名のデータタイプチェック
・設定元列データ名の存在確認
・設定元列データ名のデータタイプチェック

3.1.15.2. 『処理実行の制御』タブ



[Enter 実行時のパネル制御]

① 親パネルに戻る

ボタン押下もしくはイベント受信による処理実行後に、
本コントロールが置かれているパネルに親パネルが存在する場合は、そのパネルを表示します。

[特殊動作]

② モニターデータを更新しない

チェックを入れておくと、処理実行前にモニタデータの更新を行いません。
処理実行前にモニターデータの更新を行わなくても良い場合に使用します。

上記以外の『処理実行制御』タブの項目については、『3.1.1.6　『処理実行の制御』タブ』をご参照下さい。

3.1.16. ADX ネットワーク設定

ターゲット用 IP アドレス・ネットマスク・ゲートウェイの 3 種類を設定するコントロールです。
表示方法は、“XXX.XXX.XXX.XXX”でドットを含んだ 15 桁の数値で表示されます。
設定を有効にするにはシステムを再起動する必要があります。
IP アドレスのデフォルト値は“172.16.202.12”です。

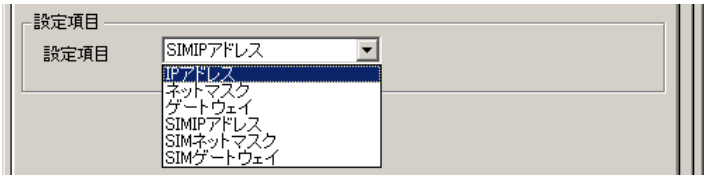
- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.16.1. 『数値入力』タブ

[数値入力スタイル]
① 数値入力スタイル
『フォント / 背景色 / フォント色』を指定します。

[設定項目]
② 設定項目
『IP アドレス / ネットマスク / ゲートウェイ / SIMIP アドレス / SIM ネットマスク / SIM ゲートウェイ』
を選択し設定します。



3.1.16.2. アクティブタブ

[アクティブ表示]

アクティブ時のコントロール表示設定を行います。

① アクティブ表示

『境界線を変更 / 背景色を変更 / 境界線と背景色を変更』から選択します。

[境界線を変更]

コントロールがアクティブ時の境界線を指定します。
『アクティブ境界幅』『アクティブ境界線種』『アクティブ境界色…』
よりアクティブ時の境界線を指定することができます。

[背景色を変更]

コントロールがアクティブ時の背景色を指定します。
『背景色を変更』を選択すると**『アクティブ背景色…』**ボタンが表示され、
アクティブ時の背景色を指定できるようになります。

[境界線と背景色を変更]

コントロールアクティブ時境界線と背景色の両方を指定します。

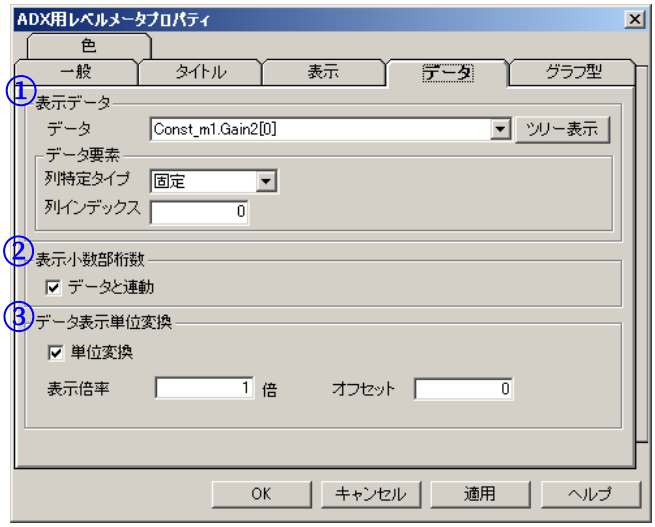
3.1.17. ADX レベルメータ

データをレベルバーにより表示します。

- 『一般』タブ
- 『タイトル』タブ
- 『表示』タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.17.1. 『データ』タブ



[表示データ]

① データ

MD でチェックしたシグナル名をリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。

[表示小数部桁数]

② データと連動

表示するデータの小数部桁数を指定します。
データと連動のチェックを OFF にすると**『小数部桁数』**リスト(0 ～ 10）の中から選択出来ます。
データと連動のチェックを ON にすると、選択したデータの小数部桁数(MD で設定)を引き継ぎます。

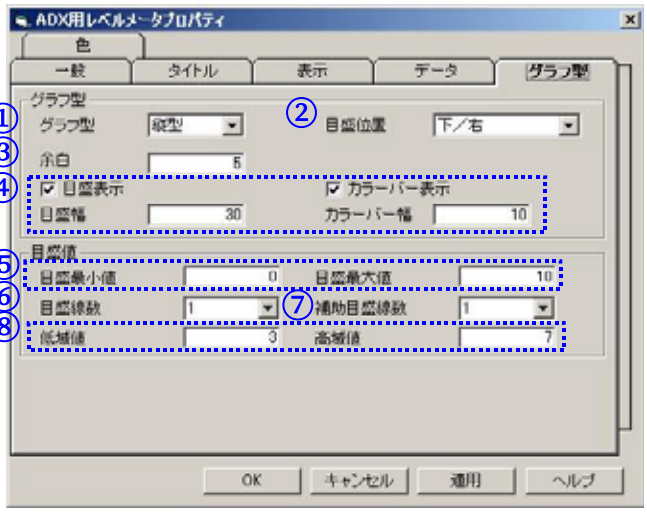
[データ表示単位変換]

③ データ表示単位変換

表示データの単位変換を行うための設定です。
単位変換のチェックを ON にすると**『表示倍率』、『オフセット』**の入力欄が表示されます。
ディジタルメータに表示される値は以下の式のようになります。

ディジタルメータ表示値 = モニタデータの値 × 表示倍率 ＋ オフセット

3.1.17.2. 『グラフ型』タブ



[グラフ型]

① グラフ型

『グラフ型』レベルメータの型を**『縦型 / 横型』**から選択します。

② 余白

バーの動作方向の余白を設定します。
(値の範囲：0 ～ 10)

③ 目盛位置

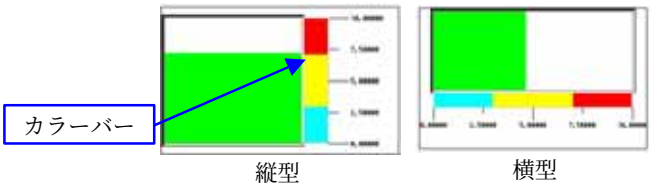
目盛の位置を**『下/右』『上/左』**から選択します。

④ 目盛表示、カラーバー表示

目盛・カラーバーの表示/非表示を選択します。

⑤ 目盛幅、カラーバー幅

目盛・カラーバーの幅を指定します。
入力値はレベルメータのパーセンテージで指定します。



[目盛値]

⑤ 目盛最小値、目盛最大値

目盛の最小値、最大値を指定します。

⑥ 目盛線数

[目盛表示]にチェックすると有効になります。
最大値と最小値の間に、何点の目盛を入れるかを指定します。

⑦ 補助目盛線数

[目盛表示]にチェックすると有効になります。
目盛間の補助目盛点数を指定します。

⑧ 低域値、高域値

［**カラーバー表示**］にチェックすると有効になります。

低域値・高域値を指定します。

- 目盛の最小値から低域値までの範囲　　⇒ 低域
- 目盛の高域値から最大値までの範囲　　⇒ 高域
- 低域値から高域値まで　　⇒ 中域

となります。

3.1.17.3. 『色』タブ

カラーバーなどの色の設定を行います。

[グラフの色]

① グラフの色

バーの色...、**バーの背景色...** **ボタン**

バーの色とバーの背景色を設定します。

② カラーバー

高域色...、**中域色...**、**低域色...** **ボタン**

カラーバーの高域、中域、低域の色をそれぞれ設定します。

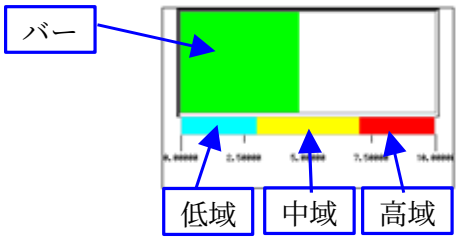
③ スケール

目盛フォント

目盛のフォントを設定します。

フォント色...、**背景色...**、**目盛線色...** **ボタン**

フォント・背景・目盛線の色を設定します。



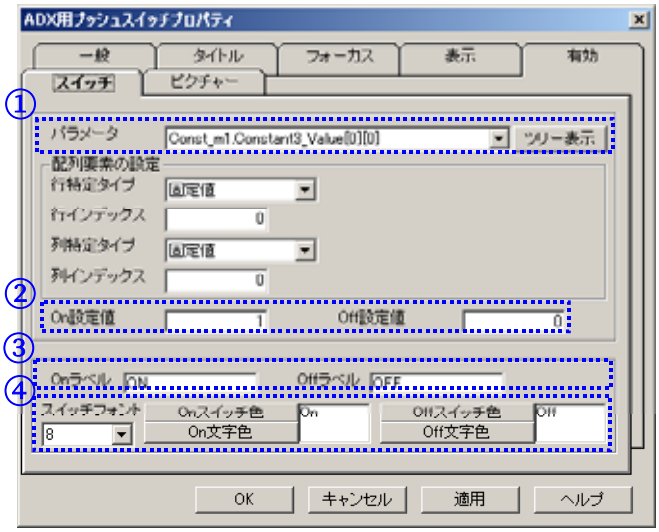
3.1.18. ADX プッシュスイッチボタン

スイッチの状態により、関連付けられたパラメータに対し値を設定するスイッチです。
スイッチが押されている状態、押されていない状態それぞれに任意の表示、任意の値を設定することができます。

- 『一般』タブ
- 『タイトル』タブ
- 『フォーカス』タブ
- 『表示』タブ
- 『有効』タブ
- 『ピクチャー』タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.18.1. 『スイッチ』タブ



① パラメータ
関連付けるパラメータを選択します。
MD の『名前』で指定された名称がリスト、または [ツリー表示] ボタンから選択します。

② On/Off 設定値
On の時(ボタンが押された状態)
Off の時(ボタンが押されていない状態)パラメータに設定する値を指定します。

③ On/Off ラベル
On/Off の時、スイッチ上に表示される文字列を指定します。

④ [On/Off スイッチ色]、[On/Off 文字色] ボタン
スイッチ上に表示される文字のフォント及びスイッチの色、文字の色を指定します。

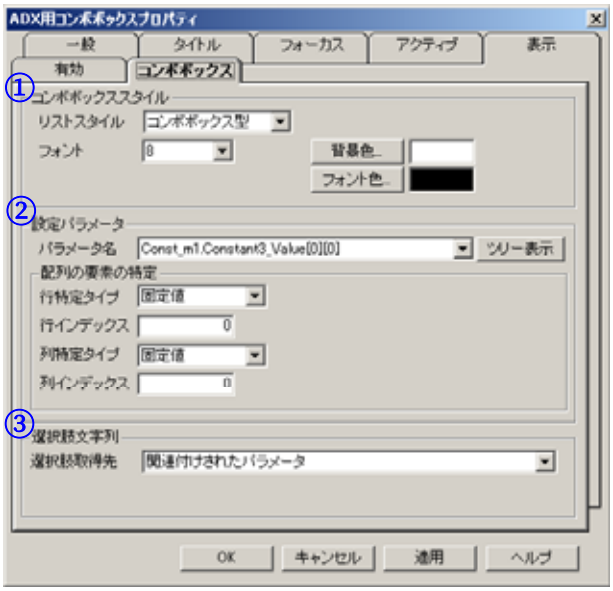
3.1.19. ADX コンボボックス

設定パラメータをコンボボックスで表示された、関連付けされたデータの順番(0 始まり)に対応した値を設定するコントロールです。
コンボボックス型とリストボックス型があります。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.19.1. 『コンボボックス』タブ



[コンボボックススタイル]
① コンボボックススタイル
コンボボックス型かリストボックス型の選択をします。
フォント、**背景色...**、**フォント色...**を設定します。

[設定パラメータ]
② 設定パラメータ
パラメータをリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。

[選択肢文字列]

③ 選択肢文字列

[選択肢取得先]

オプションボタンに表示する選択肢文字列の取得先を
『関連付けされたパラメータ / 文字列パラメータ / 指定文字列 / 選択型パラメータ』から選択します。

[関連付けされたパラメータ]

②で指定した選択型のパラメータの**『選択文字列』**を表示します。

[文字列パラメータ]

表示される選択肢の文字列を取得する、2 次元配列 Char 型のパラメータ名を表示します。
VC で使用可能な 2 次元配列 Char 型のパラメータ名が存在しない場合には、選択肢は未設定だけとなります。
未設定が選択されている場合にはコンボボックスの選択肢の部分には文字列は表示されません。
コンボボックスの選択肢は 2 次元配列 Char 型パラメータの行数に合わせます。
2 次元配列 Char 型パラメータから取得したデータがブランクの場合はコンボボックスとして表示しませんが、
値としては存在します。

[指定文字列]

『指定文字列』に入力した選択文字を表示させます。

[選択型パラメータ]

配列でない選択型パラメータを表示します。

【注意】

丸付き数字(①②)やローマ数字(Ⅰ、Ⅱ)等の機種依存文字はターゲットでは表示できません。
表示できる文字は、JISX 0208 規格(JIS 漢字第一水準、第二水準)です。

3.1.19.2. 『アクティブ』タブ

アクティブ時のコントロール表示設定を行います。

[アクティブ表示]

① アクティブ表示

『境界線を変更 / 背景色を変更 / 境界線と背景色を変更』から選択します。

[境界線を変更]

コントロールがアクティブ時の境界線を指定します。
『アクティブ境界線』、『アクティブ境界線種』、 **アクティブ境界線色** ボタン
よりアクティブ時の境界線を指定することができます。

[背景色を変更]

コントロールがアクティブ時の背景色を指定します。
『背景色を変更』を選択すると **アクティブ背景色** ボタンが表示され、
アクティブ時の背景色を指定できるようになります。

[境界線と背景色を変更]

コントロールアクティブ時境界線と背景色の両方を指定します。

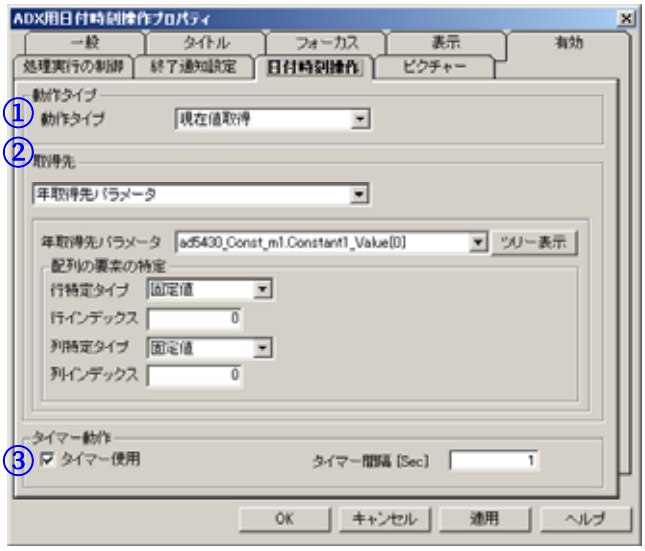
3.1.20. ADX 日付時刻操作

日付/時刻の操作をします。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.20.1. 『日付時刻操作』タブ



[動作タイプ]

① 動作タイプ

[設定実行]

取得先データを元に ADX の日付時刻を変更します。

[現在値取得]

現在の日付/時刻をモデル内のパラメータに渡します。

② 取得先

動作タイプの選択肢に合わせて、取得先を選択します。

[設定実行]選択時

[現在値取得]選択時

取得先データまたはパラメータはリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。

③ タイマー動作(動作タイプで現在値を選択した時のみ)
この項目にチェックを入れると、タイマー間隔毎にデータが渡されます。

3.1.21. ADXLCD 制御ボタン

LCD の制御を行います。
LCD の**オン/オフ、コントラストアップ/ダウン、輝度アップ/ダウン**の機能があります。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.21.1. 『コマンド』タブ

[コマンド]
コマンド選択よりコマンドを選択します。

LCD オン
キーを押すと LCD が点きます。

LCD オフ
キーを押すと LCD が消えます。
タッチパネルを触ると点きます。

コントラストアップ
キーを押す毎に明るくなります。

コントラストダウン
キーを押す毎に暗くなります。

輝度アップ
キーを押す毎に輝度が上がります。

輝度ダウン
キーを押す毎に輝度が下がります。

3.1.22. ADX トレンドグラフ

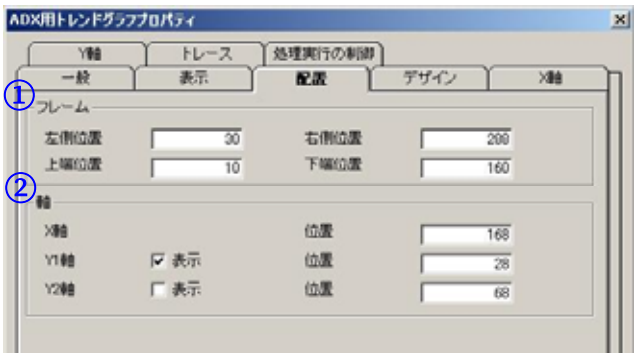
データをグラフ表示します。

データをトレンドグラフに表示するには、MD で 2D 表示を ON にします。
ただし、不要な 2D 表示を ON にしておくと、バッファオーバーランの原因となるので注意が必要です。
高速サンプリングで、データのトレンドのみを見たい場合は、2D データを間引くと有効です。
2D表示データの間引きは『設定(S) - システムコードパラメータの設定 - モニタ時系列間引き数』で設定できます。
またトレンドグラフで表示できるデータは 1 トレースあたり 100kData です。
100kData を超えると古いデータから削除されます。データ数は MD で変更可能です。
(200kData 程度以上になると、表示の更新レートに影響がでます。)

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.22.1. 『配置』タブ



[フレーム]
① フレーム
[左端位置]、[右端位置]、[上端位置]、[下端位置]によりグラフ表示部(フレーム)の位置・大きさを設定します。

[軸]
② 軸
X 軸の位置を指定します。
入力値はトレンドグラフコントロールの上端からの距離です。
Y1 軸、Y2 軸**『表示』**のチェックボックスで、軸の**表示/非表示**を選択します。
『位置』で Y 軸の位置を指定します。入力値はトレンドグラフコントロールの左端からの距離です。

Y1 軸、Y2 軸
『表示』のチェックボックスで、軸の表示/非表示を選択します。
『位置』で Y 軸の位置を指定します。
入力値はトレンドグラフコントロールの左端からの距離です。

3.1.22.2. デザインタブ

フレーム・グリッド・軸に関するスタイルの設定を行います。

[フレーム]

① フレーム

フレーム色...、**枠内色...** **ボタン**

フレーム色・枠内色を指定します。

[グリッド]

② グリッド

グリッド表示をするか否かと色を指定します。

[軸]

③ 軸

目盛フォントと目盛フォント色を指定します。

3.1.22.3. 『X 軸』タブ

X 軸の設定を行います。

① 最小値
X 軸の目盛の最小値です。
この値は 0 で固定されています。

② 格子分割数
格子により、最小値から最大値までを何分割するかを指定します。

③ 最大値
固定値かデータを選択し、X 軸の目盛の最大値を指定します。

④ 小数部桁数
目盛の小数部の桁数を指定します。
指定値以下の値は四捨五入されます。

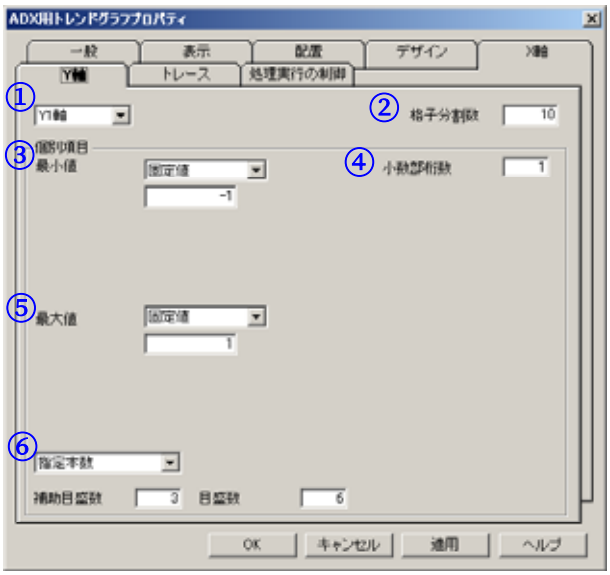
⑤ 目盛表示タイプ
X 軸の最小値から最大値までの目盛の表示方法を指定します。
表示方法は以下の 2 タイプがあります。

1) 指定本数：『補助目盛数』と『目盛数』によって設定します。
   目盛数で設定した本数で等間隔に目盛を描画します。
   補助目盛数で設定した本数で目盛の間を補助目盛で等間隔に描画します。

2) 指定値単位：『補助目盛数』と『基準値』と『間隔』によって設定します。
   基準値で設定された位置から間隔で設定された値の分だけ等間隔に目盛を描画します。
   補助目盛数で設定した本数だけ目盛の間を等間隔に描画します。

3.1.22.4. 『Y 軸』タブ

Y 軸の設定を行います。



[共通項目]

① Y 軸選択

以下の項目は Y1 軸、Y2 軸に対し個別に設定を行います。
左上のポップアップで軸を選択した後、以下の設定を行います。

② 格子分割数

格子により、最小値から最大値までを何分割するかを指定します。
(Y1 軸、Y2 軸ともに共通)

[個別項目]

③ 最小値

固定値かデータを選択し、Y 軸の目盛の最小値を指定します。

④ 小数部桁数

目盛の小数部の桁数を指定します。
指定値以下の値は四捨五入されます。

⑤ 最大値

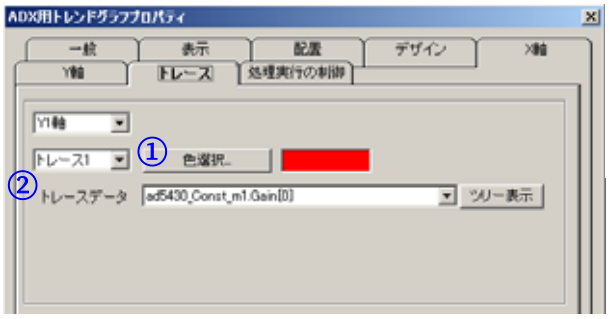
固定値かデータを選択し、Y 軸の目盛の最大値を指定します。

⑥ 目盛表示タイプ

Y 軸の最小値から最大値までの目盛の表示方法を指定します。
表示方法及び表示設定は X 軸と同じです。

3.1.22.5. 『トレース』タブ

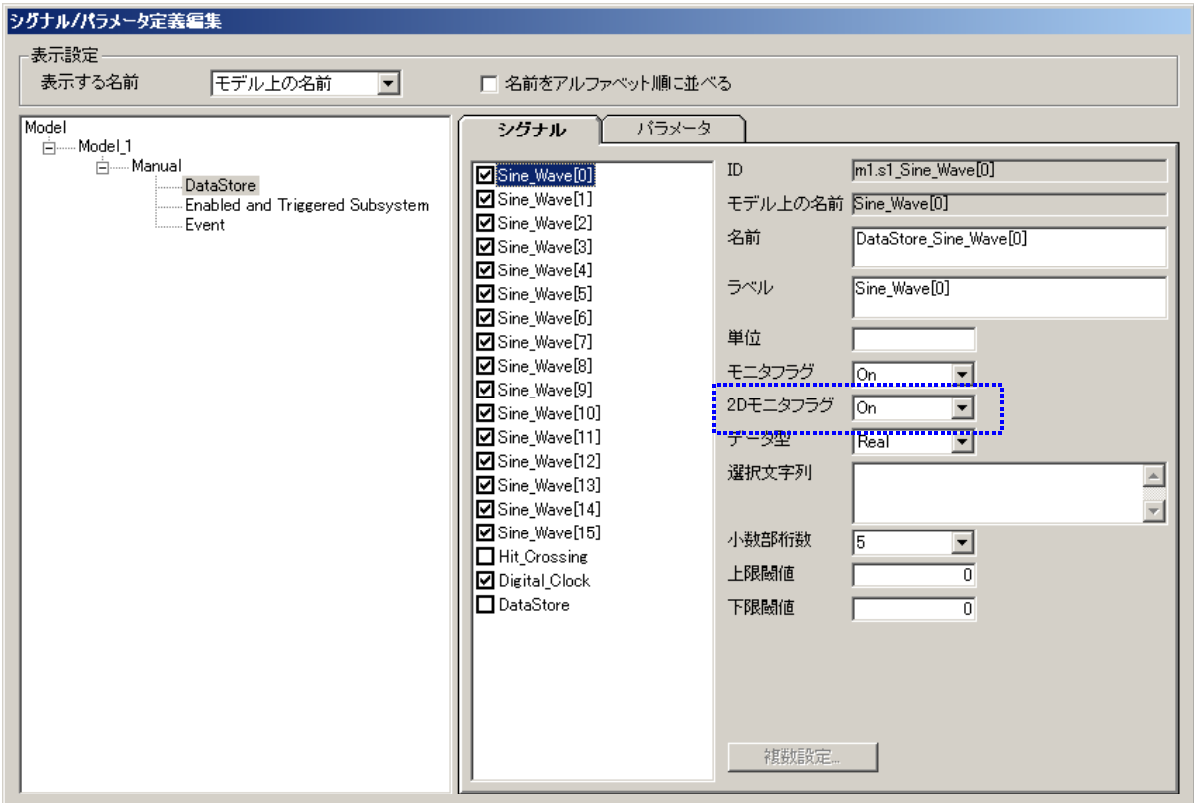
表示するデータについての設定を行います。



以下の項目は Y1 軸、Y2 軸に対し個別に設定を行います。
左上のポップアップで軸を選択した後、以下の設定を行います。

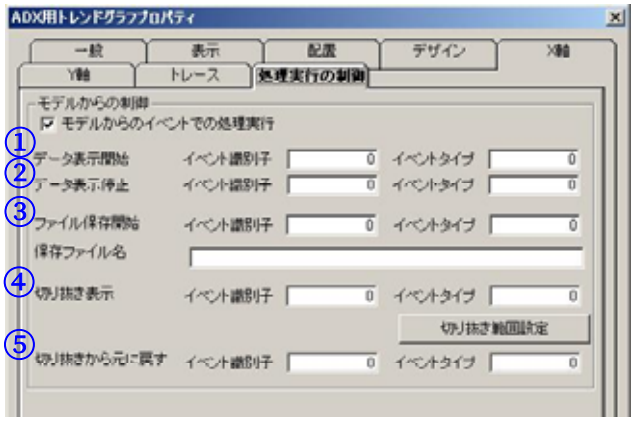
① 色選択... ボタン
それぞれのトレースに対して色の選択をします。

② トレースデータ
トレースするシグナルデータをリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。
選択可能なデータは、モデル定義ユーティリティ(またはツリー表示機能)により『2D モニタフラグ』を ON に設定しているシグナルデータに限ります。



3.1.22.6. 『処理実行の制御』タブ

処理実行の制御について設定します。



モデルからのイベントにより機能の制御を行います。
イベント発行するブロック(EventOutput)のイベント識別子とイベントタイプを設定することにより関連付けされます。
モデルからのイベントにより実行される機能は以下の通りです。

- **データ表示の開始**
- **データ表示の停止**
- **表示データのファイル保存の実行**
- **切り抜き表示**
- **切り抜き表示から元に戻す**

ただし、上記 4 つの機能に同一のイベント識別子とイベントタイプを設定した場合、動作は保証されません。

① データ表示の開始
データ表示が停止されていれば表示を開始する。
(データ表示中であれば何も動作しません。)

② データ表示の停止
データ表示中であれば表示を停止する。
(データ表示が停止されていれば何も動作しません。)

③ ファイル保存開始(表示データのファイル保存の実行)
イベントにより指示されたら、表示してあるデータを CSV フォーマットで『保存ファイル名』のファイルに保存します。

④ 切り抜き表示

モデル実行中でデータ表示が停止していて、モデルからの“切り抜き表示”のイベントにより指示されたら、
指定された時間軸範囲、Y 軸範囲での切り抜き表示します。
モデル停止中はイベントが発生しないため切り抜き表示はできません。
この切抜きの範囲は**『切り抜き範囲設定』**ボタンを押すと表示される、**『切り抜き範囲設定』**で設定します。

[X 軸]

開始タイプ・終了タイプを**『固定 / データ』**から選択し、開始値・終了値を設定します。
開始タイプ・終了タイプ『データ』にした場合、開始値・終了値を指定するデータをリスト、
または ツリー表示 ボタンから選択します。
配列のデータ名を指定した場合は、列を指定して要素を特定出来ます。

[Y 軸]

以下の項目は Y1 軸、Y2 軸に対し個別に設定を行います。
左上のポップアップで軸を選択した後、以下の設定を行います。

開始値・終了値

開始タイプ・終了タイプを『固定/データ』から選択し、開始値・終了値を設定します。
開始タイプ・終了タイプ『データ』にした場合、開始値・終了値を指定するデータをリスト、
または ツリー表示 ボタンから選択します。
配列のデータ名を指定した場合は、列を指定して要素を特定出来ます。

⑤ 切り抜き表示から元に戻す

データ表示が停止していて、切り抜き表示中でモデルからの “ 切り抜き表示から元に戻る ” のイベントにより指示されたら、
データ表示を停止したときの表示に戻ります。
モデル停止中はイベントが発生しないため実行できません。

3.1.23. ADX システム操作ボタン

システム操作を実行するコントロールです。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.23.1. 『コマンド』タブ

[コマンド選択]

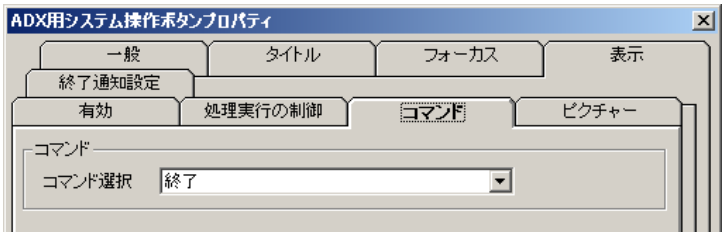
制御コマンドには**『終了 / SD メディア制御 / USB メモリ制御 / 電源 OFF / 全モデルパラメータ取得』**があります。

終了

アプリケーションの終了

ボタンが押されると、モデルを停止、ターミネート後、VCRADX を終了し、プロジェクト選択画面に戻ります。

Windows の VCon とターゲットが接続されているときは、この機能は有効では有りません。

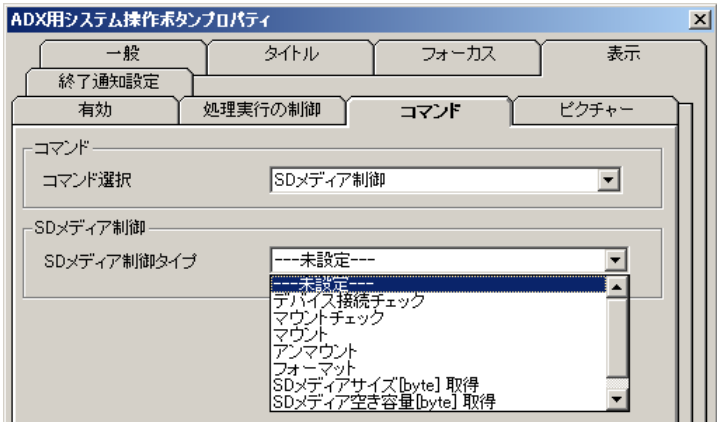


SD メディア制御タイプ

『デバイス接続チェック / マウントチェック / マウント / アンマウント / フォーマット / SD メディアサイズ [byte] 取得 / SD メディア空き容量 [byte] 取得 / SD メディア空き容量 [%] 取得』

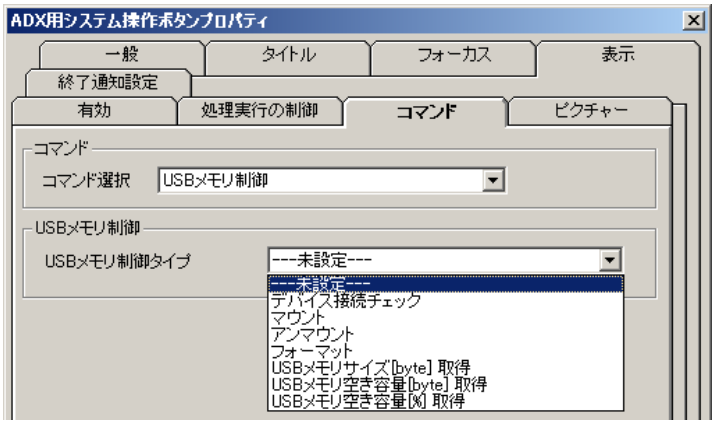
の選択を行います。

この時、結果を指定されたパラメータに設定します。



USB メモリ制御タイプ

『デバイス接続チェック / マウント / アンマウント / フォーマット / USB メモリサイズ [byte] 取得 / USB メモリ空き容量 [byte] 取得 / USB メモリ空き容量 [%] 取得』の選択を行います。
この時、結果を指定されたパラメータに設定します。



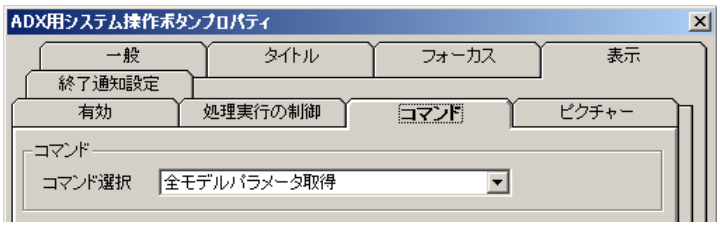
電源 OFF

ボタンが押されると、ターゲット側の電源が切れます。

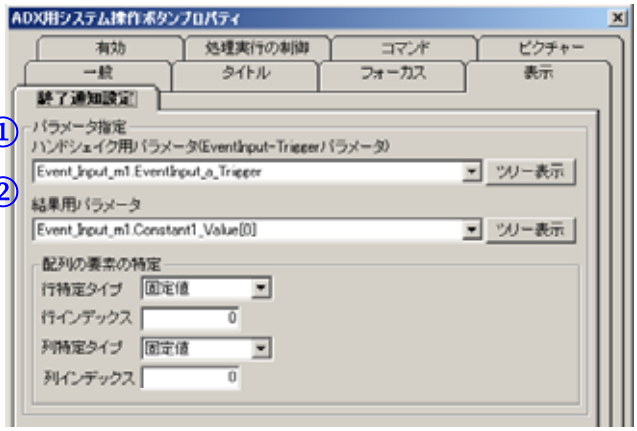
ここにチェックを入れると、システム操作ボタンを押した際、
シャットダウンを行うかどうかの確認メッセージを出すか否かを選択することができます。

全モデルパラメータ取得

現在のパラメータ表示を最新の値に更新します。



3.1.23.2. 『終了通知設定』タブ



[パラメータ設定]

① ハンドシェイク用パラメータ

システム操作タイプが USB メモリ制御の時に有効になります。

[デバイス接続チェック / マウント / アンマウント / フォーマット / 容量取得 / 空き容量取得[byte] / 空き容量取得[%]]の場合、処理終了時に 0 以外の値が設定されるパラメータ(EventInput の Trigger)。

処理開始時に 0 に戻したりはしません。

② 結果設定パラメータ

システム操作タイプが USB メモリ制御の時に有効になります。

ハンドシェイク用パラメータが指定されているときは

ハンドシェイク用パラメータより先に、このパラメータに対して設定して下さい。

範囲:整数型、実数型のパラメータ名

デバイス接続チェック：

0：検知した
1：コマンド実行中
2：USB サポートの機種ではない
3：他の USB コマンド実行中
4：検知できない

マウント：

0：マウント成功
1：コマンド実行中
2：USB サポートの機種ではない
3：他の USB コマンド実行中
4：メディア中のパーティションテーブルまたはパーティションのフォーマットが不正
5：メディアが検知できなかった

アンマウント：

0：アンマウント成功
1：コマンド実行中
2：USB サポートの機種ではない
3：他の USB コマンド実行中
4：アンマウント失敗(パーティション使用中)

フォーマット：

0：成功
1：コマンド実行中
2：USB サポートの機種ではない
3：他の USB コマンド実行中
4：パーティション作成に失敗(メディア不良、接触不良、...)
5：メディアが検知できなかった
6：システムに既にマウントされているので、フォーマット出来ない

容量/空き容量取得：

容量値：マウントされていない又は USB をサポートしていない場合は 0

3.1.24. ADX ダイアログ表示ボタン

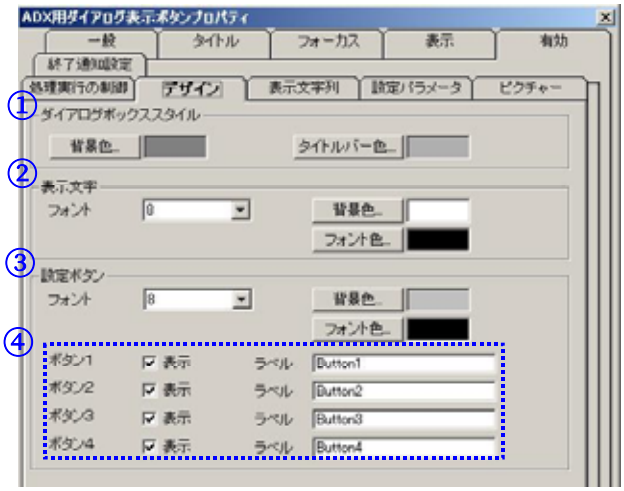
ダイアログ表示ボタンの設定を行います。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.24.1. 『デザイン』タブ

表示させるダイアログボックスのデザインを行います。



[ダイアログボックススタイル]

① ダイアログボックススタイル

背景色...、**タイトルバー色...** **ボタン**

ダイアログボックスの背景色及びタイトルバー色を設定します。

[表示文字]

② 表示文字

フォント、背景色...、フォント色... **ボタン**

表示させる文字列のフォント、フォント色および表示領域の背景色を設定します

[設定ボタン]

③ 設定ボタン

フォント、背景色...、フォント色... **ボタン**

ダイアログボックス中のボタンのラベルフォント、フォント色およびボタンの色を設定します

④ 表示とラベル

表示の横のチェックボックスでそれぞれのボタンの**表示/非表示**を選択します。
チェックを入れると表示します。
チェックを外すと非表示になります。
また、ラベルの所でそれぞれのボタン名を入力します。

3.1.24.2. 『表示文字列』タブ

ダイアログボックス中に表示させる文字列の設定を行います。

[表示文字列]

① 文字列タイプ

『固定値 / データ』から選択します。

固定値

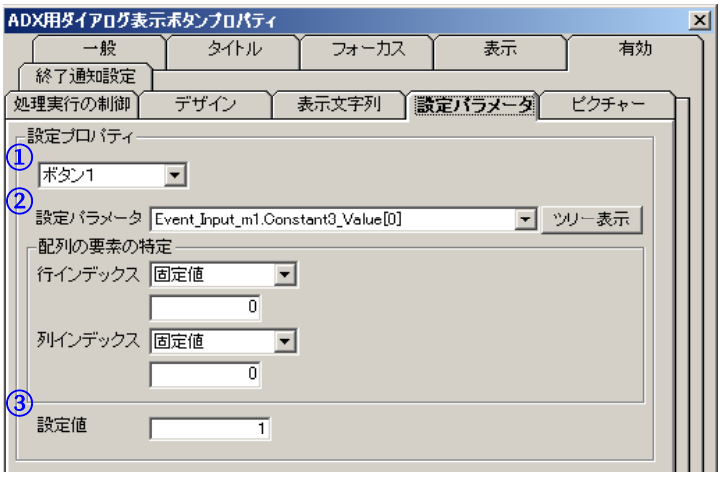
『指定文字列』の欄に表示する文字を入力します。

データ

表示する文字列を持ったデータをリスト、または ツリー表示 ボタンから指定します。
文字列型(Char 型)もしくは選択型(Select 型)のデータが指定可能です。

3.1.24.3. 『設定パラメータ』タブ

ダイアログボックス中のボタンの設定を行います。



[設定プロパティ]

① 設定ボタン

どのボタンに対しての設定をするのか選択します。

② 設定パラメータ

①で設定したボタンを押した時に、③で設定した値を渡す先のパラメータをリスト、
または ツリー表示 ボタンから選択します。

③ 設定値

①で設定したボタンを押した時に、②で設定したパラメータに渡すデータの値を設定します。

3.1.25. ADX 文字列作成

モデルからのイベントにより、モデルの持つ情報(データ・パラメータ）を定義ファイルにしたがって文字列にして

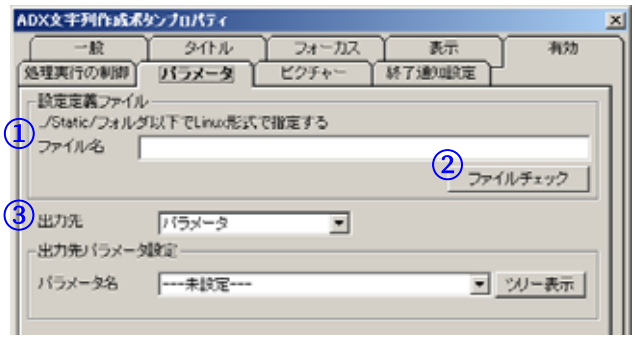
① 文字配列パラメータに設定する
② ファイルに書き出す
③ ファイル名にする

という機能を持ったコントロールです。

- **『一般』**タブ
- **『タイトル』**タブ
- **『フォーカス』**タブ
- **『表示』**タブ
- **『有効』**タブ
- **『処理実行の制御』**タブ
- **『ピクチャー』**タブ
- **『終了通知設定』**タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.25.1. 『パラメータ』タブ



[設定定義ファイル]

① ファイル名

出力する文字列の内容(フォーマット)は、定義ファイル(以下に説明)を作成し、それを指定します。
定義ファイルについて定義ファイルは CSV 形式とします。
コメントは許可しません。
変換タイプを指定することにより出力する文字列、出力の仕方を選択することができます。
本コントロールで指定できる変換タイプについて次の表に示します。

変換タイプ (1 項目目)	説明
Fixed	固定文字列。2 項目目で指定した文字列をそのまま出力する。
CRLF	CRLF を出力する。
Date	システムのデフォルトフォーマットで現在の日付・時刻を出力する。
Data	2 項目目で指定された Ｄａｔａの内容をそのまま出力する。 Char 型を除く、配列以外のデータの指定を許可する。(Char 型は配列も可)
Param	2 項目目で指定されたパラメータの内容を文字として扱い、そのまま出力する。 Char 型をのぞく、配列以外のパラメータの指定を許可する。(Char 型は配列も可)

Type1

2 行目以降に上記の変換タイプを指定するための記述をします。
変換タイプの指定には、決められた書式にしたがって記述を行う必要があります。
次の表に各変換タイプを指定する際の書式について示します。

変換タイプ	書式
Fixed	Fixed,(文字列)
CRLF	CRLF
Date	Date
Data	Data,(データ名)
Param	Param,(パラメータ名)

定義ファイル具体例

定義ファイルとその出力結果の具体例を示します。

定義ファイル(行番号　は拡張のための文字列)

```
Type1                                          ①
    Fixed, ¥VC¥CADX_1¥fixedtest.txt            ②
    CRLF                                       ③
    Date                                       ④
    CRLF
    Data,main_test_DoubleValueConst            ⑤
    CRLF
    Data,main_test_CharArrayValueConst[0]      ⑥
    CRLF
    Param,main_test_CharValueConst_Value       ⑦
    CRLF
    Param,main_test_LongValueConst_Value       ⑧
```

出力ファイル(括弧内の番号は定義ファイルの行番号と対応する)

```
¥VC¥CADX_1¥fixedtest.txt        (②固定文字列の出力)(  改行)
Tue Feb 24 14:09:23 2004        (④日付・時刻の表示)
1.00000                         (⑤Data(main_test_DoubleValueConst)の表示)
test.txt                        (⑥Data(main_test_CharArrayValueConst[0])の表示)
B                               (⑦Param(main_test_CharValueConst_Value )の表示)
1                               (⑧Param(main_test_LongValueConst_Value)の表示)
```

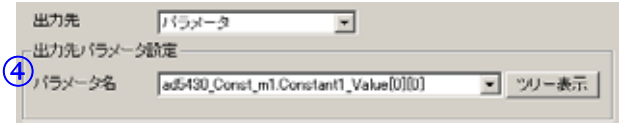
② ファイルチェック

定義ファイルの内容で動作するので、定義ファイルの内容が不正な場合は正常に動作しません。
そこで**『定義ファイルチェック』**ボタンをプロパティ設定画面上におき、
パラメータの有無等、定義ファイルの内容をチェックできるようにします。
問題があったときは、その行数と行の内容を表示します。

③ 出力先

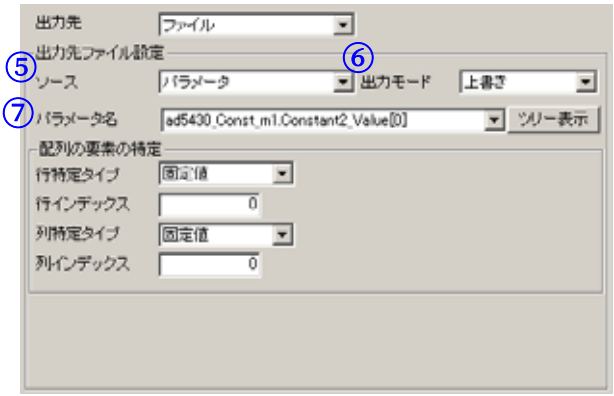
設定定義ファイルで指定した文字列を出力する先を選択します。
出力先は次の中から選択して下さい。
出力先：**パラメータ / ファイル / データファイル名**

出力先がパラメータの時



④ **パラメータ名**
出力先のパラメータ名で、Char 型の配列パラメータだけが設定可能です。
ただし、設定されるのはパラメータの文字列数分のみです。

出力先がファイルの時



⑤ **ソース**
出力先がファイルの時のみ設定が可能です。
選択肢：**固定** / **データ** / **パラメータ**

⑥ **出力モード**
出力時にファイルに上書きするか追記するかを設定します。
選択肢：**上書き** / **追記**

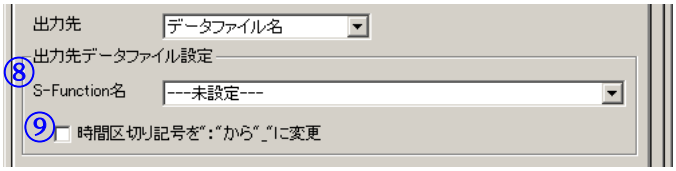
⑦ **パラメータ名(or データ or ファイル名)**
『ソース』で選択した指定方法に応じてファイル名を指定します。

『ソース』が固定の時
VC フォルダ以下のファイル名を指定します。

『ソース』がデータの時
モニタデータをリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。
出力ファイルのフルパス名を指定するシグナルが表示されます。
Char 型の配列か Select 型のシグナルだけ設定可能です。

『ソース』がパラメータの時
パラメータをリスト、または ツリー表示 ボタンから選択します。
Char 型の配列パラメータか Select 型のパラメータだけが選択可能です。

出力先が『データファイル名』の時



⑧ S-Function 名

出力先データファイルの識別子である S-Function 名を選択して設定します。

⑨ 時間区切り記号を“ : ”から“ _ ”に変更

チェックを ON に設定すると時間を示す“ : ”記号を“ _ ”に変更します。

例) Tue Feb 24 14:09:23 2004 → Tue Feb 24 14_09_23 2004

3.1.25.2. 『処理実行の制御』タブ

本コントロールは処理実行の制御設定に以下の項目が存在します。

[Enter 実行時のパネル制御]

親パネルに戻る

ボタン押下もしくはイベント受信による処理実行後に、
本コントロールが置かれているパネルに親パネルが存在する場合は、そのパネルを表示します。

上記以外の『処理実行の制御』タブの内容については、『3.1.1.6　『処理実行の制御』タブ』をご参照下さい。

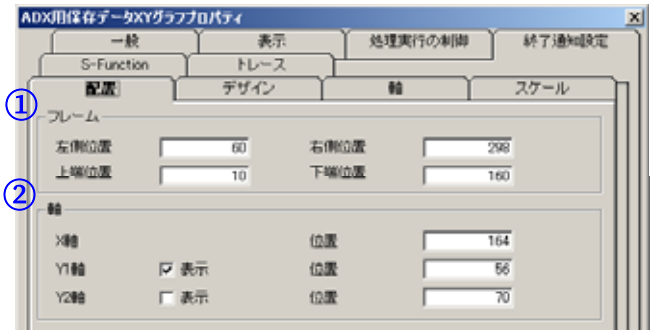
3.1.26. ADX 用保存データ XY グラフ

MD で設定したデータをグラフ表示します。
- 『一般』タブ
- 『表示』タブ

については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.26.1. 『配置』タブ

ADX 用保存データ XY グラフのサイズやスタイルを指定します。



[フレーム]

① フレーム

[左端位置]、[右端位置]、[上端位置]、[下端位置]によりグラフ表示部(フレーム）の位置・大きさを設定します。

[軸]

② 軸

X 軸

X 軸の位置を指定します。
入力値はトレンドグラフコントロールの上端からの長さです。

Y1 軸、Y2 軸

『表示』のチェックボックスで、軸の表示/非表示を選択します。
『位置』で Y 軸の位置を指定します。
入力値は保存データ XY グラフコントロールの左端からの長さです。

3.1.26.2. 『デザイン』タブ

[フレーム]

① フレーム色...、枠内色... ボタン

フレーム色・枠内色を指定します。

[グリッド]

② グリッド表示、グリッド色... ボタン

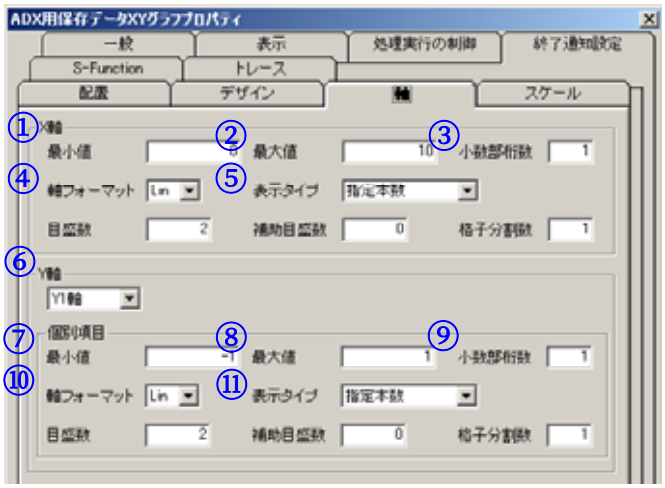
グリッド表示をするか否か、およびグリッド色を指定します。

[軸]

③ 軸

目盛フォントと目盛フォント色を指定します。

3.1.26.3. 『軸』タブ



[X 軸]

① 最小値

X 軸の目盛の最小値です。
軸フォーマットが Log のときは 0 より大きい値を入力して下さい。

② 最大値

X 軸の目盛の最大値を指定します。

③ 小数部桁数

X 軸ラベルの小数点以下の桁数を指定します。

④ 軸フォーマット

X 軸がリニア表示か Log 表示かを選択します。

⑤ 表示タイプ

目盛の表示タイプを選択します。

リニア時

指定本数 ： 指定本数で等間隔に目盛を表示します。
目盛数 ： 最小値、最大値を含めた目盛本数を入力します。
補助目盛数 ： 上記目盛の間に表示する目盛の数を入力します。
格子分割数 ： グラフ内をグリッドで分割する数を入れます。
指定値単位 ： 基準値から設定された間隔で目盛を表示します。
基準値 ： 目盛の始点となる基準の X 軸の値を入力します。
間隔 ： 基準値から目盛表示させたい間隔値を入れます。
補助目盛数 ： 上記目盛間隔の間に表示する目盛の数を入力します。

Log時

10 系 ：1,2,3,…10,20,30,…100,200,300…と対数グラフと同様に目盛が表示します。
2-5 系 ：上位桁が 2 と 5 のみ目盛が表示します。
補助メモリ無し ：目盛を表示しません。

[Y 軸]

⑥ Y 軸の切り替え

Y1 軸と Y2 軸の設定の切り替えを行います。

⑦ 最小値

Y 軸の目盛の最小値です。
軸フォーマットが Log のときは 0 より大きい値を入力して下さい。

⑧ 最大値

Y 軸の目盛の最大値を指定します。

⑨ 小数部桁数

Y 軸ラベルの小数点以下の桁数を指定します。

⑩ 軸フォーマット

Y 軸がリニア表示か Log 表示かを選択します。

⑪ 表示タイプ

目盛の表示タイプを選択します。

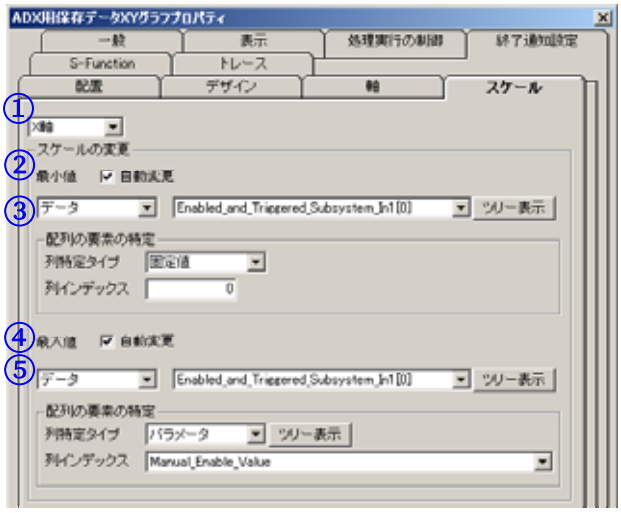
リニア時

指定本数	：指定本数で等間隔に目盛を表示します。
目盛数	：最小値、最大値を含めた目盛本数を入力します。
補助目盛数	：上記目盛の間に表示する目盛の数を入力します。
格子分割数	：グラフ内をグリッドで分割する数を入力します。
指定値単位	：基準値から設定された間隔で目盛を表示します。
基準値	：目盛の始点となる基準の Y 軸の値を入力します。
間隔	：基準値から目盛表示させたい間隔値を入力します。
補助目盛数	：上記目盛間隔の間に表示する目盛の数を入力します。

Log時

10 系	：1,2,3,…10,20,30,…100,200,300…と対数グラフと同様に目盛が表示します。
2-5 系	：上位桁が 2 と 5 のみ目盛が表示します。
補助メモリ無し	：目盛を表示しません。

3.1.26.4. 『スケール』タブ



① 軸選択
『X 軸 / Y1 軸 / Y2 軸』のいずれかを選択します。

[スケールの変更]

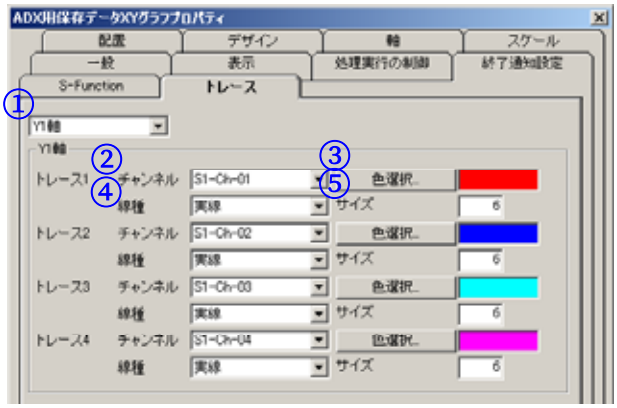
② 最小値自動変更
チェックするとモデルから最小値を制御可能になります。

③ データタイプ選択
モデルのデータ値を取得するか固定値にするか選択します。
モデルからの場合、データ名を選択し、そのデータが配列の場合、配列のパラメータを設定します。

④ 最大値自動選択
チェックするとモデルから最大値を制御可能になります。

⑤ データタイプ選択
モデルのデータ値を取得するか固定値にするか選択します。
モデルからの場合、データ名を選択し、そのデータが配列の場合配列のパラメータを設定します。

3.1.26.5. 『トレース』タブ

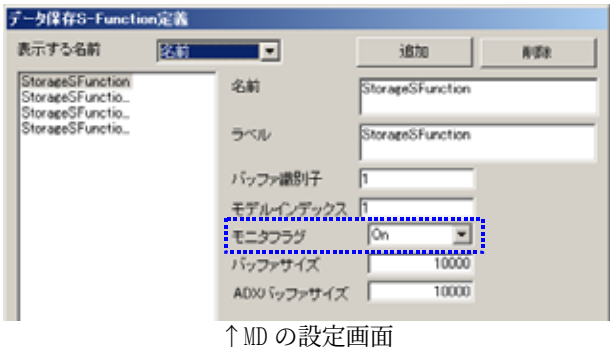


① 軸選択

『Y1 軸 / Y2 軸』のいずれかを選択します。
軸を選択した後、以下の設定を行います。

② チャンネル

トレースするシグナルデータをポップアップから選択します。
MD の保存 S-Function 定義でモニタフラグを ON に設定した場合に設定が有効です。



↑MD の設定画面

③ 色選択

それぞれのトレースに対して色の選択をします。

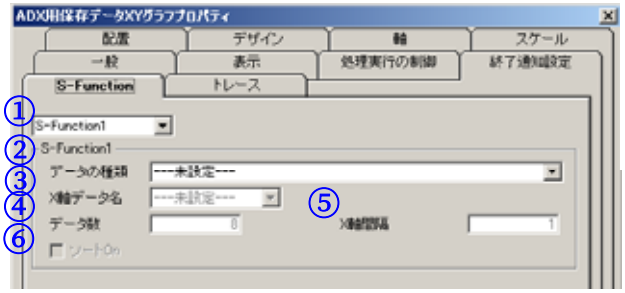
④ 線種

トレースの線の種類を実線のみにするか、マーカーのみにするか、実線+マーカーにするかを選択します。
[実線 / 実線+- / 実線+○ / 実線+● / 実線+□ / 実線+■ / -のみ表示 / ○のみ表示 / ●のみ表示 / □のみ表示 / ■のみ表示]から選択

⑤ サイズ

マーカーのサイズを選択します。

3.1.26.6. 『S-Function』タブ

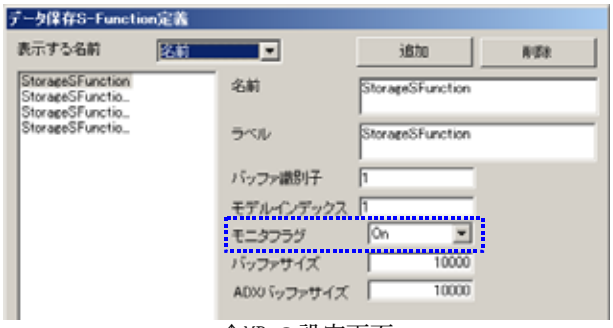


① S-Function 選択

設定を行う S-Function 1 ～ 2 を選択します。
MD のデータ保存 S-Function 定義でモニタフラグを ON に設定した場合に設定が有効です。

② (各 S-Function の項目)データの種類

データソースとして使用する S-Function 名です。
MD のデータ保存 S-Function 定義画面のモニタフラグが ON の状態の保存 S-Function 名が表示されます。



↑MD の設定画面

③ (各 S-Function の項目)X 軸データ名 チャンネル

S-Function に属する ch 名を指定します。
選択した ch を X 軸のデータとして設定します。
『トレース』の設定で、この任意の S-Function に属する他の ch を Y 軸データの取得先と設定した場合は、
X 軸データはこのファイルの X 軸データ名として指定された ch のデータとしてグラフ上に描画されます。
S-Function 名が未設定以外の場合に有効です。
表示されるチャンネル名は、S-Function1 選択時は S1-Chxx、S-Function2 選択時は S2-Chxx と表示
(xx は 1 から始まる連番)となります。

④ (各 S-Function の項目)データ数

S-Function に属する ch の数を指定します。
モデルのブロックの ch 数と必ずしも一致しなくても構いません。
データ数の指定数によって、トレースのデータ名と X 軸データ名の表示個数が変更されます。

⑤ (各 S-Function の項目)X 軸間隔

X 軸データ名が未設定の場合に X 軸データはこの X 軸間隔の値で作成されます。
S-Function 名が未設定以外で X 軸データ名が未設定の場合に設定が有効です。
ただし、その場合、X 軸データは 0 から開始します。

⑥ (各 S-Function の項目)ソート ON

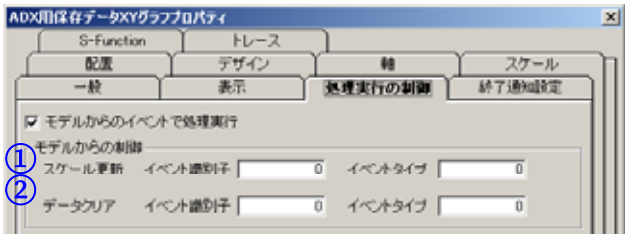
取得した X 軸データのソートを切り替えます。
S-Function 名が未設定以外の場合有効です。
ソートを ON した場合は戻り線を表示しません。

3.1.26.7. 『処理実行の制御』タブ

モデルからのイベントにより機能の制御を行います。
イベント発行するブロック(EventOutput)のイベント識別子とイベントタイプを設定することにより関連付けされます。
モデルからのイベントにより実行される機能は以下の通りです。

- **スケール更新**
- **データクリア**

ただし、上記 2 つの機能に同一のイベント識別子とイベントタイプを設定した場合、動作は保証されません。



[モデルからの制御]

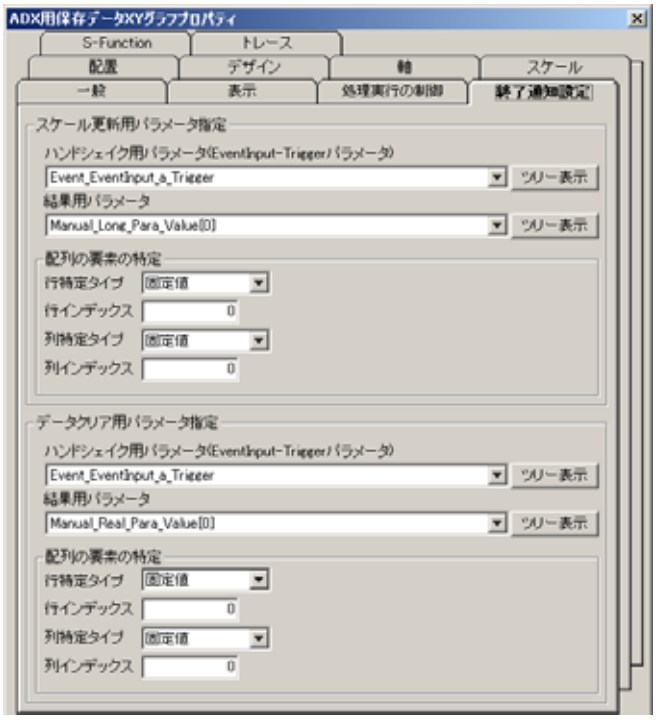
① スケール更新

イベント受信時、『3.1.26.4 『スケール』タブ』の設定にしたがって、グラフのスケールを更新します。

② データクリア

表示されているトレースをクリアします。

3.1.26.8. 『終了通知設定』タブ



スケール更新イベントとデータクリアイベントに対し、それぞれに終了通知設定を行う事が出来ます。

この設定内容については、『3.1.1.8 『終了通知設定』タブ』をご参照下さい。

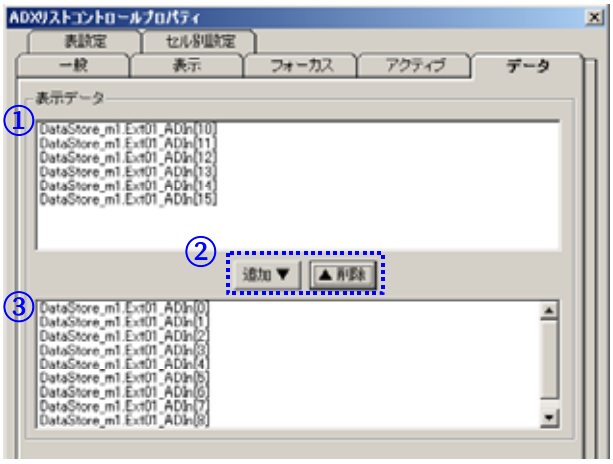
3.1.27. ADX リストコントロール

リスト形式で複数の実数型・整数型のモニタデータを表示させます。
データが配列の場合は、個別のデータとして表示します。

- 『**一般**』タブ
- 『**表示**』タブ
- 『**フォーカス**』タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.27.1. 『データ』タブ



[表示データ]

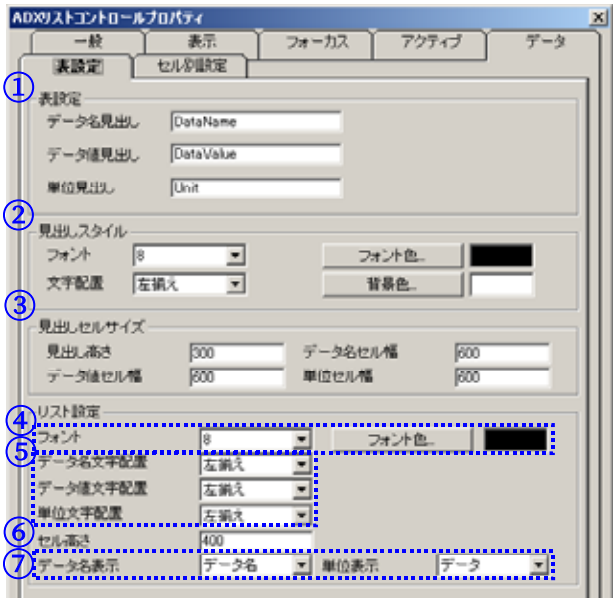
① リスト表示できるモニタデータを格納しているリストボックス
リストデータとして使用できるモニタデータを表示しています。

② 追加・削除ボタン
リストに表示させるモニタデータを選択するときに使用します。

追加▼	ボタンを押下すれば①で選択されたデータ名が③に、
▲削除	ボタンを押下すれば③で選択されたデータ名が①に移動します。

③ リスト表示させるモニタデータを格納しているリストボックス
リストに表示させるモニタデータを表示しています。

3.1.27.2. 『表設定』タブ



パネルリスト

データ名	データ値	単位	← 見出し
Signal_1	0.1	mm	← リスト
Signal_2	1.25	mg	
Signal_3[0]	15	V	
Signal_3[1]	100	V	
Signal_3[2]	25	V	

[表設定]

① データ名見出し・データ値見出し・単位見出し

リストの各列の見出しタイトルを設定します。

[見出しスタイル]

② フォント、フォント色... ボタン、文字の配置、背景色... ボタン

見出しのフォント、フォント色、文字の配置、背景色を設定します。

[見出しセルサイズ]

③ 見出し高さ、データ名セル幅、データ値セル幅、単位セル幅

見出しセルの高さおよびデータ名、データ値、単位のそれぞれのセル幅を設定します。

[リスト設定]

④ フォント、フォント色... ボタン

リスト部のフォントとフォント色を設定します。

⑤ データ名文字配置、データ値文字配置、単位文字配置

データ名・データ値・単位列のそれぞれの文字配置を設定します。

⑥ セル高さ

リスト部のセルの高さを設定します。

⑦ データ名表示・単位表示

データ名、単位の表示の仕方を選択します。

データ名

『データ名 / データラベル / 指定文字列』から選択します。

データ名、データラベルはモデル定義で設定されています。

指定文字列を選択すると、[セル別設定]タブのデータ名表示に記述された文字列を表示します。

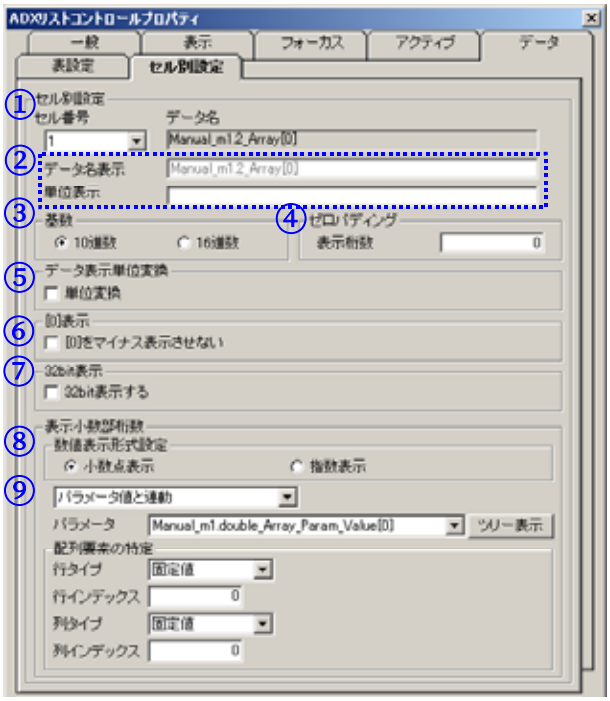
単位名

『データ / 指定文字列』から選択します。

データはモデル定義で設定されています。

指定文字列を選択すると、[セル別設定]タブの単位表示に記述された文字列を表示します。

3.1.27.3. 『セル別設定』タブ



[セル別設定]

① セル番号・データ名

リスト表示させるデータの登録順に１からセル番号が振られコンボボックスに登録されます。
セル番号に対応するデータ名が表示されます。
以後の機能は、このセル番号のデータごとの設定になります。

② データ名表示・単位表示

表設定の『データ名表示』『単位表示』だった場合、
ここに記述されている文字列をデータ名・単位としてリストに表示させます。
それ以外の場合は、表設定のそれぞれの項目に対応した文字列が入力不可状態で表示されます。

[基数]

③ 基数

データ値を 10 進数または 16 進数で表示させます。
16 進数を選択すると、『データ表示単位変換』『32bit 表示(モニタデータによる)』のみ設定できます。

④ ゼロパディング

データ値の桁数を設定し、データ値が設定桁数より少ない場合は、空白の部分を 0 に置き換えます。
最大 10 桁までです。

[データ表示単位変換]

⑤ データ表示単位変換

単位変換のチェックを ON にすると『表示倍率』『オフセット』の入力欄が表示されます。
リストに表示される値は以下のようになります。

リストに表示される値 = モニタデータ値 × 表示倍率 ＋ オフセット

[『0』表示]

⑥ 『0』表示

モニタデータが実数型の場合に表示されます。
各列の関連付けされた設定パラメータのデータ型が実数型の場合、
表示小数部桁数で丸めると、０をマイナス 表示する場合があります。
例えば表示小数部桁数が『2』でパラメータ値が『-0.0005』だとすると、
丸めると『-0.00』 という表示になります。
これを強制的に『0.00』という表示にする機能です。

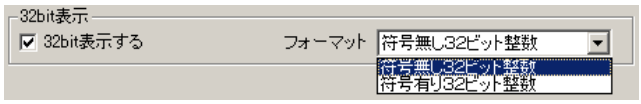
[32bit 表示]

⑦ 32bit 表示する

モニタデータが 1 行 2 列の配列の場合に表示されます。
このチェックを ON にすると、モニタデータ値を 32bit 表示させます。
またモニタデータが整数型の場合、『符号付き・符号なし』の選択画面が表示されます。

【注意】

この機能は、GeneralBlockSet(Ver1.5.0 以上)の
32bit 整数分割ブロック S-Function(sf_IntSeparator)から出力されるデータに対してのみ、適用して下さい。
その他の場合は、正しく表示されません。



符号つき整数の表示範囲は-2147483648 ～ 2147483647、
符号なし整数の表示範囲は 0 ～ 4294967295、
16 進表示時は 0xh ～ FFFFFFFFxh までで、
その範囲外の場合は“########”と表示されます。

[表示小数部桁数]

⑧ 数値表示形式設定

モニタデータ値の少数値を小数点表示か指数表示か選択します。
指数表示を選択すると、ゼロサプレス機能が使えなくなります。

⑨ 表示小数部桁数

モニタデータが実数の場合に表示されます。
表示小数部桁数は**『ユーザー定義 / モデル定義と連動 / データ値と連動 / パラメータ値と連動』**から選択します。

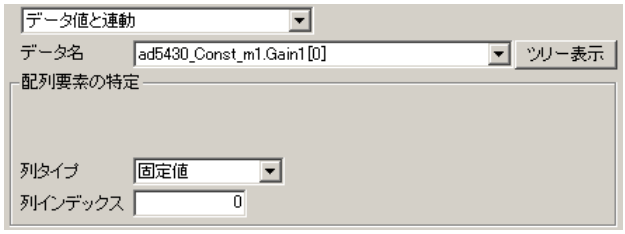
ユーザー定義

小数部桁数を 0 ～ 10 までで選択して下さい。

モデル定義と連動

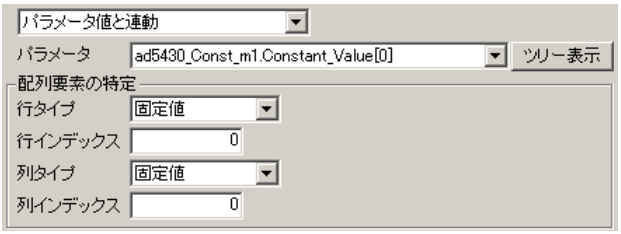
モデル定義に設定された小数部桁数に連動します。

データ値と連動



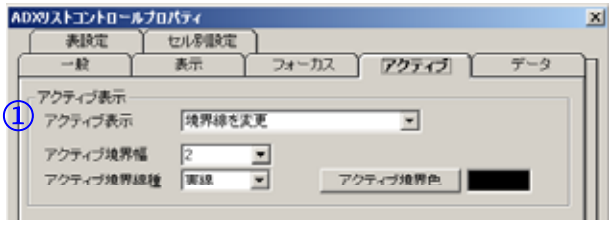
モニタデータ名に設定されたデータ値に連動します。
このデータ値が配列だった場合は、配列要素の特定を行います。

パラメータ値と連動



パラメータ名に設定されたパラメータ値に連動します。
このパラメータ値が配列だった場合は、配列要素の特定を行います。

3.1.27.4. 『アクティブ』タブ



[アクティブ表示]

アクティブ時のコントロール表示設定を行います。

① アクティブ表示

『境界線を変更 / 背景色を変更 / 境界線と背景色を変更』から選択します。

境界線を変更

コントロールがアクティブ時の境界線を指定します。
『アクティブ境界幅』『アクティブ境界線種』『 アクティブ境界色... 』 ボタンで
アクティブ時の境界線を指定することができます。

背景色を変更

コントロールがアクティブ時の背景色を指定します。
『背景色を変更』を選択すると『 アクティブ背景色... 』 ボタンが表示され、
アクティブ時の背景色を指定できるようになります。

境界線と背景色を変更

コントロールアクティブ時境界線と背景色の両方を指定します。

3.1.28. ADX オシロスコープグラフ

2D データをグラフ表示します。
グラフで表示できるデータは 1 トレースあたり 100kData です。
100kData を超えると古いデータから削除されます。
データ数はモデル定義ユーティリティで変更可能です。

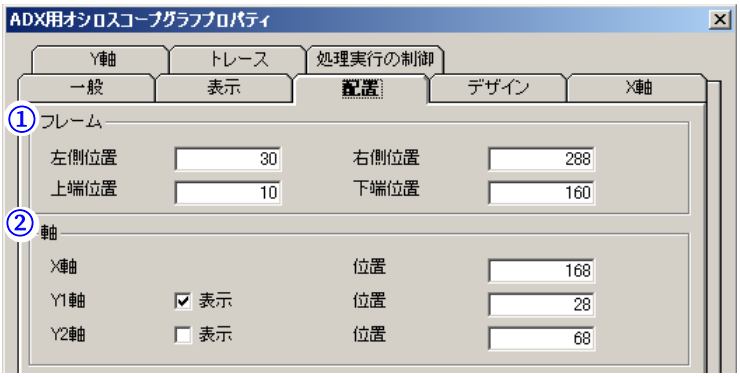
【注意】
多数 ch の 2D 表示を ON にしておくと、バッファオーバーランの原因になります。
ご注意下さい。

高速サンプリングで、データの傾向のみを見たい場合は、2D データを間引くことが有効です。
2D 表示データの間引きは、
『設定(S)』－『システムコードパラメータの設定』－『個別』－『モニタ時系列間引き数』
にて設定することが可能です。

- **『一般』**タブ
- **『表示』**タブ

の詳細については、『3.1.1　ADXコントロール共通項目』をご参照下さい。

3.1.28.1. 『配置』タブ



[フレーム]
① フレーム

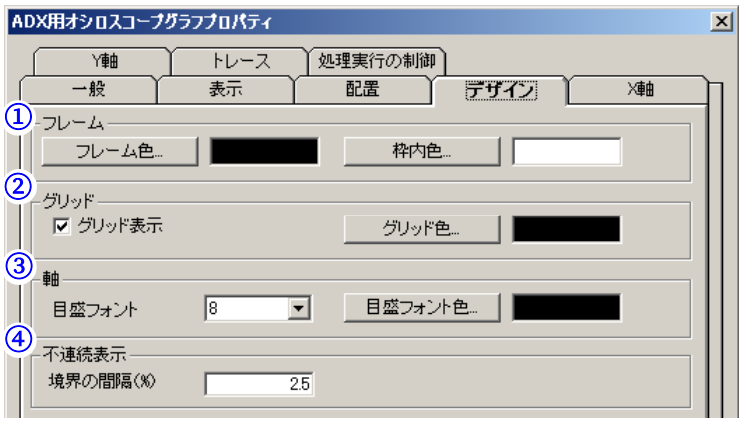
- 左端位置
- 右端位置
- 上端位置
- 下端位置

によりグラフ表示部(フレーム)の位置、または大きさを設定します。

[軸]
② 軸
X 軸の位置を指定します。
入力値はオシロスコープグラフコントロールの上端からの距離をピクセルで指定します。
Y1 軸、Y2 軸「表示」のチェックボックスより、軸の表示/非表示を選択します。
『位置』にて Y 軸の位置を指定します。
入力値はオシロスコープグラフコントロールの左端からの距離をピクセルで指定します。

3.1.28.2. 『デザイン』タブ

フレーム・グリッド・軸に関するスタイルの設定を行います。



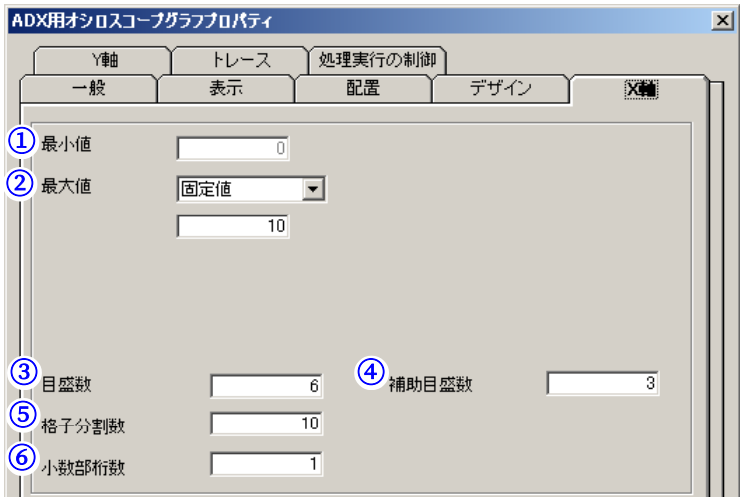
[フレーム]
① フレーム
フレーム色・枠内色を指定します。

[グリッド]
② グリッド
グリッド表示をするか否かとグリッド色を指定します。

[軸]
③ 軸
目盛フォントと目盛フォント色を指定します。

[不連続表示]
④ 不連続表示
グラフの境界の間隔を指定します。

3.1.28.3. 『X 軸』タブ



① 最小値
X 軸の目盛の最小値です。
この値は 0 固定です。

② 最大値
固定値かデータを選択し、X 軸の目盛の最大値を指定します。

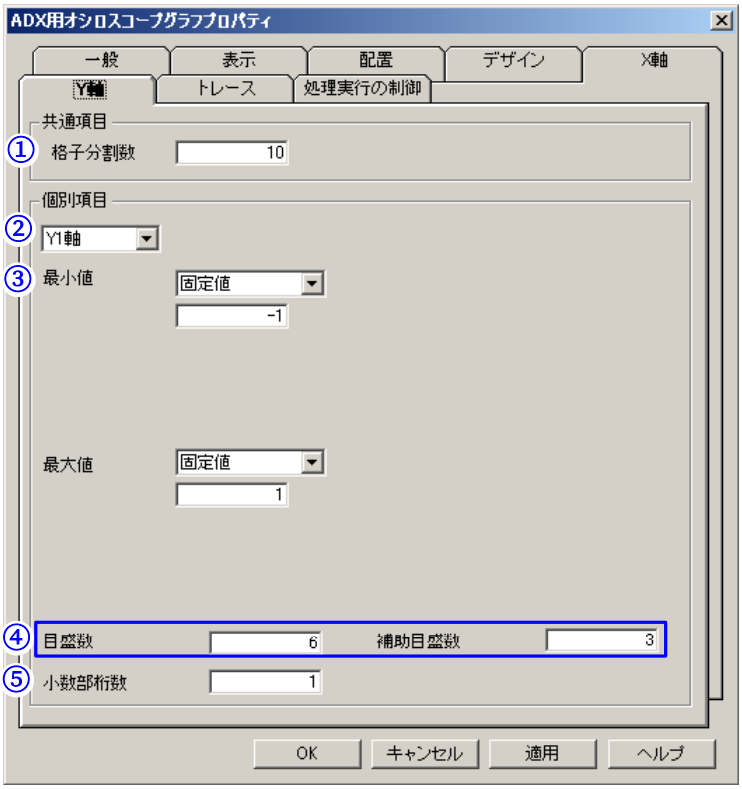
③ 目盛数
目盛数で設定した本数で等間隔に目盛を描画します。

④ 補助目盛数
補助目盛数で設定した本数で目盛の間を補助目盛で等間隔に描画します。

⑤ 格子分割数
格子により、最小値から最大値までを何分割するかを指定します。

⑥ 小数部桁数
目盛の小数部の桁数を指定します。
指定値以下の値は四捨五入されます。

3.1.28.4. 『Y 軸』タブ



[共通項目]

① 格子分割数

格子により、最小値から最大値までを何分割するかを指定します。
(Y1 軸、Y2 軸ともに共通)

[個別項目]

② 軸選択

以下の項目は Y1 軸、Y2 軸に対し個別に設定を行います。
左上のポップアップで軸を選択した後、以下の設定を行います。

③ 最小値・最大値

固定値かデータを選択し、Y 軸の目盛の最小値・最大値を指定します。

④ 目盛数・補助目盛数

Y 軸の最小値から最大値までの目盛の表示方法を指定します。
表示方法及び表示設定は X 軸と同じです。

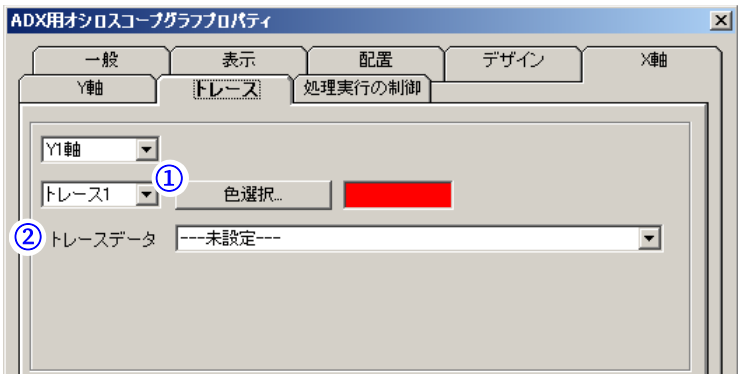
⑤ 小数部桁数

目盛の小数部の桁数を指定します。
指定値以下の値は四捨五入されます。

3.1.28.5. 『トレース』タブ

表示するデータについての設定を行います。

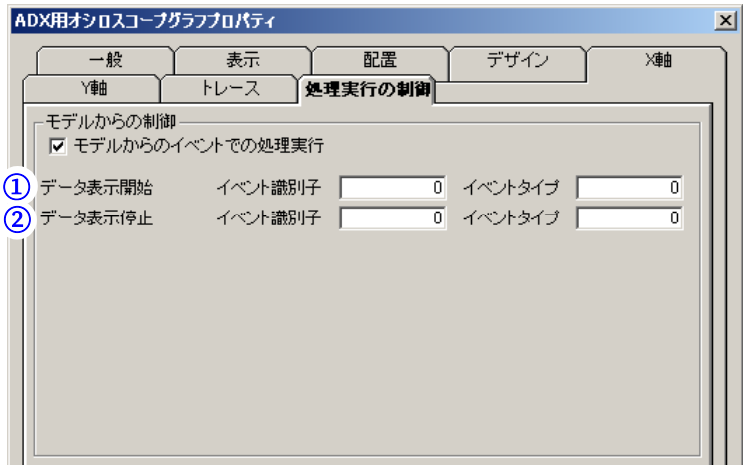
以下の項目は Y1 軸、Y2 軸に対し個別に設定を行います。
左上のポップアップで軸を選択した後、以下の設定を行います。



① 色選択
それぞれのトレースに対して色の選択をします。

② トレースデータ
トレースするシグナルデータをポップアップまたはツリー表示から選択します。

3.1.28.6. 『処理実行の制御』タブ



[モデルからの制御]

モデルからのイベントにより機能の制御を行います。

イベント発行するブロック(EventOutput)のイベント識別子とイベントタイプを設定することにより関連付けされます。
モデルからのイベントにより実行される機能は以下の通りです。

- データ表示開始
- データ表示停止

① データ表示の開始

データ表示が停止されていれば表示を開始します。
データ表示中であれば何もしません。

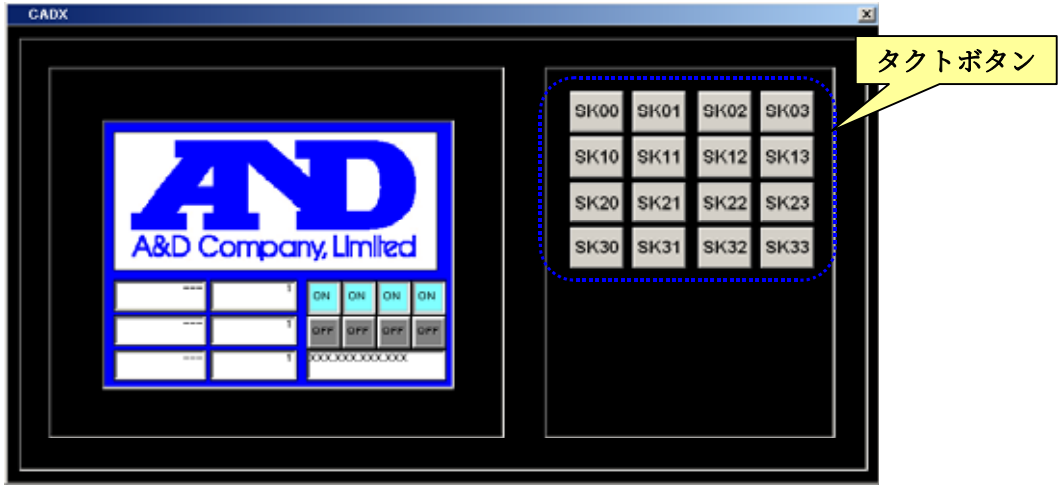
② データ表示の停止

データ表示中であれば表示を停止します。
データ表示が停止されていれば何もしません。

4. タクトボタンのカスタマイズ

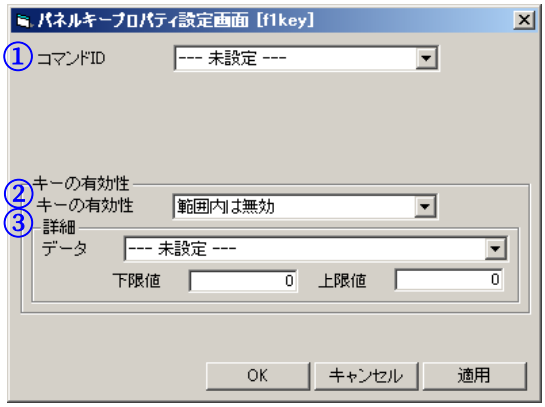
ターゲットのタクトボタンには固有の機能を割り当てることができます。
表示パネルを複数作成した場合、それぞれのパネル毎に Panel kye の機能を設定できます。
例えば、パネル 1 表示時の F1 キーとパネル 2 表示時の F1 キーにそれぞれ異なる機能を割り当てられます。

全ての SK00～SK33 ボタン(タクトボタン)に対して、自由に設定することができます。



4.1. パネルキープロパティ設定

指定の SK00～SK33(タクトボタン)にカーソルをあわせ右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。
『プロパティ』を選択すると、パネルキーのプロパティ設定画面が開きます。
プロパティ設定画面は全てのパネルキーについて同一のものです。



① コマンド ID
『ADX 表示パネル操作 / モデル制御 / パラメータ設定 / 特殊コマンド』から選択します。

[キーの有効性]
② キーの有効性
タクトボタン押下の有効/無効を設定します。
『常に有効 / 範囲内は無効 / 範囲内は有効 / 常に無効』から選択します。
『範囲内は無効』または**『範囲内は有効』**を選択した場合、
指定モニタデータの値によってコントロールの無効/有効を切り替えることができます。

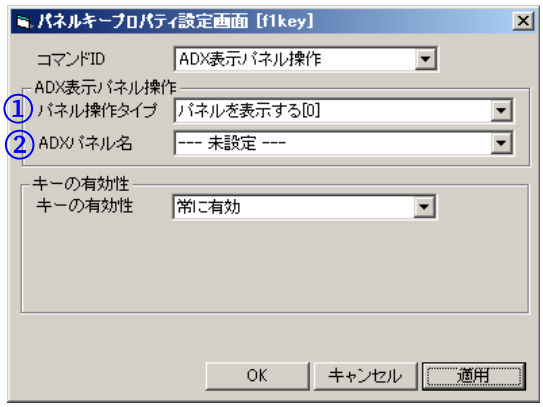
[詳細]
③ 詳細
② **『キーの有効性』**で**『範囲内は無効』**または**『範囲内は有効』**を選択した時に有効となります。

データ
無効 / 有効の判断を行うためのモニタデータの指定を行います。

下限値、上限値
コントロールの操作を無効または有効にするデータ値の下限値と上限値を指定します。

4.1.1. ADX 表示パネル操作

タクトボタンに表示パネル操作機能を割り当てます。
『3.1.3 ADX パネル制御ボタン』と同様の機能を有します。

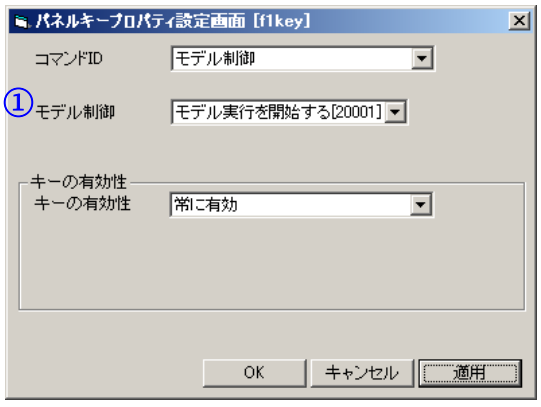


① パネル操作タイプ
『パネルを表示する[0] / 子パネルとしてパネルを表示する[1] / 親パネルに戻す[2]』から選択します。

② ADX パネル名
『パネルを表示する[0]＞もしくは＜子パネルとしてパネルを表示する[1]』を選択した場合に有効となります。
Panel kye(または Function kye)押下時に表示するパネルを指定します。
リストにはパネルのプロパティで設定した**『パネル名+[key]』**が表示されます。

4.1.2. モデル制御

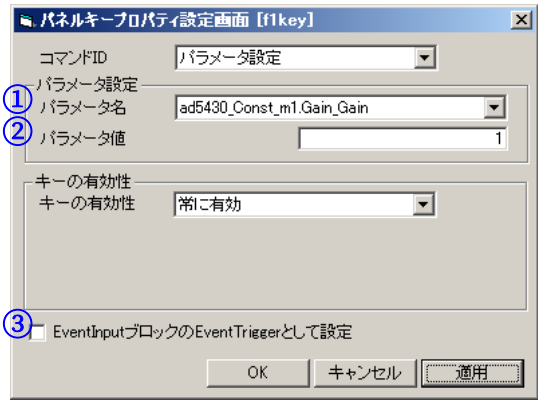
タクトボタンにモデル制御機能を割り当てます。
『3.1.2 ADX 用モデル制御ボタン』と同様の機能を有します。



① モデル制御
『モデル実行を開始する[20001] / モデル実行を終了する[20003]』から選択します。

4.1.3. パラメータ設定

タクトボタンにパラメータ設定機能を割り当てます。



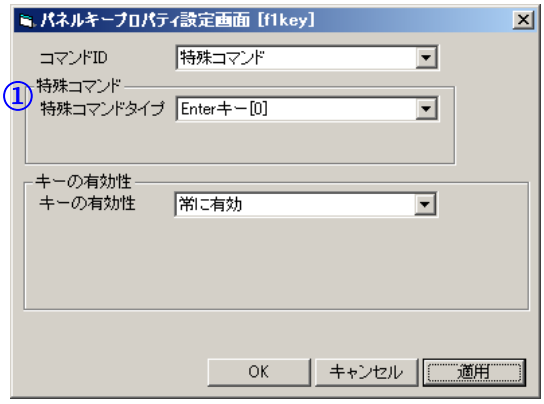
① パラメータ名
設定するパラメータをリストから選択します。
配列パラメータの指定はできません。

② パラメータ値
設定するパラメータ値を定数で指定します。

③ EventInput ブロックの EventTrigger として設定
チェックボックスをチェックすると、モデルの『EventInput』S-Function の Trigger としてパラメータに 1 を設定します。

4.1.4. 特殊コマンド

タクトボタンに特殊機能を割り当てます。



① [特殊コマンドタイプ]
タクトボタンの機能を 10 種類のコマンドタイプから選択できます。

Enter キー[0]
タクトボタンを**『Enter キー』**に設定します。

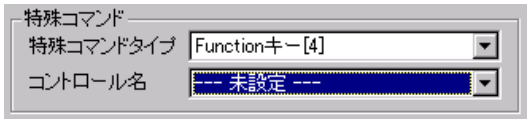
ESC キー[1]
タクトボタンを『ESC キー』にします。

BackSpace キー[2]
タクトボタンを**『BackSpace キー』**に設定します。

Clear キー[3]
タクトボタンを**『Clear キー』**に設定します。

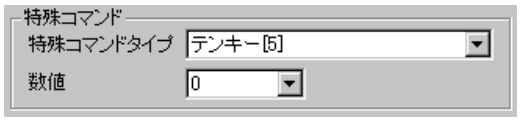
Function キー[4]

特殊コマンドタイプで**『Function キー[4]』**を選択した場合、**『コントロール名』**を指定できるようになります。
タクトボタンの機能を割り当てられたタクトボタンを押下することにより、
指定されたコントロールをアクティブ状態にすることができます。



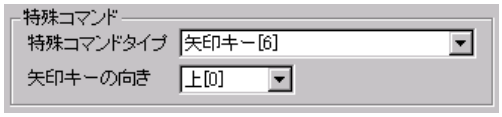
テンキー[5]

タクトボタンを**『テンキー』**にします。
特殊コマンドタイプで**『テンキー[5]』**を選択した場合、
タクトボタン押下時に入力する**『数値』**を指定できるようになります。
数値は**『0 ～ 9，＋，－』**から選択できます。



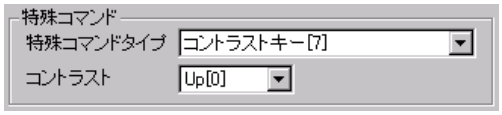
矢印キー[6]

タクトボタンを**『矢印キー』**に設定します。
特殊コマンドタイプで**『矢印キー[6]』**を選択した場合、
キー押下時にカーソルなどが移動する方向
『矢印キーの向き』を指定できるようになります。
矢印キーの向きは**『上[0] / 下[1] / 左[2] / 右[3]』**から選択できます。



コントラストキー[7]

タクトボタンを**『コントラストキー』**に設定します。
特殊コマンドタイプで**『コントラストキー[7]』**を選択した場合、
『コントラスト』の欄が表示されコントラスト Up/Down を指定できるようになります。
コントラストは**『Up[0] / Down[1]』**から選択できます。



アクティブキー[8]

タクトボタンを**『アクティブキー』**に設定します。
アクティブにしたいコントロールにフォーカスをあて、アクティブキーに設定したタクトボタンを押下することにより
そのコントロールをアクティブ状態にすることができます。

確定キー[9]

タクトボタンを**『確定キー』**にします。
数値入力コントロールなどをアクティブにして数値入力した後、
確定キーに設定したタクトボタンを押下することによって入力を確定することができます。

株式会社　エー・アンド・デイ

本社　〒170-0013　東京都豊島区東池袋 3-23-14　ダイハツ・ニッセイ池袋ビル

製品に関するご質問・ご相談窓口

受付時間　AM9:00～PM6:00　月曜日～金曜日(祝日、弊社休業日を除く)

営業所名	TEL	FAX
本　社 計量器・天秤・計測器・試験機	03-5391-6126(代)	03-5391-6129
札幌出張所	011-251-2753(代)	011-251-2759
仙台出張所	022-211-8051(代)	022-211-8052
東京営業課	03-5391-6128(直)	03-5391-6129
東京北営業所	048-592-3111(代)	048-592-3117
東京南営業所	045-476-5231(代)	045-476-5232
静岡出張所	054-286-2880(代)	054-286-2955
名古屋営業所	052-701-5681(代)	052-701-5683
大阪営業所	06-4805-1200(代)	06-4805-1201
広島営業所	082-233-0611(代)	082-233-7058
福岡営業所	092-441-6715(代)	092-411-2815

製品の技術問い合わせ・修理の受付窓口

受付時間　AM9:00～PM5:30　月曜日～金曜日(祝日、弊社休業日を除く)

工場・営業所名	住所	TEL	FAX
開発・技術センター　第 2FE 部 バージョンアップの受付	〒364-8585　埼玉県北本市朝日 1-243	048-593-1932	048-593-1483
開発・技術センター　開発推進部 技術問い合わせ		048-593-7403	048-593-1119

	DSP 製品に関するお問い合わせ窓口
E-Mail アドレス	and-dspsupport@aandd.co.jp

- 電話番号、ファクシミリ番号は、2009 年 6 月現在の情報を掲載してあります。
- 電話番号、ファクシミリ番号は、予告なしに変更される場合があります。

注意：電話のかけまちがいにご注意下さい。
番号をよくお確かめの上、おかけ下さるようお願い申し上げます。